
スマブラ×逃走中in大学キャンパス

リリカルショーバイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×逃走中 in 大学キャンパス

【NZコード】

N9420M

【作者名】

リリカルショーバイ

【あらすじ】

ある日の深夜、とある大学キャンパスにて恐怖と欲望が絡み合つ
逃走劇が幕を開ける！

北エリアと南エリアに分かれてのオープニングゲームを初め、様々なミッションが36人の逃走者に襲い掛かる！

果たして、140分間逃げ切り賞金を獲得する者は現れるのか！？

エリア配分&amo.逃走者紹介（前書き）

処女作となります。温かい目で見守つていただけないと嬉しいです

エリア配分&逃走者紹介

北エリア

ヨツシー

口に入る物なら何でも食べてしまう恐竜
足は結構速い

ドンキー コング

バナナが大好物のジャングルの王者

団体がでかい割に結構速い

クッパ

逃走者1の身体の大きさを誇る亀
賞金にかなり貪欲である

ピカチュウ

とてもすばしっこい黄色のネズミ
瞬発力ではハンターにも勝る（らしい・・・）

ルカリオ

波導の使い手

臨機応変に作戦を考えている

カービィ

大食い且つすばしっこいピンク玉
常に隠れ場所を探す臆病な一面も

デデデ

プロプランドの大王

足が非常に遅く持久力も無い

フォックス

スター フォックスのリーダー
抜群の瞬発力を誇る

ファルコ

スター フォックスのエースパイロット
かなりの行動派

ウルフ

スター ウルフのリーダー^{そな}
底知れぬ持久力を具えている

リンク

ハイラルの勇者
積極性がある

マルス

正義感の強い王子
瞬発力を生かしてゲームに挑む

アイク

クールな青年
意外にもビビりである

ロボット

片言を話す機械
機械的に逃走する

ネス

超能力少年

怖がりだが行動的である

ポボ

アイスクライマーの男の方

運はあまり無い

スネーク

隠密潜入のエキスパート

動かずに隠れている事が多い

ソニック

逃走者1の瞬発力を誇る青いハリネズミ

逃走成功の大本命

南エリア

マリオ

全てにおいて平均的な配管工の双子の兄
鬼ごっこは基本的に得意としている

ルイージ

永遠の2番手と揶揄される配管工の双子の弟
かなりのビビりである

ピーチ

キノコ王国の姫

足の遅さは行動でカバーする

ワリオ

マリオの永遠のライバル
足はかなり遅い

ディディーコング

ドンキーロングの弟分

小柄で足は速い方

プリン

小柄な風船ポケモン

隠れるのは得意だが足は速くない

レッド（ポケモントレーナー）

ポケモンを操る少年

運動していないので足は遅い

メタナイト

クールな仮面の剣士

積極的に動く

ゼルダ

ハイラル王国の姫

積極性があるが瞬発力は乏しい

ガノンドロフ

リンクの永遠のライバル

デデデと同じくらい足が遅い

トウーンリンク

小柄な勇者

かなり消極的である

サムス

女性バウンティハンター
機敏な動きでゲームに挑む

キヤブテン・ファルコン

筋肉質なレーザー

ハンターと同等の瞬発力を持つ

Mr.ゲーム&ウォッチ

片言を話す黒い2次元

深夜のエリアに溶け込む作戦

リュカ

かなり臆病な超能力少年
ハンターにもビビりまくる

ナナ

アイスクライマーの方
ポポ同様に運はあまり無い

ピット

パルテナの親衛隊長

俊敏性を遺憾無く發揮する

オリマー

マイペースな宇宙飛行士

家族の為にも逃走成功を誓う

エリア配分&逃走者紹介（後書き）

次回から、いよいよ恐怖と欲望が渦巻く逃走心理劇が始まります！

恐怖のオープニングゲーム（1）（前書き）

愈々ゲームが始まります！

果たして、オープニングゲームの結末は！？

恐怖のオープニングゲーム（1）

人気が全く感じられない深夜のとある大学キャンパス。
その工学部棟1号館前に、18人の逃走者が集められた。
彼らの視線の先には、サングラスに黒スースという出で立ちのハンターが4体が、観音開きのボックスの中に収納されている。

「これより、ゲームを始める……」

スネーク「来たぞ……！」

フォックス「愈々か」……

ピカチュウ「ヤバい……！怖くなってきた……！」

不気味な低い声のアナウンスが聞こえると、18人に緊張が走る。

「君達の前にいる4体のハンターは、ボックスの中に閉じ込められている……」

目の前にある色分けされた鎖は全部で18本……

その内1本だけが、ボックスの扉を開放するハズレの鎖……
それを引くと4体のハンターが解き放たれ、ゲームがスタートする……」

アナウンスが終わると、18人は一斉にざわめく。

ハンターまでは20m。逃走者は1人ずつ鎖を引き抜かなければならない。ハズレを引けば、ハンターが目の前の逃走者に襲い掛かる。

クッパ「おおっ！一六番！吾輩はやはりクジ運がいい！」

ロボット「エエエー？ 一番デスカ～！？ コレハ酷過ギマス～・・・」

ファルコ「一〇番か・・・微妙な順番だな～・・・」

鎮を引く順番は、事前に行つたくじ引きにより既に決定している。

すると、またしてもアナウンスが・・・

「しかし、今回このゲームに挑むのは君達だけでは無い・・・」

カービィ「ええ！？」

ヨッシー「どうこう事？」

ネス「どうこう事ー？」

すると、スタート地点に地味に置かれていたモニターが突如発光し、ある映像を映した。そこには、同じ大学キャンパスの教育学部棟1号館の前にいる別の18人の姿が・・・

ソニック「ああー何だこりやー！」

デデデ「何ぞい、これはー？」

アイク「こいつらは一体・・・ー？」

プリン「何でしゅか、これ・・・？」

ナナ「何これ？」

ルイージ「えつ？別にいるの、逃走者！？」

ファルコン「どういう事だよ！？」

どちらも、不可解な出来事に戸惑いを隠せない。

実は、逃走者には伝わっていなかつたが、この逃走中のエリアは北と南に分けられており、それぞれ18人の逃走者がスタンバイしていたのだ。そして、2つのステージを逃げ切らなければ賞金を獲得できないシステムなのだ。

賞金は1秒100円ずつ上昇。1stステージは50分。2ndステージは90分。合計140分間ハンターに捕まらなければ84万円を獲得できる。

南北両エリアには、ハンターボックスが4つずつ設置されており、それぞれが交互に鎖を引いていき、先にハンターを放出してしまったエリアが1stステージとなる。一方、ハンターを放出しなかつたエリアの逃走者達は、無条件で2ndステージへと進める。

先攻か後攻かは、それぞれ18番目鎖を引く者が代表となり、モニター越しにじょんけんで決める。

北エリア代表はスネーク、南エリア代表はレッド。

スネーク・レッド「最初はグー・・・じょんけんポン！」

スネークはチョキ、レッドはグーを出した。

リンク「負けた！」

リンクの一言で、北エリアの者達はスネークを一斉に叩く。

一方、勝った南エリアは有利な後攻を選択。

北エリア 1人目・ロボット

ロボット「スネークサン！コレテハズレ引イタラ、アナタノ事一生
恨ミマスカラネ！」

スネーク「何だよ、それ！勘弁してくれよ…」

ボボ「引かないでよ！絶対だよ…」

ドンキー「何色？何色？」

ロボット「ソレデハ…今日ハオ月様モ、才星様モ綺麗ナノデ…
・月ト星ノ色ノ黄色ヲ引キマス！」

クリアか…？ハンター放出か…？

ロボット「行キマス！」

ジャラララッ…

シーン…

北エリア セーフ

17人はロボットを快く迎え入れる。

ウォッヂ「セーフティス～・・・」

リュカ「次こっちだ・・・」

マリオ「誰だよ、1番田は?」

ガノンドロフ「俺だ・・・」

南エリア 1人目・ガノンドロフ

メタナイト「いきなりハズレは勘弁してくれ・・・」

サムス「これでハズレ引いたら、レッドが勝った意味が無くなっちやうものね」

ピッチ「何色ですか?」

ガノンドロフ「黒!これ引くぞ!」

ワリオ「一寸待て!黒はハンターの服の色じゃねえかよ!」

ピーチ「そりゃー絶対それハズレじゃない!」

ガノンドロフ「そんなこじ付けがあつてたまるか!引くぞ!」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

ジャラン!

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はガノンドロフを快く迎え入れる。

ガノンドロフ「だから言つたじやねえか・・・黒は絶対ねえって
ディディー「引くなら直前に引くつて言つてよ・・・腰抜けたじや
ん・・・」

ルカリオ「ああ～・・・セーフだ～・・・」

マルス「うわあ～・・・！」

ウルフ「マジかよ～！ちくしょう！」

北エリア 2人目・ヨッシー

リンク「何色ですか？」

ヨッシー「ん～・・・やつぱつこ」は、自分の色の黄緑をー。」

ボボ「単純過ぎ・・・」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ヨッシー「セーの・・・」

ジャラツ！

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はヨッシーを快く迎え入れる。

レッド「うわあーー最悪だーー！」

トウーンリンク「また回つて来たよ、こっちこー！」

オリマー「悔しいです～！」

南エリア 2人目・ナナ

ゼルダ「何色？」

ナナ「それじゃあ・・・私が着ているエスキモーの色、ピンクを引きます！」

プリン「こっちも単純過ぎ・・・」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

ナナ「行きます！」

ジャラン!

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はナナを快く迎え入れる。

ナナ「怖い・・・！ハンター怖過ぎ・・・！」

この後、北エリア・ポポは茶色を引きセーフ。南エリア・ファルコンも水色を引きセーフ。

北エリア・ピカチュウが白を引きセーフ。南エリア・マリオもゼブラを引きセーフ。

これで、残る鎖は互いに14本。ハンター放出の危険性は徐々に高まる。

果たして、どちらのエリアが15セステージを行う事となるのか？

恐怖のホーリーハグゲーム（一）（後編）

次回、ハンターが放出！犠牲者は誰！？

因みに、鎖を引く順番は作者の私が本当にくじ引きで決めました（笑）

なので、私にとつても誰が何番目に引くのか運任せだったのです
本当にくじ引きで決めると、疲れるし尚且つしつくりとした順番にな
りませんね・・・そこが面白いんでしようけど（笑）

恐怖のオープニングゲーム（2）（前書き）

誰がハズレを引くのか！？

しかし・・・テスト期間中に何やつてんだろ？・・・自分は・・・
まだ夏休みまで1週間以上あるといつのこ・・・

恐怖のオープニングゲーム（2）

北エリア 5人目・ウルフ

ウルフ「それじゃ・・・青を引くぞ！」

フォックス「何でだ？」

ウルフ「空と海の色だからだ！」

ファルコ「何だそれ？」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ウルフ「行くぞ！」

ジヤラツ！

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はウルフを快く迎え入れる。

アイク「もういい加減、向こう引いてくれよ・・・」

マルス「ホントだよ。これ以上続けられたら、精神的にズタズタになる・・・」

ピット「ええ～！？」

ルイージ「何あの、クジ運の良さー...？」

マリオ「次は？」

オリマー「私ですね・・・」

南エリア 5人目・オリマー

トゥーンリンク「何色？」

オリマー「縁を引きますー！」

ピーチ「何で縁？」

オリマー「連れていくピクニックに無くなる色なんで・・・いたらいいな
と・・・」

ワリオ「ただの願望じゃねえかよ・・・」

オリマー「お願いします・・・もう一回回り込んでからここで・・・

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

オリマー「行きます！」

ジャラン！

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はオリマーを快く迎え入れる。

ガノンドロフ「もうそろそろ引く頃だろ?」

サムス「そうね。もう引いてもおかしくないわよ。6人目だし・・・

「

北エリア 6人目・フォックス

リンク「何色ですか?」

フォックス「カーキ!」

ピカチュウ「何でそんな汚らしい色を・・・」

フォックス「これハズレだつたら、俺氣を疑うよ!」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

フォックス「行くぜ!」

ジャラツ!

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はフォックスを快く迎え入れる。

フォックス「よっしゃーー！」

ポポ「もう大丈夫でしょ？」

ドンキー「もしこれで向こうが引いてくれなかつたら、次多分こつちが引きそう……」

デーデー「不吉な事を言つでないぞい」

ソニック「そうだよ」

南エリア 6人目・プリン

プリン「こ・・・怖いでしゅ・・・ハンター・・・怖過ぎんでしゅ・・・」

ゼルダ「氣を引き締めて！」

ウォッチ「何色デスカ？」

プリン「そ・・・それじゃあ・・・あ・・・赤を・・・」

ナナ「何で？」

ディディー「聞かない方がいいよ。かなりビビッてるもん」

リュカ「ビビッてるのは、ボクだって一緒だよ・・・」

プリン「怖いでしゅ・・・！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

プリン「い・・・行きます・・・！せーの・・・」

ジャララララララララ・・・

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はプリンを快く迎え入れる。

プリン「怖かつたでしゅう～！」

レッド「泣いてる・・・」

メタナイト「まあ無理もないだろう・・・」

ガノンドロフ「もう次で7人目か・・・」

ファルコン「もう観念してハズレ引けよ、ホントに・・・」

北エリア 7人目・ネス

ルカリオ「ネス、結構引きいいからな～・・・」

クッパ「引きそなうだな～・・・」

ヨツシー「怖いです～・・・」

ネス「紫！」

スネーク「何故紫という中途半端な色を？」

ネス「紫好きだから」

カービィ「ヤバい、多分引く・・・！」

アイク「もうダメだ・・・足が竦みそうだ・・・」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ネス「行くよ！」

ジャラツ！

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はネスを快く迎え入れる。

ソニック「もう心臓に悪いぜ、これ」

カービィ「早く終わって～」

ロボット「向コウガ引イテクレバ、ソレデイインデスヨ～」

ルカリオ「確かに・・・もう回つて来てほしくない」

リンク「これで引いてくれなかつたら、俺絶対吐く・・・」

ヨツシ一「ボクもです」・・・「

南エリア 7人目・ピット

「銀を一ノ郎に渡す。」

マリオ「何で？」

ピット「鎖つて普通銀色してゐるでしょ？」

ルイージ「え・・・? 意味分かんない・・・」

ヒットされ———

クリアか・・・? ハンター放出か・・・?

ラジオ・トランジスタ

ジャラッ！
ガコン！

南エリ亞の逃走者全員「わああーーー！」

かんぬき
門が外れてしまい、南エリアで4体のハンターが放出。

1stステージが始まった・・・

南エリアの逃走者が逃げ惑う姿をモニター越しに見て、北エリアの逃走者達は抱き合つて大喜びした。

北エリア 1stステージ免除

ピカチュウ「向こう引いた！」

カービィ「やつたー！」

ファルコ「よつしゃーー！」

ロボット「ヤリマシター！」

歓喜に包まれる北エリアとは裏腹に、悲鳴を上げながら一団散に逃げる南エリアの逃走者達。

ハンターが視界に捉えたのは・・・ピット・・・

ピット「わあーー来るなーー！」

一団散に逃げるピット。しかし、ハンターとの距離は徐々に縮まる。最早、逃走不可能・・・

ピット「ああーー！」 ポンッ

1stステージ残り時間49分28秒 ピット確保 残り17人

ピット「嘘！ハンター速つ！あんなに速いの！？目付けられたら終わりじゃん・・・！」

一方、1stステージを免除となつた北エリアの逃走者達は安堵の表情が零れていた。

ネス「良かつた。嬉しい」

デーデ「天はワシ達を見放さなかつたみたいだぞい」

スネーク「そうみたいだな」

クッパ「悪運が強いといつのは、正にこの事を言つんだな」

ウルフ「それにしても、向こうは大パニックだな」

マルス「そりやそうでしょ。ハンターに追われてるんですから」

ルカリオ「あの無愛想な顔でスプリンター並みに追つかれられたら、悲鳴上げない方がおかしいしな」

トウーンリンク「まさか……ピットが……引くなんて思わないもん……怖いよ……！」

ウォッチ「ピットサン……ナンテ酷イ事ヲ……！」

ワリオ「あつ……メール来た……！」

確保情報はメールで知られる。

ゼルダ「『教育学部4号館前にてピット確保、残り17人』」

ガノンデロフ「どうどう始まつた・・・。」

マリオ「わあぢいすゑんへ。」

遂に幕を開けた逃走中・・・。

生き残るのは誰だ!?

恐怖のホーリーハグゲーム（2）（後編）

テストが終わるまで、暫く血薙しよつかな・・・？

でも、土田は出来る限り上げようとしています。

//ミッション1発動！（前書き）

漸く今週分のテストが終わりました。
とりあえず、ほっと一息。

恐らく単位は全て取れてると思います。自分の中では・・・

兎にも角にも、再開します！

愈々幕を開けた1stステージ。17人の運命はいかに！？

因みに逃走者には、いつもなら一緒にいるスタッフはないという設定です。誰かに話し掛けている様な台詞は、独り言だと思って下さい。

//ミッション1発動！

1stステージが南エリアで始まり、2ndステージは北エリアに決定。

南エリアの逃走者達は、50分間生き残らなければ次のステージには進めない。2ndステージは90分。逃げ切れば84万円を獲得できる。

1stステージとなる南エリアは、教育学部・理学部・法文学部などの建物を含み、広さは東京ドームおよそ10個分。建物内は、教育学部・理学部・法文学部の1～4号館の1階のみ進入可能。

リュカ「何で深夜にスタートなんだろう・・・? もう暗くて尚更怖い・・・!」

ルイージ「街灯は点いてるけど・・・遠くが全然見えない・・・! ハンター来そうで怖過ぎ・・・!」

ハンターと暗闇に怯える2人。

メタナイト「ん・・・?」んな所に信号があるが・・・

エリア内には、数ヶ所に信号が設置されている。無論、逃走者もハンターもその交通法規を遵守しなければならない。

ワリオ「おっ、もう少しで1万円だ・・・! これは宝探しやゲーム開発よりいい金稼ぎだ・・・!」

賞金は一秒で100万円ずつ常に上昇している。

一方、1stステージを免除となつた北エリアの逃走者達は・・・

スネーク「今から50分間は、俺達はこうこうの状況だ」

18人は工学部1号館前のカフェテラスに腰掛け、手元のアイスドリンクを飲んでいる。彼等は1stステージの間、何もせずに、上昇する賞金・・・最高30万円・・・を獲得できる。

ポポ「向こうは、すでに血相をして走ってるよね」

ファルコ「もう息切らじとんと息づか」

ピカチュウ「ねえ~」

テトテ「逃げ惑う姿が田に浮かびぞい」

マリオ「絶対逃げ切つて、84万円ゲットするぞ・・・」

気合十分なマリオ。

トウーンリンク「とりあえず、最初のつちは隠れておこう・・・」

法文学部3号館の階段の陰に隠れるトウーンリンク。

プリン「私は絶対・・・」こうした方がいいでしゅ・・・

こちりは、教育学部2号館の長椅子の下に隠れているプリン。身体が異常なまでに震えている。

ウォツチ「私ニトツテ、コノ闇夜ハ絶好ノ隠レ場デス」

街灯の当たらない駐車場に身を潜めるウォツチ。確かにこれなら、ハンターには気付かれにくい。

ハンターはエリアを隈なく搜索。視界に入った逃走者を見失うまで追跡する。

ガノンドロフ「今は・・・図書館か・・・」

ガノンの前から、ナナ・・・

ナナ「あつ、ガノン・・・」

ガノンドロフ「ああ、ナナか・・・お前、何処行こうとしてるんだ?
?」

ナナ「とりあえず、エリアの最南端まで・・・」

ガノンドロフ「ふうん・・・」

特に興味は無い様だ・・・

ゼルダ「自首は絶対しない! そんなつまらない事したくない」

逃げ切りを宣言したゼルダ。

彼女が言つ自首とはゲームからのリタイア。南門か東門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば、その

時点までの賞金を獲得できる。

ピーチ「20万円もあればいいかな・・・?でも、ゼルダより先には絶対捕まらない!…やっぱり同じ姫として負けられない!」

ゼルダに对抗心を抱くピーチ。果たして、姫同士の勝負の行方は。サムス「もうすぐ2万円・・・こんないい賞金稼ぎ無いわ・・・!」

100円ずつ上がる賞金に心が躍るサムス。

オリマー「田標は勿論84万円。その賞金で、女房と子供に何かプレゼントを買いたい」

家族の為に逃げるオリマー。

理学部棟が見えるループ道路を移動するレッド。彼は何故か、ディーと行動を共にしている。

レッド「あんまりここにいない方がいいんじゃないかな?」

ディーディー「何で?」

レッド「だってさ、ここループ道路であそこが理学部棟1号館だろ?これでハンターに来られたら、多分撒き切れないと」

ディーディー「ホントだ、小道が殆ど無い。移動した方がいいね」

そこへ、メタナイトが合流。

メタナイト「2人で行動しているのか？」

ディディー「うん」

レッド「そつちはハンターいたか？」

メタナイト「いや、こつちは大丈夫だが……」

ハンターの有無を確認し合つ3人。そこへ近付く黒い影……

レッド「やっぱり、建物内が安全かな？」

メタナイト「いや、ハンターも建物内を探すから、絶対安全という事はない」

ディディー「そつか……じゃあどうすれば……って来たー！」

メタナイト「うおおー！」

レッド「マジでかー？」

ハンターに見つかり、3人は別方向に逃げる。ハンターが視界に捉えたのは……

ピ――――――――――――――

レッド「俺かよーー?」

レッドだ……

レッド「何だよ、あれ！？反則だろ！速過ぎるーー！」

一目散に逃げるレッド。しかし、その差は徐々に縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

レッド「やあーー！」　ポンッ

1stステージ残り時間46分7秒　レッド確保　残り16人

レッド「速過ぎーー！何あれ！？ていうか・・・お金ーー！何でーー！？もつ終わりーー！？最悪ーー！」

ディディー「危なかつた・・・！」

メタナイト「レッド捕まつたんじゃないのか・・・？」

プルル　プルルルルル

プリン「わっ・・・！？な・・・何でしゅか、この着信音・・・！音大き過ぎるでしゅ・・・！」

ルイージ「『理学部棟駐車場付近にてレッド確保、残り16人』・・・」

ウォッチ「ア・・・アワワワワワ・・・」

目の前で確保を見たウォッチ。幸いハンターには気付かれていない様だ。

ウォッチ「ハンター……アンナ一速インテスカ……？オ……
恐ロシイデス」……」

ハンターの恐怖を目の当たりにし、不安を隠せない2次元。

ガノンドロフ「3万円行つた……！」

プルル プルルルルル

ガノンドロフ「ん……？何だ？」

メールだ……

サムス「あっ……来た、ミッション！」

マリオ「『Hリア内に9つのハンターボックスを設置した』……」

ファルコン「『残り35分になると、扉が開きハンターが放出される』……マジかよ……！？」

ナナ「『阻止するには、それぞれの横にあるレバーを下ろし、ボックスを封印しなければならない』……」

リュカ「『但し、レバーは？』までナンバリングされており、順番に下ろさなければならぬ』……」

スネーク「『また、増えたハンターは2ndステージにも引き継がれる。急ぎたまえ！』」

ロボット「エッ！？」

カービィ「最悪！」

アイク「マジで！？」

『2ndステージに引き継がれる』といつ言葉に、北エリアの18人全員が凍り付く。

MISSION？ ハンター放出を阻止せよ！

エリア内に設置された9つのハンターボックス。残り35分になると、それぞれのボックスの扉が開き、9体のハンターがエリアに解き放たれる。阻止するには、それぞれのボックスの横にあるレバーを下げ、封印しなければならない。但しレバーは、？から？まで表示されている番号順に下ろしていかなければならない。全てのレバーを下せなければ、ハンターは最大13体となり、ハンターの数は2ndステージにも引き継がれる。

ゼルダ「あと10分足らずで9体が出てくるの！？それはいくらなんでもきつ過ぎる…」

メタナイト「さあどうする？」

ミッションに動けば、ハンターに遭遇する危険が高まる。

ハンター放出まで、およそ9分。

ハンター放出を防げるのか！？

//シニア発動-(後書き)

8月28日の逃走中では、どんなドラマが展開されるんでしょうか?

放送が楽しみですー(>○<)

ハンター放出阻止へ！（前書き）

リアルルイージさん、感想有難う御座います

発動されたミッショーン。16人はどう動く！？

ハンター放出阻止へ！

残り35分までに、ボックスの横のレバーを番号順に下ろしていくかなければ、最大9体のハンターが放出。ハンターの数は引き継がれる為、既に2ndステージ進出が決まっている北エリアの逃走者にとつても、他人事ではない。

フォックス「という事は・・・1体でもハンターが出てきちゃったら、俺達にも被害が及ぶって事だろ？」

マルス「迷惑ですよね？」

ミッキー「でも番号順についていのが酷くないですか？」

ソニック「だよな？」

カービィ「まあ、誰かやるよ。ボク達がジュークス飲んでる間にさ

クッパ「隨分と呑氣だな、お前は・・・」

トゥーンリンク「ええ？ヤダよ。ここから動きたくないよ~」

プリン「無理でしゅ、こんなの・・・どのボックスからも遠いでしゅよ、こには・・・」

隠れている2人は、ミッションに動かない。

リュカ「行かないでいよう・・・近くにハンターいそうだもん」

「ディディー」「動いたら、確実に迷ひし捕まるよね……」のミッションはやらない

ウォッチ「折角イイ隠れ場所ヲ見ツケタノ……動キタクアリマセん……」

ワリオ「誰かやるだろ? なあ……頼むぜ、誰か

ガノンドロフ「ボックスが遠いな……任せるか

続々とミッションを諦める逃走者達。

動けばハンターに見つかる危険が高まる。ミッションに行くか行かないかは逃走者の自由だ。

ファルコン「これやらないといけねえな……ハンター出できたら最悪だよ……よしそ、行くか。少しごらり見つかっても、逃げれると思ひナビな……」

真っ先に動いた俊足のレーサー。

メタナイト「行くしかないな

サムス「やるでしょ、これ。やうないつて人いるの? いないでしょ?」

ゼルダ「行こつー!」

ピーチ「あつ、一番近い……行こつー!」

メタナイト・サムス・ゼルダ・ピーチもハンター放出阻止に向かう。

「ファルコン」「1番と2番遠いな……誰かに電話して、『行け』って言おう」

「ファルコンは電話を掛ける。相手は……

「メタナイト」「ん……? ファルコンから……もしもし?」

「ファルコン」「おお、メタナイト? 今何処だ?」

「メタナイト」「今はな……えつと、本部の所なんだよ」

「ファルコン」「本部……あつ、という事は2番の近くか?」

「メタナイト」「ああ、そうだ」

「ファルコン」「じゃあ、そこで待機してくれ。俺3番がある第2体育館の方へ行くから、もう1人に電話して1番封印してもらう様に言つておく」

「メタナイト」「おお、頼んだぞ」

「ファルコン」「任せとけ!」

「2人は電話を切った。」

「ファルコン」「よしつ。これで2番は確定だな……でも、1番の近くに誰がいるんだ?」

ピーチ「もう少し・・・もう少し・・・」

1番のハンター・ボックスに向かう姫。しかし、その近くにハンター・

・・

ピーチ「あつた!」

漸く、東門近くの駐車場に設置された1番のハンター・ボックスに到着。

しかし、ハンターに見つかった・・・が、ピーチは気付かない・・・

ピーチ「このレバーを下ろすのね・・・よいしょっとー!」

ピーチは1番のレバーを下ろす。

No・1封印 No・2切り替え可能 残り8体

ピーチ「よしつ！1体封印！・・・ん・・・？いやあー！」

迫り来るハンターに気付き、一目散に逃げるピーチ。しかし、気付くのが遅過ぎた。最早、逃走不可能・・・

ピーチ「イヤツ！ヤダツ！キヤー！」 ポンッ

1stステージ残り時間43分12秒 ピーチ確保 残り15人

ピーチ「嘘・・・？いたの、ハンター・・・？暗くて全然見えなかつた・・・！」

メタナイト「おっ、切り替わった。下ろすか……よしょっ！」

メタナイトは2番のレバーを下ろす。

メタナイトは2番のレバーを下ろす。

プルル プルルルルル

メタナイト「わっ！ タイミング悪過ぎ……何だよ……？」

オリマー「『東門駐車場にてピーチ確保、残り15人』……！」

マリオ「うわあー！ ピーチ捕まつた！」

ファルコン「東門駐車場つて……1番がある所じゃねえか！ 封印して捕まつたのか……？」

ナナ「今何番まで封印したんだろう？ それが分かんないと、動きたくても動けない」

偶然にも、4番のハンター・ボックスが設置されている留学生センター近くにいるナナ。しかし情報が少ない為、思う様に動けない。

ルイージ「あと7分ぐらい……不味いぞ……どうしよう？ 6番辺りに先回りしどうかな？」

先回りを試みるルイージ。果敢にもミッションに挑む様だ。

一方、この男は……

マリオ「いや・・・動いて捕まるのが一番最悪だからなー・・・」

Jの//ツショソには無関心の様だ・・・

漸くファルコンが、3番のハンターボックスに到着。

ファルコン「よしつ！切り替え可能になつてる！下ろすぞー！」

ファルコンは3番のレバーを下ろす。

No・3封印 No・4切り替え可能 残り6体

その時、体育館の陰からハンターが現れた。

ファルコン「よしつ・・・つああーーマジかよー！」

一目散に逃げるファルコン。彼が逃げた先に、ガノンドロフの姿が・
：

ガノンドロフ「誰も動いてないのか・・・ん・・・？何だ、この
絶叫に近い声は・・・？」

ファルコン「ガノン逃げる！ハンター來たぞ！」

ガノンドロフ「何！？て言うか、こっち来るなー！」

ファルコンはガノンドロフを追い抜いて逃げ続ける。一方のガノン
ドロフも曲がり角を利用して一目散に逃げる。しかし、ファルコン
が追い抜いて行つたせいで、ハンターの標的がガノンドロフに変わ
つてしまつた。

ガノンドロフ「くそー！何故だー！何故俺だー！」

一目散に逃げ続けるガノンドロフ。しかし、その差はどんどん縮まる。最早、逃走不可能・・・

ガノンドロフ「ぐおおーー！」　　ポンッ

1stステージ残り時間41分49秒　　ガノンドロフ確保　残り
14人

ガノンドロフ「くそー・・・ファルコンめー・・・！」

その間に、ファルコンは上手く逃げ切った様だ。

ファルコン「ヤバい・・・！ガノン捕まつたか・・・？」

プルル　プルルルルル

マリオ「また確保情報か？」

ウォッチ「『理学部棟2号館付近にてガノンドロフ確保』・・・」

ファルコン「『残り14人』・・・うわあ・・・ガノン済まない・・・！」

4番のハンター ポックス近くにいるナナ。恐る恐る近付いてみる。

ナナ「あれ・・・？切り替え可能になつてるじゃん・・・なんんだ・・・迷う事無かつたんだ・・・よしよしょっと」

ナナは4番のレバーを下ろす。

NO・4 封印 NO・5 切り替え可能 残り5体

ミッショソに向かうサムス。そこへ、ゼルダが合流。

サムス「あっ、ゼルダ」

ゼルダ「今何番まで出来てると思つ？」

サムス「4番くらじやないかしら？」

ゼルダ「ここ何処？」

2人で作戦を考える。その近くにハンター・・・

サムス「ここは恐りく・・・ここじやない？就職センター・・・」

ゼルダ「なるほど・・・じゃあ、サムスは5番がある南門付近の売店の方をお願い。私6番の会館の方に先回りしどくから」

サムス「OK・・・!あっ、ハンター来た！ハンター来た！」

見つかった・・・

ゼルダ「不味い、不味い、不味い！」

サムス「何でこんな時にー？」

一目散に逃げる2人。建物の角を利用して、上手く撒いた様だ。

サムスが逃げた先には、偶然にも5番のハンター・ボックス。

サムス「あつた……これを下ろせばいいのね……」

プルル プルルルルル

サムス「えつ、何……!？」

スネーク「途中経過だ……!『残るハンター・ボックスは5つ。このままでは5体のハンターが放出されてしまう』……おい、何だよこのザマは……!」

リンク「あと5分切ってるのに、ハンターは半分も封印されないんですか?」

ファルコ「ヘタレだな、あいつら……!」

ルカリオ「これ、良くても1体放出されるんじゃないのか?」

アイク「そんなの許すかよ!『冗談じゃねえよ、ハンター増えたら!』

ロボット「メンバー的二モ、果敢ニミツシヨンヤル人少ナイデスカラネ、向コウハ」

ネス「でも、ボク達はニミツシヨンの結果がいい事をただ祈る事しか出来ないからね……」

ピカチュウ「そうだよね……」

サムス「不味い・・・！兎に角下ろしかないと・・・！」

サムスは5番のレバーを下ろす。

No・5封印 No・6切り替え可能 残り4体

残るボックスはあと4つ

ハンター放出まで4分

全てのハンターボックスを封印する事は出来るのか！？

ハンター放出阻止へ！（後書き）

8月の放送も楽しみだけど、10月・11月に出るDVDも楽しみ
です

どんな未公開シーンが入っているのか、期待大です！

//シニア終業（前書き）

毎日の猛暑で思考が衰えそうですが……

明日からまたテストが始まるところに……

「ミシショーン一終ア！」

6番のハンター ポックス付近にやつてきたルイージ。

ルイージ「あつ、あれか・・・ゲツ・・・！」

ルイージが向かう先に、ハンター・・・

ルイージ「何でいるんだよ〜・・・くわ〜、向こう行け・・・！」

しかし、彼の思いと反する様にハンターは近付いてくる。

ルイージ「ダメだ・・・」

来た道を引き返し、一旦理学部棟3号館内に身を隠す。

ルイージ「あと3分半だよ・・・ヤバい・・・！」

マリオ「あと5つくらい誰かやつてくれるでしょう」

人任せなマリオ。理学部棟1号館の階段に腰掛けて休んでいる。

ハンター放出まで 3分30秒

そこへ近付く黒い影・・・

マリオ「絶対ミシショーンの近くにハンターついているから、危険なんだよな〜・・・ん・・・?ヤバい！」

見つかった・・・

マリオ「こんなところで・・・捕まつたまるか・・・！」

一田散に逃げるマリオ。

茂みを利用し、ハンターの視界から消えた様だ。

マリオ「やつぱり・・・ハンター4体つて多いな・・・！」

ハンターに追われ、思う様に休めない。

ゲーム開始から、理学部棟駐車場から殆ど^{ほとん}動いていないウォッチ。

ウォッチ「離レタクナイテス・・・コンナ絶好ノ隠レ場カラ・・・」

動く気は無さそうだ・・・

ワリオ「残り3分になりそうだ・・・あれから誰も動いてねえのか

？」

動きたくないメタボな社長。

ワリオ「ん・・・?ハンターだ・・・信号待ちしてんな・・・」

近くにいたハンターに気付き、その場を離れる。

しかし、逃げた先に別のハンター・・・

ワリオ「これで見つかったら最悪だな・・・って言った傍からかよ

「！？」

見つかった・・・

一田散に逃げるワリオ。彼が逃げる法文学部3号館には、階段の陰に隠れているトウーンリンク・・・

ワリオ「ヤバい！近過ぎる！」

トウーンリンク「何、この声・・・？」

ハンター放出まで 3分

ワリオは法文学部3号館の中へ。

ワリオ「つまおーー」

トウーンリンク「ゲッ・・・！ワリオ、ハンターを連れて来てる・・・」
・・何でこっち入って来るんだよ・・・！？」

ハンターはトウーンリンクには気付いていない。

トウーンリンク「最悪だ・・・！ハンター入つてきちゃったよ・・・
！離れよう・・・」

法文学部3号館を出る小柄な勇者。

その間、ハンターとワリオとの差が無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

ワリオ「がああ～！」 ポンッ

1stステージ残り時間37分26秒 ワリオ確保 残り13人

ワリオ「鉢合わせかよ～・・・最悪過ぎる・・・！」

プルル プルルルルル

プリン「だから・・・！携帯つるやこどしゅ・・・！」

リュカ「ワリオが捕まつた・・・」

オリマー「あの身体じや・・・遠くから追い掛けられても捕まりますよね・・・」

理学部棟3号館内に身を隠すルイージ。

ルイージ「もうハンターいない筈はずだよね・・・？よしつ、行くか」

漸く動き出す。

ハンター放出まで 2分

ルイージ「兎に角ハンターが増えるのだけは避けないと・・・急げ・・・うわっ！」

マリオ「うおっ！」

マリオだ・・・

ルイージ「に・・・兄さん！？」

マリオ「そんな驚く事無いだろ？ よ・・・」

ルイージ「兄さん、ハンター食い止めよつよ。 にのままじや逃げ切
れる確率がどんどん低くなつちやうよ。」

マリオ「そんな事言つたつて無理だる。 何番まで封印出来て、今は
何処がレバーを動かせるのか分からんのだぞ。」

ルイージ「そうだけビ・・・でも増えるよつはマシだよ」

マリオ「まあな・・・」

ハンター放出まで 1分30秒

ゼルダ「あれね・・・！」

双子の兄弟が話し合つている間、ゼルダが6番のハンターボックス
を発見。

ゼルダ「これ下ろせばこいのね・・・セーの・・・」

ゼルダは6番のレバーを下ろす。

N O . 6 封印 N O . 7 切り替え可能 残り3体

ゼルダ「あと3つ・・・誰か向かつてないのかしら？」

メタナイト「嘘だろ・・・？ 最後の3つ、全部見晴らしの良過ぎる

所だ・・・

地図を見て嘆く仮面の騎士。

残る3つのハンター・ボックスは、全てループ道路上にあり、周りには建物や茂みが全くない所なのだ。

メタナイト「この3つは無理かな？・・・？」

ハンター放出まで 1分

このままでは、3体が放出され合計7体となる。

ファルコン「ちくしょう・・・・ハンターがいるじゃねえか・・・
！」

7番のハンター・ボックス付近にいたファルコン。しかし、ハンターを叩きし、ボックスに近付けない。

ファルコン「やつをと^と受けよ、ハンター・・・！」

マリオ「おい。そういうしててる間に、残り40秒切ったぞ」

ルイージ「ええ～？ もう無理じゃん・・・！」

マリオ「この近くにハンター・ボックスあるな・・・離れといた方がいいぞ」

ルイージ「うん・・・そうだね」

諦めた双子・・・

ハンター放出まで 30秒

サムス「ボックスが見つからない・・・。どうすれば・・・でももう時間無い・・・！」

ファルコン「これヤバいな・・・！」

ハンター放出まで 20秒

ゼルダ「離れよう・・・！」

メタナイト「無理だ・・・！」

ハンター放出まで 10秒

オリマー「何も出来なかつたのが、正直悔しい・・・。次のミッションぐらは何とかやり遂げよう・・・！」

そして、ハンター3体放出。その数は7体となつた。

ナナ「『ミッション失敗。3体のハンターが放出され、その数は合計7体となつた』・・・！嘘・・・！ハンター増えちゃつた・・・！」

！」

ディディー「ええ〜・・・！？増えちゃつたよ〜。どうすんの、これ？」

ウルフ「何してんだよ！？」

ファルコ「何してんだ、あいつら！」

ソニック「ドン臭えと言つか、勇氣無えといつか……」

クッパ「ホントに何してんだよ！？」

デデデ「奴ら、ホント情けないぞい！」

アイク「ぶつ殺すぞ、お前ら！」

北エリアの逃走者達も、この結果に大激怒。

しかし・・・

スネーク「一寸待て！『が』って書いてあるぞ！」

ヨッシー「が！？」

ピカチュウ「何『が』って！？」

スネーク「…・・・が、これだけでは終わらない』・・・」

カービィ「えつ？」

リンク「どういう事？」

スネーク「『現在、エリア内の進入可能な建物内全てにハンターボックスが設置されている』・・・」

マリオ「『建物内全てにハンター・ボックスが設置されている』って・
・何だよそれ！？」

リュカ「『残り25分までに、それぞれのボックスの左右のレバー
を2人同時に下げて封印しなければならない』・・・」

メタナイト「『急ぎたまえ！』・・・今度は2人同時か・・・！き
つ過ぎる・・・！」

MISSION？ 再びハンター放出を阻止せよ！

現在、エリア内の進入可能な建物内全てにハンター・ボックスが設置
されている。残り25分になると、それぞれのボックスの扉が開き、
最大12体のハンターがエリアに解き放たれる。阻止するには、そ
れぞのボックスの左右に付いているレバーを2人同時に下げ、封
印しなければならない。全てのボックスを封印しなければ、ハンタ
ーは最大19体となり、無論ハンターの数は2ndステージにも引
き継がれる。

プリン「えっ？という事は、この建物の中にハンター・ボックスがあ
るという事でしゅか？」

ナナ「これ、1分に1体ペースじゃ間に合わないじゃん・・・！」

このミッションは、2人同時でなければ阻止できない。

ハンター放出まで、およそ9分。

再び襲い掛かる、ハンター放出の恐怖！

//シニア終マード（後書き）

1日2作品以上も上げると、楽しみが半減してしまうのでしょうか？
出来れば、上げるペースなんかもアドバイスしてくれれば嬉しいです

再びハンター放出阻止へ！（前書き）

明日は一日限りのテスト休み

今日と明日で、出来る限りのアイデアを出して上げていきます！

それと、ワーグナーさん・リアルルイージさん、感想有難う御座います

これからも頑張って参ります！

再びハンター放出阻止へ！

残り25分までに、ボックスの左右にあるレバーを2人で同時に下ろさなければ、最大12体のハンターが放出。既に2ndステージ進出が決まっている北エリアの逃走者にとつても、他人事ではない。

クッパ「これ以上ハンター増やしたら、あいつら抹殺確定だな！」

ウルフ「そうだな。奴等のヘタレ加減には飽き飽きだ！」

ハンターの数は、2ndステージにも引き継がれてしまう。

ロボット「早く食い止メテクダサイ！」

リンク「誰でもいいから行つてくれ～！」

マルス「頼む～！」

ウォッチ「私ハ絶対行キマセン。足ノ速イ人ガヤレバイインデス。
アンナ^{たくさん}二^二沢山^二イルンデスカラ」

トウーンリンク「建物から離れてるもん。無理だよ、こんなの」

ディディー「2人同時なんて無理だよ。誰か呼ばなきゃいけないし・

・今ハンター7体だし・・・」

ウォッチ・トウーンリンク・ディディーの3人は、ミッションには動かない。

現在、エリアには7体のハンター。動けば遭遇する危険が高まる。しかし、残り25分になると、更に12体増えてしまつ。

マリオ「さつきルイージと一緒に逃げれば良かつたんだ……うわ～、何というミス……」

弟と別れてしまつた兄。

マリオ「しようがない……呼び寄せるか……」

プルルルルル

ルイージ「ん……あつ、兄さん。もしもし?」

マリオ「今何処だ?」

ルイージ「今ね……理学部棟の3号館と4号館の間の道端辺りなんだよ」

マリオ「おお、近い近い。じゃあ、そのまま1号館前に来てくれ。そこにはいるから」

ルイージ「兄さん、ミッショソやるの?」

マリオ「当たり前だ。このままで全滅になり兼ねないしつつ」

ルイージ「OK……じゃあ向かうね」

マリオ「おお、頼むぞ」

2人は電話を切った。

マリオ「少なくとも、この理学部棟からのハンターは全部封印しないと……」

プリン「ハンターボックスって何処でしゅか?」

長椅子の下から出てきて、ハンターボックスを探すプリン。

プリン「ハンター……あつ、あつたでしゅ……これで、誰かに来てもらえばいいんでしゅね?」

プリンは誰かに電話を掛ける。掛けた相手は……

プルルルルル

オリマー「プリンさんから……何でしょうか?」

プリン「オリマーちゃん。私、教育学部棟2号館のハンターボックスを見つけて、目の前で待機してるんでしゅ……」

オリマー「それで、私に来いと……」

プリン「はい。お願いしましゅ……」

オリマー「じゃあ、行きますね……」

2人は電話を切った。

オリマー「了承したのはいいけど……教育学部棟つて結構な距離

ある・・・

トウーンリンク「どうして…？あそこへずっと隠れてくれば良かったのに…」

法文学部3号館から離れてしまった小柄な勇者。

その近くに2体のハンター・・・

トウーンリンク「ここから戻れるかな…？でも、戻っても誰かといないと封印出来ないし…。どうすれば…？ん…？来たーー！」

見つかった・・・

一目散に逃げるトウーンリンク。しかし、逃げた先にもう1体・・・

トウーンリンク「わああーー！」ちからもーー？」

ピ――――――

逃げ続ける小柄な勇者。しかし、その差は徐々に無くなつていぐ。
最早、逃走不可能・・・

トウーンリンク「ああっ！」　ポンッ

1stステージ残り時間33分11秒　トウーンリンク確保　残
り12人

トウーンリンク「2体で来た…！なんて不運なんだ…！」

メタナイト「『法文学部棟4号館付近にてトゥーンリンク確保』・

「・

サムス「不味いわ。法文学部棟よ」

ファルコン「でも、開き直つていくしか無えよ」

法文学部棟に向かっていたサムスとファルコン。

ルイージ「兄さん！」

マリオ「おお、来たか」

双子の兄弟が合流。

マリオ「早く行くぞ」

ルイージ「この中でしょ？」

2人は理学部棟1号館の中へ。

マリオ「1階だけとはいえ、結構広いな～」

ルイージ「あつ！あつたよ、兄さん！」

マリオ「ホントか！？」

ルイージ「じつち、じつかー！」

2人は非常階段前のハンター・ボックスを発見。

マリオ「じゃあ、そつち頼むぞ！」

ルイージ「うん！」

マリオ・ルイージ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り11体

ルイージ「よしつ！」

マリオ「次2号館だ！行くぞ！」

ルイージ「OK！」

リュカ「怖いよ・・・」

7体のハンターに怯え、じどうもじどうになつていてる超能力少年。そこへナナの姿・・・

ナナ「リュカ。何してるの、こんな所で？」

リュカ「何つて・・・怖くて動けないんだよ・・・」

ナナ「男のくせにだらしないわね。あつ、やつ言えば//シラソンビ
うするの？」

リュカ「誰かやるでしょ、そんなの・・・ボクは行かないよ・・・」

ナナ「それが女を目の前にした男が言つセリフ？教育学部近いから、一緒に行こう！」

リュカ「ええ～？」

ナナ「ガタガタ言わない！早く！」

リュカ「はあ～い・・・」

教育学部棟へと向かう2人。その近くに黒い影・・・

ナナ「リュカ・・・ビビり過ぎ。走つてよ、時間無いんだから！」

リュカ「そんな事言われたって・・・あれ？」

ナナ「何？」

リュカ「^{ちょっと}一寸待つて・・・あれハンターだ・・・！」

ナナ「嘘・・・!?」

リュカが逸早くハンターを見つけた。2人は茂みに身を隠す。

ハンターは2人に気付いていない。上手くやり過ごした様だ。

その頃、マリオとルイージが早くも理学部棟2号館の階段前のハンターボックスを発見。

マリオ・ルイージ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り10体

ルイージ「次は3号館だね！」

マリオ「おお！」

サムスとファルコンも、ハンターに見つかる危険を冒し、法文学部棟1号館の中へ。

ファルコン「広いな・・・何処だ、ハンターボックス？」

サムス「ファルコンー」つち！』

ファルコン「あつたか？」

サムスがフロアの隅に設置されたハンターボックスを発見。

サムス・ファルコン「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り9体

ファルコン「早くしねえとーあと6分くらいだぞ！」

サムス「ペース上げていかないと！」

プリン「オリマーちゃん……遅いでしゅ……」「

オリマーと待ち合わせをしているプリン。そのオリマーは・・・

オリマー「ハンターいる・・・！」

向かう先にハンターを見つけ、思う様に近付けないでいた。

しかし、背後からも別のハンター・・・

卷之三

そして見つかった・・・

オリマニーん。。。？うわー、来た！」

——龍に逃げるオリバー　しかし逃げた先は別のハンター……

オーラルマイクロスコープ

方向転換しようと、オリマーは足を滑らせて転倒。最早、逃走不可能・・・

オリマー　うわ～・・・

1stステージ残り時間30分53秒

オリマー 確保 残り11人

オリマー「プリンさん……ゴメンなさい……何の役にも立たなくて……」

活躍できずに散つた・・・

プルル プルルルルル

ディディー 「何だ、何だ？」

プリン 「ええ～！？オリマーちゃん捕まつた～！どうすればいいんでしゅか～！？」

オリマーが確保され、パニックになる風船ポケモン。

そこへ、メタナイトがやつて来た。

メタナイト 「プリン・・・騒がしいぞ・・・」

プリン 「あつ・・・メタナイトちゃん・・・」

メタナイト 「こんな所にハンターボックス・・・プリン、そっちのレバーを」

プリン 「は・・・はいでしゅ・・・」

プリン・メタナイト 「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り8体

メタナイト 「ここからは2人で行動だ・・・決して離れるんじゃない

いぞ」

プリン「はいでしゅ・・・」

ハンター放出まで 5分

その間、マリオとルイージが理学部棟3号館の無機化学実験室前のハンター ボックスを発見。

マリオ・ルイージ「セーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り7体

サムス・ファルコンも法文学部棟2号館のエレベータ前に設置されたハンター ボックスを発見。

サムス・ファルコン「セーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り6体

サムス「あれハンターじゃない?」

サムスがこちらに向かって歩いてくるハンターを発見。

ファルコン「ホントだ・・・中に入ってきただな・・・大回りして3号館に行くか・・・」

サムス「それしか無さそうね・・・」

2人は2号館から出て、建物の影を利用して3号館を目指す。

ハンター放出まで 4分30秒

現在、封印されていないハンターボックスは6つ。

このままでは6体のハンターが放出され、合計13体となってしまふ。

果たして逃走者は、残るハンターボックスを封印する事が出来るのか!?

再びハンター放出阻止へ！（後書き）

夏休みに入つたら入つたで、アルバイトしないとな〜・・・
その前に実家に帰省しなきやいけないし、ましてやダイエットも・・・
・（え？）

ミッション2終了！（前書き）

残る逃走者は、ウォッチ・マリオ・ルイージ・ディディー・サムス・ゼルダ・ナナ・ファルコン・プリン・メタナイト・リュカの11人。何人が2ndステージに進めるのか！？

//シショーン2終了!

ナナ「リュカ、走つてよ」

リュカ「ハンターと鉢合戦になるのヤダよ・・・?」

一緒に行動する、エスキモーの少女と超能力を使う少年。

リュカ「・・・わつ!」

ナナ「何!?」

2人の目の前に、黒い人影が・・・

ゼルダ「何でそんなに驚くの?」

ゼルダだ・・・

ナナ「^{びっくり}吃驚した・・・リュカ、あんまり大声出さないでよ」

リュカ「だつて、怖いもんは怖いんだもん。仕方ないじゃん・・・」

ナナ「あつ、そうだ。ゼルダ、教育学部棟の方行かない? 多分そこ
がまだ封印出来てないと思うんだけど・・・」

ゼルダ「奇遇ね。私もそう思つてたところ」

ナナ「ホントに? ジやあ、行きましちゃう」

ハンター放出まで 4分

リュカ「じゃあ2人とも、頑張つて・・・」

ゼルダ「え・・・？」

ナナ「ちょ・・・一寸リュカ・・・！行っちゃつた・・・」

2人にミッションを任せ、リュカは立ち去ってしまった。

ナナ「^{まつた}全くリュカつたら～・・・！」

ゼルダ「しょうがないわね。時間無いし、行きましょう」

ナナ「う・・・うん・・・」

2人は教育学部を目指す。

一方、2人に託したリュカは・・・

リュカ「ゼルダが来てくれて良かつたよ・・・嫌だもん、そんな・・・
・折角ここまで生きてきたのに、パーになるの・・・」

ミッショントリニティには動きたくない様だ・・・

しかし、彼が向かう先にハンター・・・

リュカ「とりあえず、隠れ場所を探さないと・・・この先は・・・
付属中学校が見える道だね・・・ここ行こう・・・え・・・？わあ
あ～！」

見つかつた・・・

リュカ「ヤダ！嫌だ！やあ～！」

絶叫に近い悲鳴を上げながら、一目散に逃げるリュカ。しかし、その差は縮まつていく一方。最早、逃走不可能・・・

リュカ「いや～つ！」　ポンッ

15tステージ残り時間28分18秒　リュカ確保　残り10人

リュカ「そりゃ無いよ～・・・！」

自業自得だ・・・

その頃、マリオとルイージが理学部棟4号館の大演習室前のハンターボックスを発見。

マリオ・ルイージ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印　残り5体

ルイージ「これで、理学部棟のボックスは全部封印したね」

マリオ「何回かハンターに見つかりそつたけど・・・良かつた

」

ハンター放出まで 3分

プリンとメタナイトも教育学部棟3号館のパソコン演習室前に設置されたハンター・ボックスを発見。

プリン・メタナイト「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り4体

プリン「メタナイトちゃん、あと3分切ってましゅよっ。」

メタナイト「急いでー！」

プリン「はいでしゅ」

サムスとファルコンは、漸^{よひ}く法文学部3号館に到着。

サムス「ここ・・・今まで以上に広い・・・」

ファルコン「探すの大変だな・・・」

2人は手分けして、ハンター・ボックスを探す。

ウォッヂ「誰モ動イテイナインテショウカ？」

理学部棟駐車場に身を隠し続ける、黒い2次元。

ハンター放出まで 2分30秒

ウォツチ「残り27分30秒で13万5千円・・・・！」コレ、自首モアリデスカネ？」

南門が東門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば、その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

ウォツチ「13万アレバ、何力買エルジヤナイデスカ？」

ウォツチが自首に心が揺れる中、プリンとメタナイトが教育学部棟4号館の研究室前に設置されたハンター・ボックスを発見。

プリン・メタナイト「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り3体

メタナイト「・・・！ハンター來たぞ！」

プリン「ひやー！」

4号館内に入つて來たハンターに見つかつた・・・

ピ――――――――――――

ハンターの視界には・・・メタナイト・・・

メタナイト「來た・・・こっち來た！」

一目散に逃げるメタナイト。何度も曲がり角を利用して建物から去り、近くにあつた茂みに身を隠す。

ハンターはメタナイトを見失った様だ・・・

ハンター放出まで 2分

メタナイト「危なかつた・・・!しかし・・・プリンは大丈夫なのだろうか・・・?」

ハンターからの追跡を逃れた風船ポケモン。

プリン「私の場所に戻らないと・・・私の場所に・・・」

自分の事で精一杯の様だ・・・

その頃、サムスとファルコンは、漸く法文学部3号館の展示物の前に設置されたハンターボックスを発見。

サムス・ファルコン「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 残り2体

ファルコン「あとは4号館だけだな」

サムス「ファルコン、あと一分半ぐらいしか無いわ!」

ファルコン「マジか！？よしつー急ぐぞ！」

サムス「ええ！」

メタナイト「あれ・・・？」

何かを思い出した仮面の騎士。

ハンター放出まで 1分30秒

メタナイト「確かに最初にプリンと会つたのは2号館で・・・そこから3号館と4号館に・・・あつ・・・・・1号館の事をすっかり忘れていた・・・！不味い・・・！もう1回プリンを呼ばないと・・・！」

プリン「私の場所・・・！何処でしゅか、私の場所・・・！」
メタナイトはプリンに電話を掛ける。しかし、当の本人は・・・

着信音が、全く耳に入つていない・・・

メタナイト「プリン・・・！どうしたんだ・・・？電話に出ないと
いう事は、追われてるのか・・・？」

違う・・・

メタナイト「こうなつたら・・・せめて自分だけでも1号館に・・・うつ・・・ダメだ・・・ハンターが・・・」

遠くにハンターを見つけ、思う様に動けない。

メタナイト「どうするんだ……」このままじゃ、また増えてしま
う……！」

焦りが混乱を呼ぶ……

ハンター放出まで 1分

このままでは、ハンターが2体増え、合計9体となってしまう。間に合つか。

サムスとファルコンは、法文学部4号館の階段近くに設置されるハンターボックスを発見。

サムス・ファルコン「セーの……」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り1体

ファルコン「これで法文学部棟のハンターボックスは、全部封印出来たな」

サムス「でも、他の建物はどうなのかしら？」

メタナイト「くそ……やはり諦めるしかないのか……？」

絶望に浸るメタナイト。しかし、その教育学部棟1号館では……

ナナ「ゼルダ、そつちは？」

ゼルダ「まだ見つからない・・・！」

ナナとゼルダがハンター・ボックスを探していた。

ハンター放出まで 30秒

ナナ「どうしよう？あと30秒切ったよ？」

ゼルダ「諦めちゃダメ！何としても見つけないと！」

ナナ「う・・・うん！」

必死に探す2人。間に合うのか。

ハンター放出まで 20秒

ゼルダ「あつた！」

ナナ「えつ？何処？」

ゼルダが掲示板前のハンター・ボックスを発見。

ゼルダ「こっち、こっち！早く！」

ハンター放出まで 10秒

ナナ「あつ！これか！」

ゼルダ「そつちお願ひ！」

ナナ「OK！」

ハンター放出まで 5秒

ナナ・ゼルダ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター 封印 ミッションクリア

ゼルダ「よしつ・・・！封印・・・！」

ナナ「ギリギリ・・・危なかつた・・・！」

プルル プルルルルル

ディーディー「もう〜・・・つるさいな〜。何だよ？」

スネーク「『ミッション？結果 ミッション成功。全てのハンターボックスは封印された』！」

ドンキー「おおーー！」

ポポ「良かつた〜！」

ミッキー「嬉しいです〜！」

北エリアの逃走者達も、この結果に大喜び。

マリオ「よつしゃ・・・・!!」シヨン成功だ・・・・

ルイージ「良かつた・・・・これ以上増えたら堪たまつたもんじやない
もんね・・・・!」

サムス「これで一先ひとまず安心ね」

ウォッチ「モウ一寸ちよつと頑張がんばりマショウ・・・・」

残る逃走者は10人。対するハンターは7体。

そして・・・図書館内には、無数のハンターが仕掛けられている・・・

逃走者達を待ち受けの運命とはー?

//シシモン2終了！（後書き）

夏休みに、父親の許でアルバイト&ダイエットをする事になつた私・・・

夏休みに入つたら、更新が滞るかも・・・

大学生の夏休みも、決して楽ではないのです（泣）

//ミシモン3発動！（前書き）

1stステージも残り半分を切った。

逃走者は、無事逃げ切る事が出来るのか！？

//ミッショングラウンド発動！

ウォッシュ「コレカラノミッショノモ、誰カヤツテクレマスヨ」

ミッショノを邪道としか捉えていないウォッシュ。彼は25分間以上、理学部棟駐車場から殆ど^{ほどん}動いていない。

ウォッシュ「ハンター モフ体二増エテマスシ・・・動イタラ、マズ間違イナク捕マリマスネ」

ディディー「行かない方がいいよね、ミッショノ。絶対見つかるもん」

こちらも、ミッショノには後ろ向きなチンパンジー。彼はエリアを彷徨^{ウニャウニヤ}しているが、今のところハンターには遭遇していない。

ディディー「ただの鬼ごつこなのに、何でミッショノなんて物があるのか、こっちが聞きたいよ」

一方、漸く『私の場所』に辿り着いたプリン。長椅子の下に再び隠れる。

プリン「これで暫くは安心でしゅね・・・もう・・・疲れた・・・」

先程のミッショノで、かなりの体力を消耗してしまった様だ。最後まで体力は持つのか。

ファルコン「おつ・・・・マリオじやねえか

マリオ「ファルコン・・・」

マリオとファルコンが会流。

ファルコン「そっちハンターいたか？」

マリオ「こっちはいなかつたけど・・・そっちはどうだ？」

ファルコン「こっちは数体いたよ・・・でも、残り23分ぐらいだし・・・絶対逃げ切つてやるうな」

マリオ「当たり前だ。ここまで生き延びて、今更捕まる訳には・・・」

ファルコン「おいー来たぞ、ハンター！」

マリオ「マジかよー!?」

見つかった・・・逃走者に安息の時間など存在しない・・・

別方向に逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ペ-----

マリオ「ひおおーいーこっちはかよー!？」

マリオだ・・・

マリオ「ヤバいー・マジでヤバい！」

一目散に逃げるマリオ。しかし、ハンターにその距離を詰められていく。最早、逃走不可能……

マリオ「ああっ！」　ポンッ

1ステージ残り時間23分1秒　マリオ確保　残り9人

マリオ「最悪……！マジで……？」

ファルコン「危ねえ……！やっぱ不味いよな、ハンター7体は……！」

ファルコンは、上手く逃げ延びた様だ。

プルル　プルルルルル

サムス「何もう……！突然鳴るんじゃないわよ、この携帯……！メール……？」

ゼルダ「『中央会館付近にてマリオ確保』……」

ルイージ「ええ～！？兄さん捕まつた～！」

ファルコン「『残り9人』……うわあ……マリオ捕まつたのか……！悪い……ガノンに続きマリオまで……俺最低だな……他を犠牲にして生き延びて……そんなんばかりだ……」

メタナイト「ここにいれば、何処からハンターが来ても逃げ切れるな……！」

留学生センターの前で、ハンターを警戒する仮面の騎士。

そこへハンター・・・

メタナイト「あの人影は・・・？黒のスーツという事は・・・ハンターだ・・・！」

見つかった・・・

メタナイト「この脇道を使うか・・・！」

脇道を使って一目散に逃げるメタナイト。しかし、その逃げた先は・・・

メタナイト「うわあ～！何だこれは！？行き止まりか！？最悪だ！」

行き止まりに逃げ込んでしまった仮面の騎士。最早、逃走不可能・・・

メタナイト「許してくれ～ほら、仮面やるから！」 ポンッ

1stステージ残り時間21分15秒 メタナイト確保 残り8人

メタナイト「許してくれ～・・・！」

ウォッチ「エ？マタ確保情報デスカ？」

ナナ「『留学生センター付近にてメタナイト確保』・・・」

プリン「メタナイトしゃん・・・！捕まっちゃつたんでしゅか・・・

！？ええ～・・・？』

残る逃走者は、ウォッチ・ルイージ・ディディー・サムス・ゼルダ・ナナ・ファルコン・プリンの8人。

ルイージ「早く朝来ないかな～・・・？トライウマになりそつだよ、この暗闇が・・・」

プルル プルルルルルル

ルイージ「あつ・・・何か来た」

メールだ・・・

ファルコン「来た・・・＝ミシシ回ン3」

ゼルダ「『これより、図書館を進入可能とする』・・・」

サムス「『君達が持つている栄に書かれているジャンルの本を』・・・」

ナナ「『エリア内の学部棟内から探し出し栄を挟んで、残り5分までに』・・・」

ディディー「『図書館内の指定された本棚に返却しなければ強制失格となる。急ぎたまえ！』つてええー！？」

ルイージ「栄つて・・・』れの事？『郷土』つて書いてある・・・」

ウォッチ「『法律』ト書カレテマス・・・』

プリン「何でしゅか、これ？『国際』ってどういう事でしゅか？」

MISSION？ 指定本を図書館に返却せよ！

これより図書館の中が進入可能となる。逃走者は、エリア内の学部棟内からそれが持つ栄に書かれたジャンルの本を見つけ出し、その本に栄を挟み、残り5分までに指定された本棚に返却できなければ強制失格。

ウォッチ「一寸待ッテ下サイヨ！ 強制失格トイウ事ハ、絶対動力ナキヤイケナイジヤナナイデスカ！？ 酷過ギマス～・・・！」

ディディー「嘘～！ これやらなかつたら、オイラダメになっちゃうつて事！？ええ～！？」

ミッションを他人任せにしていた2人。逃走中を甘く見ていた罰だ。
：

ファルコン「探すつて言つても、何処にあるのか分からねえんだろ

？」

そう・・・各々（おのおの）の逃走者が探すべき本は、エリア内の何処に置かれているか分からぬ。

プリン「動かないといけないんでしゅね？ 強制失格になんかなつてられましょん！」

隠れていたプリンも動き出す。

逃走者が持つている栞しおりに書かれている言葉は次の通り。

ウォツチ「法律」・ルイージ「郷土」・ディディー「自然」・サム
ス「地学」・ゼルダ「実験書」・ナナ「数学」・ファルコン「仏語」
・プリン「国際」

強制失格まで、およそ14分。

残る逃走者に迫る強制失格の恐怖！

//ミッション3発動！（後書き）

図書館内に仕掛けられた無数のハンターの意味は！？

それは次回明らかとなるだろー！

栄と本と図書館とハンター（前書き）

図書館に仕掛けられたハンターの謎が明らかに！

栄と本と図書館とハンター

逃走者は残り5分までに、それぞれが持つ栄に書かれたジャンルの本を見つけ出し、図書館内の指定された本棚に返却できなければ強制失格となる。

ファルコン「フランス語と言つた事は・・・多分、法文学部棟だろうな」

ゼルダ「実験書って、殆どある場所の答え言つてるじゃない。理学部棟ね」

ルイージ「郷土って何処だらう、とりあえず、教育学部棟から探してみるかな？」

続々と本を探し始める逃走者達。

しかし、探すには動くしかない。動けばハンターに見つかる危険が高まる。

ウォッチ「法文学部棟ツテ、ズット向コウジヤナイデスカ・・・口レハ相当ナリスクデス・・・」

ディディー「自然つてだけじゃ分かんないよ・・・教育学部棟なのか、理学部棟なのか」

嫌々にミッションを行う、2次元とチンパンジー。

プリン「国際といつ事は、恐らく法文学部棟でしゅね。でも間に合

うかな？間に合わないみたいだつたら、自首するしか無いでしゅね

教育学部棟の中を通りながら、法文学部棟を手指す風船。ポケモン。

サムス「地学ね～・・・とりあえず、理学部棟から調べてみましょ
うかね？」

地学関連の本を探しに、理学部棟へと向かうバウンティハンター。

郷土の本を探しに、教育学部棟へやつて来たルイージ。

ルイージ「あつ・・・・・！ハンターいた・・・・・ハンターいた・・・
！怖い・・・・！」

建物の中に入ると、曲がり角の陰からハンターを見つけた。彼はすぐさま建物を出て、階段の陰に隠れる。

ルイージ「ハンターいるじやん・・・・！」

ハンターを叩きし、思ひ様に探せない。

ウォッチ「コレハシンドイ・・・・！」

周囲を警戒し、暗闇に溶け込みながら移動するウォッチ。

ウォッチ「ハンター来ナイデクダサイ・・・・・冗談抜キテ・・・・・」

ナナ「数学・・・・何処？数学の本つてどんな本？」

教育学部棟で数学関連の本を探す、エスキモーの少女。

しかし、曲がり角の先からハンター・・・

ナナ「3号館と4号館は無かつたし・・・あと1号館と2号館だけ・・まさか、教育学部棟には無いって事は・・・って来たーー！」

本を見つける前に、ハンターを見つけてしまった・・・

ナナ「ヤダー！ 来ないで～！」

一目散に逃げるナナ。しかし、その距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

ナナ「や～！」 ポンッ

1stステージ残り時間16分54秒 ナナ確保 残り7人

ナナ「ああ～・・・何で～？」

体力も運も尽きた・・・

ゼルダ「実験書、実験書・・・」

理学部棟1号館内を探している姫。

ゼルダ「無いみたいね・・・」

ファルコン「フランス語・・・どれだ、フランス語？」

法文学部棟1号館を探しているレーザー。

ファルコン「流石さすがに1号館には置かれてないか……英語だつたらあつたのにな……」

下らない独り言を言つてゐる間も、制限時間は減つていく。

ウォッチ「モウ……イツ二ナツタラ、法文学部棟一辺り着クンテスカ……？」

まだ法文学部棟まで、かなりの距離を残すウォッチ。

ウォッチ「早クシナイト……時間ガ無クナルトイウノニ……建物ハ見エテモ……距離ガアリ過ギデス……！」

ゲームの間、殆ど動いていないのが災いしたのか、体力の限界を感じている様だ。

サムス「地学の本、何処いるの~？」

地学の本を探しに、理学部棟1号館を探すサムス。

サムス「あつ、あつた。これに、このじょ桿を挟むのね」

地学本 獲得

これを図書館内の指定されて本棚に返却すれば、強制失格を免れる。

ファルコン「おつ、あつたぞ！」

ファルコンもお目当ての本を見つけた様だ。

「よし、急げ！」

デイデイー「何処だよ、自然の本」・・・」

まだ自分が探すべき本を見つけられないでいるディディー。

「デイデイー」「大体、教育学部棟で合ってるのかな～？もう全然分か
んない、何処行つたらいいのか・・・」

すつかりパニック状態に陥っている。

「ティティー、もう全然見つかんないじゃん……！どうしよう？やっぱり理学部棟なのかな？そつち行つてみ……え……？」

建物から出ようとして、近くを通り掛かつたハンターと目が合い、
その場に立ち往生。最早、逃走不可能・・

「ディーディー」「・・・」
ポンツ

1stステージ残り時間14分27秒
デイデイーコング確保
残り6人

「ディーディー」「悔しい・・・！」一寸待つて、何これ！？こんな呆氣なく終わるのってアリ！？ハンターと3秒くらい目が合つて・・・そのまま何の抵抗も無く捕まるつて・・・そんな事、この逃走中であつていいの！？最悪過ぎる・・・。」

ゼルダ「あつた！」

その間に、ゼルダが目的の本を発見。

実験書本 獲得

ゼルダ「これで、図書館に返せばいいのね？」

その頃、漸くサムスが図書館に到着。しかし・・・

サムス「え・・・？ハンターが図書館の中に入つて行くじゃない・・・！嘘でしょ・・・？」

ハンターは進入可能な建物内も捜索する。図書館も例外ではない。

サムス「どうしましょう・・・？強行突破するべきか、ハンターが出て来るまで待つべきか・・・」

そこへ、ファルコンが通り掛かる。

ファルコン「おお、サムス。どうした、図書館の前で悩んでしまって・・・」

サムス「ハンター1体が図書館の中に入つて行つたのよ。だから、このまま中に入つて本棚を探し回つてたら、ハンターの格好の標的になるし・・・かと言つて、ずっとここでハンターが出て来るのを待つていれば、エリアを彷徨^{うろつ}いてるハンターに見つかるし・・・」

ファルコン「何だよ、そんな事か。そんな小さな事でウジウジすんな。ミッションやるには、それなりのリスクを冒さなきゃいけない

事は、お前も十分承知だろ?」

サムス「それはそうだけど・・・」

ファルコン「俺は入る!何と言われようと入る!」

サムス「あんたがそう言つのなら、私も入るしかないわね」

2人は危険を顧みず、図書館の中へ。

プリン「あつたでしゅ!」

プリンも探すべき本を発見。

国際本 獲得

プリン「急がないと!あと7分半しかないでしゅ!」

ウォッチ「ヤツト・・・着キマシタ・・・」

ウォッチは、漸く法文学部棟前にやつて來た。

ウォッチ「モウダメデス・・・足ガ動キマセン・・・デモ・・・強制失格ニナラナイ為ニモ・・・諦メラレマセン・・・!」

氣力を振り絞り、法律関連の本を探す。

ルイージ「ええ?何処だよ、郷土の本・・・?」

まだ、郷土関連の本を見つけられないでいるルイージ。

ルイージ「見過したのかな？もう一回見て来よう」

教育学部棟全てを回つたが見つからず、再び探す事に。

一方、サムスとファルコンは、図書館内の案内表示に書かれている指定場所に向かっていた。

ファルコン「ここは、書かれていた。フランス語の本が並べられてるのは……」

サムス「地学の本棚……あつ、ここね」

ファルコン「おっ、見つけた。ここか」

2人は本を返却する。

サムス・ファルコン ミシションクリア

ファルコン「よしつ……とつあえず出るか……」

サムス「ここにいても危険だし……やる事は済んだし……さつぞと出ましよ」

2人は図書館を去る。

プリン「もつ……図書館が遠いでしゅ……！」

ゼルダ「やつと着いた……」

ルイージ「あれ～？ やっぱり違うのかな～？」

ウォッチ「何処デスカ～？」

ゼルダは図書館に到着し、プリンは図書館に向かっている。ルイージとウォッチは、まだ自分の本を見つけられていない。

その時・・・

プルル プルルルルル

プリン「あっ、メールでしゅ・・・確保情報でしゅか・・・えつ・・・？ 通達1・・・？」

ウォッチ「『残り5分になると図書館が閉鎖され、中に書庫から24体のハンターを放出する』・・・H-H-！？」

ルイージ「ええ～！？ 嘘でしょ～！？ ギリギリで返したとしても、安心出来ないって事！？」

サムス「『それと同時に、エリア内の建物全てを立ち入り禁止となる』・・・これはきつい・・・！」

ファルコン「マジで・・・！？ となると、残り5分で逃げ道が殆ど無くなるな・・・！」

ミッショーン終了と同時に、図書館の出入口が閉鎖される。その後、図書館の書庫から24体のハンターが解き放たれる。図書館内に残つていれば、最後まで逃げ切るのは粗不可能となる。また、ゲーム残り5分にエリア内の学部棟全てが進入不可能となる。

ウォツチ「アト5分ジャナイデスカ～！？」

ルイージ「いくらなんでも酷過ぎるー。」

2人は当然パニック状態に。

プリン「急がないと・・・24体はきつ過ぎましゅー。」

ゼルダ「早く戻さないとー。」

この2人も焦りを隠せない。

サムス「酷い話・・・！もう建物に潜む事も出来ないなんて・・・！」

ファルコン「最後の追い込みって奴が、これが・・・！」

既にミッションをクリアした2人も不安を露^{あらわ}にする。

15セステージ残りおよそ10分。

生き残れるのか！？

柴と本と図書館とハンター（後書き）

次回、1stステージが終了！

2ndステージ行きの切符を手にするのは誰だ！？

1stステージ終了!（前書き）

ずっと続いていたテスト地獄も、たった今終了しました

ここから、一気にスパート掛けで上げていきたいと思います！

残る逃走者は、ウォッчи・ルイージ・サムス・ゼルダ・ファルコン・プリンの6人

このまま1stステージを逃げ切れるのか！？

1stステージ終了!

現在本を返せていないのは、ウォッチ・ルイージ・ゼルダ・プリンの4人。このままでは、およそ4分で強制失格となってしまいます。

しかし、図書館の書庫の中には24体のハンター。ミッション終了と同時に、図書館内に解き放たれてしまう。更に、エリア内の建物の中にも進入できなくなる。

ウォッチ「ドウシマショウ……? 全然見ツカリマセン……!」

ルイージ「ヤバい……! 時間が……! 時間が無くなる……!」

未だに担当での本を見つけられない、黒い2次元と配管工の双子の弟。

プリン「やつと……やつと見えたでしゅ……! 図書館……!」

漸く図書館に辿り着いたプリン。

プリン「中にハンターいるかも知れましえんけど……腹を括つて行くしか無いでしゅ……!」

意を決して図書館内に進入。

ゼルダ「ハンターいた……! 嘘……? 図書館の中にまでいるの……?」

階段を下っているハンターを発見した姫。

ゼルダ「兎に角・・・強制失格と24体だけは避けたい・・・！何処・・・？」

ウォッチ「アリマシタ！アリマシタ・・・ケド・・・何故ヨヨニヨツテ『六法全書』5冊ナンデスカ～？」

ウォッチ、探していた本を発見。

法律本 獲得

ウォッチ「オ・・・重過ギマス・・・コレヲ図書館マヂテ・・・？間二合イマセンヨ、多分・・・！」

ミッショーンの過酷さが、彼をネガティブにしてしまつ・・・

強制失格まで 4分

一方ルイージは、手掛かり無しで郷土の本を探し回っている。

ルイージ「何処にも無い！誰か！一緒に探して！誰か助けてよ～！」

このミッショーンは「おのれ」との戦い。助けてくれる者など存在しない・・・

ゼルダ「あつた・・・！」「ね・・・！」

ゼルダは本を返却する。

ゼルダ ミッショーンクリア

ゼルダ「よしひ・・・!後ほこりを出すだけ・・・でもせつきハンターいたから・・・どうやって出るか・・・」

ウォッチ「ツ・・・辛過ギマス・・・」「コレドハンター一見ツカツタラ・・・間違イナク捕マリマスネ・・・」

重い六法全書を抱えて歩き続けるウォッチ。ハンターに見つかれば、その本は手放すしかない。

ウォッチ「コ・・・コンナ重イ物ヲ持ッテ、長距離ヲ歩クノハ・・・初メテデス・・・モウ・・・両足ニ乳酸ガ溜マツテシマツテルカモシレマセンネ、コレ・・・」

かなり重労働の様だ・・・

強制失格まで 3分

プリン「何処でしゅか~、この本が置かれていた本棚は?何処でしゅか~?」

閲覧室を右往左往する風船ボケモン。

プリン「何処でしゅ・・・あつ~あつたでしゅ~」

プリンは本を返却する。

プリン ミッシュンクリア

プリン「見つかって良かつたでしゅ~」「

これで本を返せていないのは、ウォッチとルイージの2人だけ。

強制失格まで 2分30秒

ゼルダ「やつと出れた……！」

その間に、ゼルダは図書館を脱出。

ウォッチ「アツ・・・ゼルダサン・・・」

ゼルダ「ウォッチ・・・何それ！？すごい重そうじゃない！」

ウォッチ「モウ・・・尋常ジャナイデスヨ、コノ重サハ・・・」

ゼルダ「見る限り、それ全部六法全書ね？」

ウォッチ「ソウナンデスヨ・・・」

ゼルダ「法律関係の本棚は、入ってすぐ目の前の階段を上がった左の閲覧室にあるわ。案内表示にも書いてあるから。ただ、中に1体ハンターいるから、それだけ気を付けて」

ウォッチ「有難ウ御座イマス・・・助力リマシタ・・・」

ゼルダ「じゃあ、頑張つて」

ウォッチ「ハイ・・・」

2人は別れる。

ウォッチ「ゼルダサン……優シイデスネ……ハンター・ガイル
事マ、デ教エテクレテ……恩ニ着マス……！」

強制失格まで 2分

ルイージ「あつた！やつとあつたよ……！ヤバい！あと2分切つ
てる！急げ！強制失格になんかなりたくない！」

やつとの思いで目当ての本を見つけたルイージ。

郷土本 獲得

ウォッチはゼルダの助言を頼りに本棚を目指す。一方ルイージは、
今から図書館へ向かわなければならない。

ウォッチ「落トサナイ様……慎重……焦ツテ落トシテ、片
付ケテル間ニ見ツカツタラ最悪テス……！」

早歩きをしながらも、積み上げた六法全書を落とさない様に、用心
深く動くウォッチ。

ウォッチ「コノ階段……何デモナイ筈はずナノ……結構キツク感
ジラレマス……！」

ルイージ「ハンターいるじやん……！ヤバい……！相当遠回り
しないと……！」

遠くにハンターを見つけ、遠回りを強いられるルイージ。

ルイージ「どうすんだよー！あと一分ぐらいしか無いじゃん！」

ウォッチ「ココテスネ・・・」

ゼルダに教えてもらつた閲覧室に辿り着いた2次元。目的の本棚を探す。

強制失格まで 1分

ルイージ「着いた！やつとだ！何処だ！？郷土の本棚何処！？」

ウォッチ「何処デスカ？法律関連ノ本棚・・・！」

焦る2人。間に合つのか。

ウォッチ「アリマシタ！」

最初に見つけたのはウォッチ。彼は1冊ずつ本を返却する。

ウォッチ「3・・・4・・・5！全部返シマシタ！」

ウォッチ ミッショングリリア

強制失格まで 30秒

ウォッチ「時間無イデス・・・！一刻モ早ク脱出シナケレバ・・・！」

ルイージ「何処だよー！？」

強制失格まで 20秒

ルイージ「もう・・・何処なんだ・・・あつ、あつた！」

郷土関連の本棚を見つけ、ルイージは本を返却する。

ルイージ ミッションクリア

ルイージ「不味い！早く脱出しないとー！」

図書館閉鎖まで 10秒

ウォッチ「間に合へー！」

ルイージ「間に合へー！」

図書館閉鎖まで 5秒

出入口に現われたのは・・・

ウォッチ「ソノ扉、マダ閉メチャダメデスーー！」

ウォッチだ・・・

ウォッチ「ワーアーー！」

ギリギリで図書館を脱出。そのまま彼は転がる様に、図書館の許をもと去っていく。最早、ハンターに見つかる事などお構い無しの様だ・・・

そして・・・図書館が閉鎖・・・取り残された・・・

ルイージ「ヤバい・・・！今ガチャンって音したよね・・・？まさか閉まっちゃった・・・？」

ルイージ・・・

更に、書庫内から24体のハンターが続々と解き放たれていく・・・
ルイージ「嘘・・・！？」ドビードビドビドビって音も・・・！これ、24体のハンターだよね・・・？ビリビリよう・・・？隠れるしか無いよね・・？」

ルイージは、閲覧室内の机の下に隠れる。

しかし・・・24体のうち6体のハンターが、ルイージが潜む閲覧室に入つて来た・・・

ルイージ「ヤバ過ぎる・・・！もうダメだ・・・！確実に見つかる・・！」

ハンターの恐怖に慄き、机の下でガタガタと震えている・・・

ハンターは椅子を退かして、机の下を探し始める・・・

そして・・・

ルイージ「うわあー！」

見つかった・・・

ルイージ「来るなー！」

一目散に逃げるルイージ。しかし、ルイージの絶叫に近い悲鳴を聞かず、近くのハンターが続々と確保に向かう。

ルイージ「だから来るなってばー！」

遂にルイージは、全てのハンターによつて、階段の踊り場に追い詰められてしまった。最早、逃走不可能・・・

ルイージ「いやだー！」 ポンッ

15tステージ残り時間4分2秒 ルイージ確保 残り5人

ルイージ「やめてくれー！」

哀愁漂う彼の姿は、黒い波の中へ消えていった・・・

牢獄

レッド「あー。『図書館内にてルイージ確保』だつて

ピット「あー・・・」

ガノンドロフ「図書館から脱出できなかつたのか・・・」

ワリオ「これで、このヒリアの俺様達の世界の者達は全滅してしま

つたな・・・

ピット「でも、あと5人も残ってるよ? 7体相手にしている割には、結構な数だよ?」

レッド「全員残るかなー?」

1stステージ終了まで 3分

ファルコン「あと3分切った・・・! もうハンター来るな・・・!」

サムス「これ行けるかもしれないわ・・・!」

プリン「建物内に入れないのが辛いでしゅ・・・何処かに隠れない
と・・・」

新たな隠れ場所を探すプリン。

ウォッチ「モウコロニイマショウ・・・」

理学部棟駐車場に身を潜めるウォッチ。ここは彼のお気に入りだ。

ゼルダ「もう少し・・・もう誰も捕まらないで・・・! そしてハンターカー来ないで・・・! お願い、お願い、お願い・・・!」

逃走者5人に対し、ハンターは7体。このまま、逃げ切る事が出来るのか!?

ウォッチ「ハンターハイタ・・・・」

ウォッチの目の前をハンターが通り過ぎていく。これまで、再四暗闇に助けられている。今回も助けられた様だ。

ウォッチ「目立タナイトイウノモ、捨テタモンジャアリマセンネ・・・」

1stステージ終了まで 2分

その頃、生協前のスロープの陰に隠れるプリン。

プリン「もう疲れた・・・」「これで見つかってアウトでしゅね・・・ハンター来ないでください・・・」

疲労困憊の風船ポケモン。

しかし、彼女の近くにハンター・・・

プリン「もう賭けでしゅ・・・」「これで来られたら、私の運が無いくて事になるでしゅ・・・」

ハンターが急接近・・・

プリン「絶対来ない筈でしゅ・・・せーせー・・・」

見つかった・・・

プリン「止めてください！来ないでください！」

一目散に逃げるプリン。しかし、疲労が溜まっていたせいでその場に転倒。最早、逃走不可能・・・

プリン「ひゃー！」　ポンッ

1stステージ残り時間1分13秒　　プリン確保　残り4人

プリン「狡いでしゅよ、ハンター！あんな所からひょっこり出て来るなんて！もう一寸で逃げ切れたのに〜！」

赤ん坊の様に泣きじゃくる風船ポケモン・・・

ファルコン「『中央食堂付近にてプリン確保』・・・」

サムス「嘘・・・！？プリン捕まつた・・・！あんなに上手く隠れられるプリンが・・・！」

1stステージ終了まで　1分

ゼルダ「あと1分・・・！もう捕まりたくない・・・！1stステージくらい逃げ切りたい・・・！お願い・・・！逃げ切らせて・・・！」

ウォッチ「モウ少シデス、悲願ノ1stステージ突破マヂ・・・！」

残り1分を切り、逃走者達は不安を募らせる。

サムス「ハンター追い込み掛けできそつね・・・ここから少し離れときましょう・・・！」

ファルコン「来そうだな、ハンター・・・あと30秒か・・・よ
しつ・・・！」ここ集中だ・・・！」

1stステージ終了まで 30秒

ウォッチ「アト25秒デスネ・・・早ク終ワツテクダサイ、1st
ステージ・・・！」

1stステージ終了まで 20秒

ゼルダ「ん・・・？来た！ハンター来た！」

見つかった・・・

1stステージ終了まで 10秒

一目散に逃げるゼルダ。そして・・・

ゼルダ「4・・・3・・・2・・・1・・・やつた！」

ゼルダ キャプテン・ファルコン サムス・アラン Mr.ゲーム
&ウォッチ 1stステージ逃走成功 2ndステージ進出

ゼルダ「逃げ切った・・・！50分逃げた・・・！嬉しい～！」

ファルコン「ヨッシャー！逃げ切ったぜ！しんどかった～、50分・
・！」

サムス「でもまだ第1段階だからね・・・次こそが本番ね！氣を引
き締めなくちゃ！」

ウォツチ「ホントデスカ！？逃げ切りマシタカ！？ヤリマシタ～！」

ピカチュウ「4人逃げ切つた？」

スネーク「みたいだな・・・いやあ、4人ともおめでとう！」

北エリアの18人は、逃げ切つた4人を拍手で称たたえる。

ソニック「ハンター7体の中、よく逃げ切つたな～」

フォックス「いやあ～、改めて感心するな～」

リンク「そうですね～」

クッパ「それはそつと、1stステージが終わつたという事は？」

デデデ「ワシ達に30万円入つたぞい！」

ロボット「オ～！」

カービィ「嬉しい！30万円も！」

1stステージを免除された18人に、賞金30万円が加算された。

1stステージ終了!（後書き）

次回から、愈々（いよいよ）北エリアの18人を加えて2ndステージが始まる！

逃走者22人の活躍にご期待！

2ndステージ開始！（前書き）

逃走者22人による2ndステージの幕が切つて落とされる！

90分間ハンターから逃げ切れる者は現れるのか！？

2ndステージ開始！

1stステージを逃げ切ったのは、ウォッチ・サムス・ファルコン・ゼルダの4人。

これより、北エリアの18人と共に90分間の2ndステージに挑む。そして、最後まで逃げ切れば84万円を獲得できる。

22人の逃走者は、自分で決めたスタート地点でゲーム開始を待つ。そして、北食堂前から7体のハンターが放出され、2ndステージが始まった。

2ndステージとなる北エリアは、工学部・農学部などの建物を含み、広さは東京ドームおよそ7個分。建物内は、工学部・農学部の1～4号館の1階のみ進入可能。

ネス「いや、怖い……！」こんな怖いの初めてだよ……！

ファルコ「窓での狙撃戦より、こっちの方が全然スリルあるな……！」

マルス「捕まりたくない……捕まつたら、屈辱的だな……」
とりあえず、アイクよりは長く生きないと……」

アイク「怖過ぎる……何これ……これが見えない恐怖って奴か？」

ヨッシー「もう逃げ切る事以外は、全く眼中に無いですね。自首は

有り得ないです

カービィ「目標は、始まる前は50万円ぐらいだけど、欲搔いて満額84万円まで。そのお金で、世界中の美味しい物いっぱい食べたい！」

賞金は1秒100円ずつ上昇。既に1stステージ分の30万円が加算されており、90分間逃げ切れば合計84万円を獲得できる。

更に逃走者は自首も可能。北門か西門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば、その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

ソニック「Come on, Hunter. 何処からでも掛かって来い！」

逃走成功の大本命のソニック・ザ・ヘッジホッグ。余裕の表情だ。
ソニック「でも怖えなー・・・ハンターの速さってどんなものか分からねえし・・・」

自信過剰にはならないハリネズミ。

リンク「この坂道危ないな〜」

エリアの南端へと繋がる、アップダウンの激しい坂道にやつて来たハイラルの勇者。

リンク「ここでハンターに出くわしたら、確実に逃げられないな〜。
・・離れとくか

クッパ「最悪だな～・・・」

何故か暗い表情をしている亀。その理由は・・・

クッパ「吾輩の身体では、何処の建物の中にも入れん・・・これじや、隠れる事も出来まい・・・」

団体が大きいことが、ここにまで影響していた・・・

ドンキー「茂みに隠れとこうかな?」

初代スマッシュブラザーズでは1番の身体の大きさを誇っていた、
ジャングルの王者。

ドンキー「自然の中だつたら、ボクが1番得意だもんね~」

その得意顔は、いつまで見れるのだろうか。

デデデ「建物の中は電気が点いているから、逆に危ないぞい」

独自の理論を展開する大王。

デデデ「ワシら全員派手な色の服を着ているが、暗闇だつたら多少
は目立たなくな～ん～ん～あれば～～ハンターだぞい～～
!ハンターだぞい～～！」つち来とるぞい～～！」

デデデの視線の先にハンター・・・

デデデ「不味いぞい、不味いぞい～～！」

しかし、彼が逃げた先は・・・

「あれ？ 行き止まりだぞい・・・こんな所は危ない。移動するぞい」

移動を試みる大王。しかし、その近くに別のハンター・・・

「こんな所に居座つてたら、ハンターの格好の標的ぞい。移動せねば・・・はあ？ 何でこうなるぞい！？」

見つかった・・・

「ま・・・待つぞい・・・！ ワシはそこまで・・・速く走れんぞい・・・！」

息を切らしながら一目散に逃げるテテテ。

「あれ？ か・・・？ん・・・？ハンターに追われてるじゃないか・・・！」 こっち来てる・・・！」

近くにいたスネークも釣られて逃げる。

その間に、テテテとハンターとの距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

「さや～！」 ポンッ

2ndステージ残り時間86分36秒

テテデ確保

残り21人

「デデデ「」・・・」んな苦じや無かつたんだぞい・・・こんな呆氣
なく終わる筈はずじゃ・・・」

ブルル ブルルルルルル

ルカリオ「メールか・・・?」

「フォックス、『確保情報だ・・・!』工学部棟3号館付近にてデデデ確保、残り2人。・・・早くねえか!?」

カービイ「ええ！？ デデデいきなり！？」

「ウルフ、何してんの、あいつ！？マジで……何してんだよ、あい

ロボット「ヤツパリ、ウォツチ一ハ負ケタクナイデス・・・！」

ウオツチと同じ様に片言を話すロボット。

「ボット、2ndステージの人達ハ、皆1stステージノ連中トハ違ウンダゾトイウノヲ、見セテイキタイデス」

「建物が少ない分小道が多いなあ、このエリア……」

地図を見ながら独り言を呟く、エスキモーの少年。
つぶや

・・・とその時、彼の身体が突如赤色に発光し始めた・・・

「この小道をどう上手く使うかが、逃げ切る為の鍵になりそうだね。それにしても、深夜ってすごい恐怖に駆られ……え……」

?えつ、何これ！？何で光ってんの！？すごい目がチカチカするぐらい光ってるじゃん！」

ファルコン「何だこれ！？急に何だよ！？」

しかし、彼の身体は緑色に・・・

ヨッシー「ばれるじゃん、こんなに強く光ってたらさ〜！」

彼は^{だいだい}橙色に・・・

ゼルダ「背中も！？嘘でしょ！？」

彼女は青色に光っている・・・

逃走者から発せられる光の色は、確認出来るだけでも8つある。

赤色 ポポ・クッパ

青色 ウルフ・ロボット・ゼルダ

黄色 ファルコ・リンク・サムス

緑色 ソニック・カービィ・ファルコン

桃色^{ピンク} マルス・ルカリオ

紫色 フォックス・ピカチュウ・ネス

橙色^{だいだい} ヨッシー・スネーク

黄緑 アイク・ドンキー・ウォッヂ

プルル プルルルルル

「アルコ『うるせえな！光つてる最中に鳴るんじゃねえよー何だよ！？』

メールだ・・・

マルス「えつ・・・?ミッショング・・・!」

ロボット「君達が身に付けているのは発光ベスト』・・・サツキカラ光ツテルコレノ事デスカ？」

スネーク「『残り70分から60分までの10分間、エリア内の全ての照明が落とされる』・・・何！？』

リンク「『暗闇になれば、ハンターから逃れる事は容易ではない』・・・そりや そудらろ・・・』

ネス「『阻止するには、エリア内の進入可能な建物の掲示板に掲示されている4桁の暗証番号を』・・・』

サムス「『君達の腕に付いている装置に入力し、発光を止めなければならぬ』・・・え？これの事、装置つて？』

MISSION? 発光を停止せよ！

逃走者が身に付けているのは発光ベスト。残り70分から60分ま

での10分間、エリア内の全ての照明が落とされてしまう。このまま身体が発光し続ければ、ハンターの格好の的となってしまう。それを阻止するには、エリア内の進入可能な建物の中にある掲示板に掲示されている8つの4桁の暗証番号のうち1つを、それぞれの腕に付けられている装置に入力し、発光を停止させなければならない。止められなければ、逃走者の身体はゲーム終了まで発光し続ける。

ピカチュウ「ところの事は、移動しなきゃいけないんだ！」

マルス「これ・・・かなりのリスクだな」

暗証番号の確認の為に動けば、ハンターに遭遇する危険が高まる。

また、深夜のエリアの中で光っている為、その姿はよく目立つ。光ったまま移動するのは、更なるリスクを伴う事になる。

果たして、逃走者達は発光を止める事が出来るのかー?

2ndステージ開始！（後書き）

なかなかアイデアって出てこないもんなんですね・・・（泣）

誰か、オリジナリティのあるパッショングを考え出す為の秘訣を教えてください。

宜しくお願ひします！

発行停止へ！（前書き）

ikkisan・ジョッペルスさん・わせほんさん、そしていつも感想をくれるワーグナーさん、感想本当に有難う御座います

これを糧^{かて}にして、頑張って参ります！

発光を始めた逃走者達。その運命は…？

発行停止へ！

ウォッヂ「コレジャア、折角ノ『闇夜ニ溶ケ込ム作戦』ガ出来ナイ
ジヤナイデスカ……」

ドンキー「あつちこつち光つてる……隠れてる意味無いじゃん……
・！」

発光している逃走者の身体。残り70分になると、エリア内全ての
照明が落とされ、その姿は一段と目立つてしまつ。

それを防ぐ為に逃走者達は、エリア内の進入可能な建物の中の掲示
板に掲示されている4桁の暗証番号を、腕に付けられた装置に入力
しなければならない。

カービィ「あつ・・・・! 工学部棟2号館、そこじやん・・・」

偶然、工学部棟2号館の近くにいたピンク玉。

カービィ「あつ・・・・! ハンターいた・・・・!」

工学部棟1号館付近にハンターを見つけ、すぐさま2号館の中へ。

カービィ「掲示板、掲示板・・・あつた・・・えつと・・・07
05・・・・」

カービィは暗証番号を入力する。しかし・・・

カービィ「あれ? 発光止まんないよ? 何で! ? 暗証番号入れたのに

！？間違つても無いのに…？」

発光している色は逃走者により異なる。その為、その色に合つた正しい暗証番号を入れなければ、発光を止める事は出来ない。どの建物の暗証番号^{つな}がどの色と繋がっているのかは、暗証番号を入力するまで分からぬ。

カービィ「縁はこれじゃないの？ええ？また移動しないと…！」

再び移動を始めるカービィ。

アイク「くそ～・・・！ハンターが多過ぎて移動できない・・・！でも、このままずっとここにいても田立つし・・・」

小道の藪^{やぶ}の中に身を隠すビビリな青年。

アイク「ハンターいなくなるまで、一寸待つかな・・・？」

ウルフ「」の中にある筈^{はず}だが・・・

農学部棟3号館にやつて来たウルフ。

ウルフ「おっ、これが・・・！205・・・」

ウルフは暗証番号を入力する。

ウルフ「ん？止まんないぞ？これじゃねえのか？くそ～・・・」

悔しさを滲ませながら建物を去る。

リンク「ヤバい……！ウロウロしてたら、確実に見つかる……！」

地図を頼りに、近くの建物を目指すリンク。

しかし、向かう先にハンター……

リンク「黄色つて、一番目立つ色なんだよ……！早めに解除しねえと……！あ……？マジかよ……？」

見つかった……

リンク「ヤベエ……！」

一目散に逃げるリンク。しかし……

リンク「ウワツ……」つちからも来た！

前からも別のハンター……2体に挟まれた……

リンク「来てる……！何だよ、これ！？」

逃げ続けるリンク。しかし、挟まれた彼に逃げ場は無い。最早、逃走不可能……

リンク「わあー！」　ポンッ

2ndステージ残り時間83分9秒　リンク確保　残り20人

リンク「最悪だ……！だから黄色は嫌なんだよ……！目立つか

ら2体で来られたじゃねえか・・・！あ～あ・・・

プルル プルルルルル

ファルコ「だからつるせえつてんだろ、携帯！少しさは黙れ！」

ヨッシー「『工学部棟駐車場付近にてリンク確保、残り20人』・・・

・

ポポ「やっぱり目立つし、ハンターいっぱいいるし・・・捕まりやすくなつてるよ～・・・」

ネス「絶対きつい・・・どうしよう・・・？」

ファルコン「手当たり次第入力していかなきやな・・・手始めに、ここを見てみるか」

農学部棟1号館の暗証番号を探すレーザー。

ファルコン「あつた、これだ・・・！1523・・・頼む・・・！」

ファルコンは暗証番号を入力する。

ファルコン「ダメか～・・・1発で当てるなんて、そう簡単にはいかねえとは思つてたけど・・・やっぱりハズレだと悔しいな・・・！」

顔を顰しかめ、ファルコンは建物を去る。

スネーク「ここか・・・」

工学部棟4号館にやつて来たスネーク。

カービィ「あつ、スネーク」

カービィも合流。

スネーク「カービィか・・・おい。こんな所に暗証番号があるぞ・・・」

カービィ「ホントだ。えっと・・・1411・・・」

2人は暗証番号を入力する。

スネーク「何！？解除されていないだと！？」

カービィ「ええ！？ここも違うの！？何処だよ、緑の暗証番号～！？」

スネーク「くそ・・・やられたか・・・」

2人はすごすごと建物を去っていく。

クッパ「吾輩は建物の中には入れないが、ガラス越しには見れるから、手間が省けるな・・・」

工学部棟1号館の掲示板をガラス越しに見る龜。

クッパ「ん・・・？0514・・・」

そこに忍び寄る、黒い影・・・

クッパ「これをこの装置に・・・」

クッパは暗証番号を入力する。

クッパ「ああ！？違うのか！？参ったな～・・・つてぐわー！」

ファルコン「そんな大声で驚くなよ・・・！俺だよ・・・！」

ファルコンだ・・・

クッパ「あの速さでの曲がり角から現れたら、誰だつて吃驚する
だろうが・・・！」

ファルコン「悪かったよ・・・おつ、暗証番号だ・・・！0514・
・・・」

ファルコンは暗証番号を入力する。

クッパ「ああ！？」

ファルコン「おっ！光が消えたぞ！」

ファルコン ミッションクリア

クッパ「あれは縁の暗証番号だったのか・・・！また探さなきゃいけないな・・・」

ファルコン「ドンマイ、クッパ・・・つてハンター来たぞ！」

クッパ「何を！？」

見つかった・・・

二手に分かれて逃げる亀とレーサー。ハンターが狙いを定めたのは
：

ビ-----

クッパ「吾輩だとーー！？」

クッパだ・・・

クッパ「来るな！来るんじゃない！」

一目散に逃げるクッパ。しかし、その差は縮まっていく一方。最早、
逃走不可能・・・

クッパ「ぐああー！」　　ポンッ

2ndステージ残り時間80分17秒　　クッパ確保　残り19人

クッパ「発光したままだったから、吾輩が狙われたのか・・・？結
局何処だつたんだ、赤の暗証番号は・・・？」

本当に『ドンマイ』になってしまった・・・

ロボット「『工学部棟駐車場にてクッパ確保』・・・」

ヨッキー「どんどん捕まつていきます……」

ファルコン「何なんだ？俺に関わった奴は捕まる運命なのか？俺、完全に疫病神じゃねえかよ……！」

既に3人の逃走者を巻き添えにしてしまったファルコン。彼は、逃走者の仮面を被つた悪魔なのか……？

エリア消灯まで 10分

マルス「何処だ、暗証番号？」

農学部棟2号館の暗証番号を探す王子。

マルス「あつた、あつた……！2105……」

マルスは暗証番号を入力する。

マルス「消えない……不味いぞ……！」

ネス「ここかな？」

農学部棟3号館の中を探すネス。ここは先程、青色に発光しているウルフが失敗した場所。彼の光の色は紫……

そこへ、フォックスが通り掛かった。

フォックス「ネスじゃねえか？」

ネス「フォックス。あれ？ フォックスも紫なの？」

フォックス「みたいだな。おつ、あつたぞ暗証番号……！」

ネス「これが。えつと・・・1205・・・」

2人は暗証番号を入力する。

ネス「あつ！」

フォックス「消えたぞ！」

ネス「やつたー！」

フォックス・ネス ミッションクリア

フォックス「やつたな、ネス！」

ネス「うん！すごい偶然だね！」

フォックス「だな！ヨッシャー！」

サムス「何処よ、黄色の暗証番号？」

エリアを彷徨さまようバウンティハンター。

その近くに、本物のハンター・・・

サムス「黄色つて嫌ね～。暗闇ですごい目立ってるじゃない。これじゃあ、灯りが点いてもハンターの格好の的よ・・・！えつ・・・？嘘！？やつぱり来た！」

見つかった・・・

一目散に逃げるサムス。彼女が逃げる先に、ソニック・・・
ソニック「急がねえと・・・このままじゃ・・・ん・・・? サムス、
ハンター連れて来てるじゃねえか! Oh my god! 何でこいつ
ち来るんだ! ?」

彼も一目散に逃げる。しかし、ハンターが視界に捉えているのはサ
ムスのみ。

ピ――――――――――――――

サムス「全然撒けない! 目立ち過ぎ!」

逃げ続けるサムス。しかし、徐々にその差を詰められていく。最早、
逃走不可能・・・

サムス「もうヤダー!」 ポンッ

2ndステージ残り時間78分33秒 サムス・アラン確保 残
り18人

サムス「もう・・・! こんな目立つ色なんだもん・・・! これじ
や撒き切れる訳が無いわ・・・!」

黄色が発光している事による犠牲者は、これで2人・・・

唯一の黄色が発光している逃走者。それは・・・

ファルコ「ちくしょう・・・！早くしねえと、ハンターが俺に集中していくぞ・・・！」

ファルコだ・・・

ファルコ「とりあえず、ここに入るか・・・！」

農学部棟1号館に入る隼もどきの青雉。はやぶさ
あおきじ

ファルコ「これ入れるか・・・1523・・・！」

ファルコは暗証番号を入力する。

ファルコ「おっ！消えた！ヨシシャ！」これで随分楽になつた！すいぶん

ファルコ ミッションクリア

一方、工学部棟3号館に足を運んだピカチュウ。

ピカチュウ「これか・・・0504・・・」

ピカチュウは暗証番号を入力する。

ピカチュウ「あれ？消えないや。ここじゃないの？」

ピカチュウは建物を去る。とそこへ、ネスが通り掛かった。

ピカチュウ「あっ、ネス。あれ？もう解除したの？」

ネス「見れば分かるでしょ？したよ、とっくに」

ピカチュウ「何色だったの？」

ネス「ボクもピカチュウと同じ紫だったけど……」

ピカチュウ「ホントに！？何処！？何処にあったの！？」

ネス「いや、教えてあげるよ。1205」

ピカチュウ「1205ね」

ピカチュウは教えてもらった暗証番号を入力する。

ピカチュウ「消えた、消えた！」

ピカチュウ「ミッショングクリア

ピカチュウ「有難う、ネス！」

ネス「いやいや、それほどでもないよ」

アイク「よし……もう大丈夫だらう……」

隠れていたアイク。漸^{ゆき}く動き出す。

アイク「黄緑は目立つって……風景から浮いてるもんな……

」

アイクと同じく、黄緑を発光している2次元。

ウォツチ「コウイウ難シイ色ハ、結構遠クニアルモンナンテスヨネ
」

果たして、その読みは的中するのか。

桃色に発光する波導の使い手・ルカリオ。

ルカリオ「なんか恥ずかしいな、ピンクって・・・昔はピンク=男
が当たり前だつたと聞くが・・・」

それは、何からの情報なのだろうか・・・？

マルス「不味い・・・！全然分からぬ・・・！」

同じく桃色を発光しているマルス。向かう先にハンター・・・

マルス「赤系のこれは、結構早くしないと・・・ん・・・？いたな、
ハンター・・・！来てる・・・！」

見つかつた・・・

マルス「これは不味い・・・！」

一目散に逃げるマルス。鍛え抜かれた脚力を生かし、建物の中へ逃
げ込む。上手く撒いた様だ。

彼が逃げ込んだのは工学部棟4号館。スネークとカービィが失敗し
た所だ。

マルス「これは・・・！1411・・・」

マルスは暗証番号を入力する。

マルス「あつ！消えてる・・・！」

マルス ミッションクリア

マルス「運がいいな～・・・！」

これで、未だ発光を止められていない逃走者は次の通り。

赤色 ポポ

青色 ウルフ・ロボット・ゼルダ

緑色 ソニック・カービィ

桃色 ルカリオ

橙色 ヨッシー・スネーク

黄緑 アイク・ドンキー・ウォッチ

このままでは、あとおよそ7分でエリア内の全ての照明が落とされ、ハンターに目視されやすくなってしまう。

それまでに発光を止められるか…？

発行停止へ！（後書き）

22人を仕切るのって、大変ですね～（汗）

次回、エリアが暗闇に包まれる！

発光したままの逃走者の運命やいかに！？

光と闇が渦巻くキャンバス（前書き）

自分でも驚くほどペースで上げてます。

これが、皆さんの感想による影響なのでしょうか？

エリア消灯までおよそ6分半！発光を止める事は出来るのか！？

光と闇が渦巻くキャンパス

ウォッチ「多分ココダト思ウンテスガネ……」

農学部棟4号館にやつて来たウォッチ。しかし、建物の中にハンタ
ー……

ウォッチ「……ハンターイルジャナイデスカ……！」

一旦、近くの喫煙所らしき所に避難する。思つ様に入れない。

ポポ「ここ入つてみようかな？」

工学部棟3号館の中に入るポポ。

ポポ「ん……? 0504……」

ポポは暗証番号を入力する。

ポポ「あつー消えた……！」

ポポ ミッションクリア

ポポ「良かつた。見つからなかつたらビシジョウかと思つた

胸を撫で下ろすエスキモーの少年。しかし……

ポポ「へ……？」

建物を出た直後、近くを通り掛かつたハンターと目が合つた。最早、逃走不可能……

ポポ「・・・」 ポンッ

2ndステージ残り時間 75分40秒 ポポ確保 残り17人

ポポ「嘘～・・・? あんな目の前に・・・ええ～・・・?」

運の無かつたポポ。秒殺だ・・・

スネーク「『工学部棟3号館内にてポポ確保』・・・」

アイク「3号館・・・! ? 今向かおうとしてる所じゃねえか・・・!
危ねえ・・・!」

カービィ「確保情報とかどうでもいいよ・・・! 緑の暗証番号何処
だよ～?」

既に2回解除に失敗しているピンク玉。完全に取り乱している。

ヨッシー「いじですね~」

工学部棟2号館の中に入る恐竜。

ヨッシー「ありました。0705・・・」

ヨッシーは暗証番号を入力する。

ヨッシー「あつ! 消えましたー!」

ヨツシー ミッショングクリア

ヨツシー「これで暫くは安全ですね」・・・つてわつ！」

スネーク「バカ・・・！俺だよ、俺・・・！」

スネークだ・・・

ヨツシー「あれ？スネークさん、ボクと同じ橙ですね」

スネーク「何！？お前も橙だったのか！？」

ヨツシー「はい。この暗証番号が正解みたいですよ」

スネーク「かたじけなヨツシー」

スネークは暗証番号を入力する。

エリア消灯まで 5分

スネーク「おお・・・！確かに消えた・・・！」

スネーク ミッションクリア

スネーク「これなら、暗闇でも安心だ・・・！」

ヨツシー「ですね？」

ウルフ「ちくしょう・・・！何処だよ、暗証番号・・・！」

まだ発光を止める事が出来ない狼。

工学部棟へと移動している。しかし、向かう先にハンター・・・
ウルフ「暗くなつたら最悪だな・・・あと4分半ぐらいか・・・
！間に合うか・・・？ん・・・？あれハンターだな・・・？」

ハンターを叩きし、引き返すウルフ。しかし、ハンターは気が付いて
いない。

ウルフ「ちくしょう・・・！遠回りしねえといけねえのか・・・？」

ハンターを叩きし、思う様に動けない。

ウォッチ「ヤット着キマシタカ・・・」

ハンターが立ち去り、やつとの思いで中に入る事が出来た2次元。

ウォッチ「掲示板ハ・・・何処デスカ・・・？アツ、コレミミタイデ
スネ。1305・・・」

ウォッチは暗証番号を入力する。

ウォッチ「アツ！消工マシタ！消工マシタ！」

ウォッチ ミッションクリア

ウォッチ「黄緑ハ意外ト厄介デスカラネ。解除出来テ良カツタデス

」

その厄介な黄緑を解除出来ていない……

アイク「ヤバいぞ……行き当たりバッタリで解除するしか……！」

クールな青年・アイクと……

ドンキー「にんなに光つて……確実に目付けられる……早く暗証番号を見つけないと……！」

ジャングルの王者・ドンキー……

ゼルダ「時間無い……」のままじゃ……とつあえず「」のを……！」

農学部棟2号館にやつて来た姫。

ゼルダ「掲示板つて何処……？あつた。えつと……」

エリア消灯まで 4分

そこへ、同じ色に発光しているロボットが入つて來た。

ロボット「ゼルダサン！」

ゼルダ「ロボット。」つち、つち

しかし……2人の近くにハンター……

ゼルダ「これ・・・多分これだと思つただけど・・・」

ロボット「ジャア、早ク入力シマショウ・・・」

2人は暗証番号を入力しようとする。

しかし、ハンターに見つかった・・・

ゼルダ「210・・・あつ、ハンター来た！」

ロボット「何テスト！？」

一目散に逃げる2人。その間に、ゼルダは最後の1つの番号を入力。

ゼルダ「あつ、消えた！消えた！」

ゼルダ ミッションクリア

しかし、ロボットは逃げるのに精一杯で、まだ解除出来ていない。

ハンターの標的になつたのは・・・

ピ――――――――――――

ロボット「不味イテスー！」

解除出来ていなロボットだ・・・

ロボット「ハ・・・早ク解除シナケレバ！」

走る時に振動が起きないロボット。逃げながら腕に付けられた装置に暗証番号を入力する。

ロボット「解除出来マシタ！」

ロボット ミッションクリア

ロボット「ソンナ事言ツテ、安心シテル場合ジャアリマセンデシター！」

ハンターは追跡を続ける。そして、その差はどんどん縮まる。最早、逃走不可能・・・

ロボット「ハハハハハ！」 ポンッ

2ndステージ残り時間73分6秒 ロボット確保 残り16人

ロボット「ア～・・・！逃げ始メタラ、スグニ入力シトクベキデシタ～・・・」

エリア消灯まで 3分

後悔先に立たずだ・・・

ネス「また確保情報だ・・・！早いな、これが来るペース・・・！」

ゼルダ「『北食堂付近にてロボット確保』・・・ええ！？あのまま追われたの！？」

カービィ「何処！？」

縁の暗証番号が見つからず、すっかりパニック状態に陥っているピンク玉。

そこへ、自称・疫病神のファルコン・・・

ファルコン「おい、カービィ！ 静かにしりー。」

カービィ「だつてー！」

ファルコン「お前も縁か？」

カービィ「『も』ってどういう事！？」

ファルコン「工学部棟1号館に行け。そこにある暗証番号が縁に繋つながってるみたいだ」

カービィ「ホントに！？ 有難うー！」

そう言つと、カービィは本物のボールの様に、転がる様に工学部棟1号館を両指す。

ファルコン「あいつを巻き添えにしない為には、この場で教える訳にはいかねえんだよ・・・！ 教えたくても教えられない・・・最低だな、俺・・・！ 完全に悪者だよ・・・！ カービィ済まない・・・！」

彼から疫病神のレッテルが剥はがれる事は、当分無いだろ？・・・

縁に発光している逃走者が、別の場所にもう一人・・・

ソニック「〇一 二〇・二二」も違うのか

農学部棟の暗証番号を、手当たり次第入力している。しかし、彼が目指すべき暗証番号は工学部棟1号館……

エリア消灯まで 2分

ソニック「あとは4号館だけか……」

それでもなお、農学部棟に拘るハリネズミ。

桃色に発光しているルカリオ。

ルカリオ「ここか……？」

彼は工学部棟4号館へと入る。「名答だ……

ルカリオ「これか……！ 一四一一……」

ルカリオは暗証番号を入力する。

ルカリオ「よしつ……消えた……！」

ルカリオ ミッションクリア

ルカリオ「ここまで辿り着くのに、相当時間掛かったな～」

カービィ「ここだ～！」

漸く工学部棟1号館に辿り着いたカービィ。

カービィ「何処だ？ 暗証番号・・・掲示板・・・あつ、これだね。
えつと・・・0514・・・」

カービィは暗証番号を入力する。

カービィ「消えた！ やつたー！」

カービィ ミッショングクリア

カービィ「有難う、ファルコン！」

感謝されるファルコン。しかし・・・

ファルコン「カービィ・・・捕まらないでくれよ・・・捕まつたら、
完全に俺は疫病神だからな・・・」

ネガティブ思考になるレーサー・・・

エリア消灯まで 1分

ドンキー「あと一分だ！ 不味いー早く解除しない」とー」

焦るドンキー。

アイク「着いた・・・！」

やつとの思いで、農学部棟4号館に到着したアイク。

アイク「これだな、暗証番号は・・・頼む・・・!当たつてくれ・

・・!これでハズレだつたら、確実に終わる・・・!1305・・・

「

アイクは暗証番号を入力する。

アイク「おっ!やつた、消えた!助かつた!・・・!」

アイク ミッションクリア

そこへ、ソニックが到着。

ソニック「おっ、アイク。解除したのか?」

アイク「ソニック。あれ?お前縁なのか?」

ソニック「Huh?何だ、その怪訝な顔は?」けげん

アイク「ここに掲示されてるのは、縁の暗証番号じゃないぞ」

ソニック「What!?って事は、農学部棟全滅かよ!?!マジかー!
!?!今までこの辺を回つてた意味は何だつたんだ!?!」

エリア消灯まで 30秒

アイク「その口は、工学部棟の方には行つてないな?」

ソニック「そ・・・そだ・・・」

アイク「じゃあ、早く行けよ。もうあと20秒だぞ?」

ソニック「Huh? だったら、ここでお前と話してたる時間は無えぞ! Hurry up!」

ソニックは、持ち前のフットワークで工学部棟を目指す。

アイク「ハリーアップって……それお前だらうがよ……」

ウルフ「くそつ！何処だ！？」

農学部棟2号館に入つて来たウルフ。

エリア消灯まで 10秒

ウルフ「これだな……これでダメだったら、もつ終わりだ……
!2105……！」

ウルフは暗証番号を入力する。

ウルフ「ん？ 消えた……ヨッシャー！ 危ねえ、ギリギリだ……
！」

ウルフ ミッションクリア

そして、エリアの照明が落とされた……

ヨッシャー「わづ！」

ゼルダ「きやつ！」

フォックス「おっ、吃驚した……！」

ウルフ「建物の中も暗くなつたぞ？」

エリアは漆黒の闇に包まれた……

ソニック「ヤバいぜ……」これ相当田立つな……

ドンキー「消えちゃつた……不味い……完全にピンチだ……
・…」「

発光を止められていないのは、ソニックとドンキーの2人。闇に浮かぶ緑と黄緑の光・・・2人はハンターの搜索を掻い潜り、暗証番号を探さなければならない。無事解除できるのか！？

光と闇が渦巻くキャンパス（後書き）

暗闇に包まれ、安堵の表情を浮かべる14人。

漆黒のキャンバス内で、彼等はここからの10分間どう動く！？

そして次回、発光し続ける2人の運命は！？

緊迫と安息の10分間（前書き）

リアルルイージさん・アマガエルさん、感想有難う御座います
発光したまま移動するソニックとドンキー。

ハンターに見つかる事無く、解除する事は出来るのか！？

そして、絶好の隠れ場となつた暗闇に溶け込む14人は！？

緊迫と安息の10分間

ソニック「〇〇 〇〇・・・・・信頼まで消えてるぜ・・・?」
やまるで停電だ・・・・・」

ドンキー「前が全然見えない・・・・・暗過ぎの・・・・・」

緑色に光るハリネズミと、黄緑に光るゴリラ。ハンターに見つかる危険性が非常に高い中、目的の暗証番号を探し続けていた。

その時・・・

プルル プルルルルル

ドンキー「うるさいこな・・・・!何・・・・?」

ソニック「通達2・・・?』これより、どの色が何処の暗証番号と繋がっていたかを公表する』・・・助け舟だ・・・!」

ドンキー「黄緑は・・・えつ!農学部棟4号館!-?まだ結構な距離あるじやん・・・!」

ソニック「緑、緑・・・おつ、工学部棟1号館・・・近いぞ・・・!
!」

工学部棟1号館付近の小道にいたソニック。一方ドンキーは、工学部棟4号館付近にいた為、まだかなりの距離がある。

ドンキー「遠いけど・・・開き直つていいくしかない・・・・・」

ソニック「もう少しだな・・・」

その頃、既に発光を止めた逃走者達は・・・

スネーク「この闇はいいな・・・隠れるのに最適だ・・・ハンターは近くに来ようと、俺の事など見つけられまい・・・」

ウォッチ「10分間・・・本心トシテハ、コノ状態ガズツト続イテホシイデス・・・」

ファルコ「ハンターは、多分俺の姿は見えてない筈だ・・・少し休むか・・・」

ゼルダ「解除しといて、ホントに良かつたわ・・・光り続けてたら、相当きつかつた筈・・・」

カービィ「楽だ・・・ハンターは明かりにしか集中していないから、すごい楽・・・」

アイク「こんな安全な時間なんて、今まであったか・・・?」

ウルフ「この暗闇・・・光つてたら絶対動けねえよな・・・」

樂觀的な口調で、明かりが戻るその時を待っている。

ソニック「OK・・・!」

漸く工学部棟1号館に辿り着いたハリネズミ。

ソニック「うわあ・・・完全に停電だな・・・中の電気も消えちまつてる・・・」

ソニックは中に入り、自分から発せられる光で掲示板を照らす。

ソニック「点滅してるから、読みにくいな・・・何、何？0514・・・」

ソニックは暗証番号を入力しようとすると。

ピ――――――――――

しかし、近くにいたハンターが、ソニックの姿を捉えた・・・そのまま確保へと向かう。

ソニック「0514・・・よしつ！OK！」

ソニック ミッションクリア

ソニック「ん・・・?」この足音・・・ハンターか!?

近付いてくる足音に気付き、ハンターを確認した後、一目散に逃げるソニック。

発光を停止させた事が功を奏し、ハンターの視界から消えた様だ。

ソニック「ほお〜・・・ハンターいた〜・・・あと1秒でも解除するものが遅かつたら、確実に捕まつてたな・・・Safe・・・」

これこそ正に、九死に一生だ・・・

これで発光を止められていないのは、ドンキーただ一人。間に合つのか。

ドンキー「もう・・・4号館が遠い・・・！」

あと少しで農学部棟4号館に辿り着く。

ドンキー「もう・・・」

しかし・・・ハンターに見つかった・・・

ドンキー「あっ・・・！ハンターだ・・・！何で寄りこよつて、こんな所で・・・！」

一目散に逃げるドンキー。

ドンキー「ヤバい・・・！」のまま普通に逃げてたら、絶対捕まる。・・・こいつなつたら・・・」「

ドンキーは近くにあつた小道とそこにある多くの曲がり角を利用して、逃げ続ける。

間一髪撒いた様だ。

ドンキー「もう・・・辛い・・・！」

しかしハンターに追われて、農学部棟4号館から離れてしまった。

その姿を見たのは・・・

ヨッシー「なんか・・・黄緑色の光が・・・人魂みたいに、あそこをスーツと通つて行きましたけど・・・」

ヨッシーだ・・・

ヨッシー「でも点滅してたんで・・・恐ろしく、発光を止められていない誰かでしようね・・・」

発光を止めた今の彼にとつて、このミッションは他人事だ・・・

フォックス「あと5分で明かりが戻るな・・・」

マルス「すぐ走れる準備をしこう・・・明かりが戻った時に、ハンターが目の前にいたら堪たまらないからね・・・」

ピカチュウ「逃走中つて言つてる割には、今のボク全然逃走してないね・・・」

ネス「45万3千円・・・すごい金額・・・！でも、目標は逃げ切りだもん・・・！自首なんかしない・・・！誰か自首したら、その人の気が知れないよ・・・！」

ドンキー「早く行かないと・・・！」

未だに安堵の表情を浮かべる、発光を止めた逃走者達。彼らとは裏腹に、更に焦燥感を増す「リラ。

ドンキー「いんなどいろで、くたばつて堪たまるか・・・！」

歯を食い縛つて農学部棟4号館を押す。

しかし、またしてもハンター・・・

ドンキー「早く解除しないと・・・見つかっちゃうよ、このままじや・・・あ・・・嘘だーー！」

見つかった・・・

ドンキー「もう・・・何で行こうとすればするせび、ハンターと曰くわすの・・・？」

一田散に逃げるドンキー。しかし、前からも別のハンター・・・

ドンキー「な・・・！」ちからも・・・？」

逃げ続けるドンキー。しかし、次々と集まつて来るハンターに成す
術無し。最早、逃走不可能・・・

ドンキー「うおー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間62分15秒 ドンキーコング確保 残
り15人

ドンキー「へへ～・・・暗証番号～・・・」

レッド「『北門駐車場付近にてドンキーロング確保』・・・」

ルイージ「この時間に捕まるという事は・・・」

ポポ「間違い無い。光つたままだつたんだよ」

サムス「それにしても最悪だわ・・・寄りこよつて黄色の発光ベス
トだつたなんて・・・」

リンク「ホントですね。黄色は明るくても暗くても立つ色ですか
らね」

クッパ「吾輩はもつと最悪だ・・・赤色だつたし、ファルコンの身
代わりになつて捕まつたし・・・」

ガノンドロフ「クッパ・・・お前もか・・・」

クッパ「『もか』つて・・・どういう事だ?」

ガノンドロフ「俺も逃げてるファルコンに抜かれて、身代わりにさ
れたんだ・・・」

マリオ「ボクも、ハンターを見つけてファルコンと一緒に分かれた
時に標的にされたし・・・」

クッパ「そつか・・・まあ、ファルコンも悪氣があつた訳じゃない
からな・・・」

ガノンドロフ「当たり前だな。悪氣があつたら、俺やクッパよりも
質悪いぞ……！」

ロボット「サツキ私ガココニ来ル時ニ、ファルコンサンニ会ツタン
デスガ、彼自分ノ事ヲ疫病神ダト言ツテ、カナリ落チ込ンテマシタ。
・・・」

マリオ「疫病神か……3人も巻き添えにしたからね……落ち込むのも無理ないか……」

ナナ「それにしても、女人で残つてゐるゼルダだけだね？」

ピーチ「そうね……彼女は、私達女性の最後の望みね……」

プリン「頑張つてほしいでしゅ……といふか、逃げ切つてほしい
でしゅ……」

そして、エリア内に再び照明が灯ともされた……

ファルコン「戻つた、戻つた……さあここからだ……！」

ファルコン、疫病神のレッテルを剥はがせるのか。

フォックス「よしつ……この60分が勝負だな……ん……
？」

フォックスがある異変に気付いた。そして、左の手首に付けられた
タイマーを指で叩いたり、左手を振つたりしているではないか。一

体、どうしたといつか?

フォックス「何だこれ!?」止まつちまつたぞ、タイマーが!」

なんと、タイマーが残り60分を表示したまま止まつてしまつたのだ。

カービィ「えつ!? 何で、何で、何で!?

ルカリオ「どうい事だ!?

マルス「まさか、壊れた訳じやないよね!?

他の逃走者も、動搖を隠せない。

・・・と、その時・・・

プルル プルルルルル

ファルコ「うるせえな! 毎回、毎回! 何だつづんだよ!?

ヨッシー「通達?・?・?

ネス「『これより、ゲームを一時中断し』・?・?

スネーク「『ハンターの数を減らすゲームを行つ』・?・? 何!?

ソニック「WOW! これはまたとないチャンスだ!」

ピカチュウ「ここで何体かは減らさないと・?・? 7体なんてどう

考えたつて多過ぎだもんね・・・！」

逃走者に『えられた、ハンター消滅のチャンス。

果たして、そのゲームとは！？

緊迫と安息の10分間（後書き）

次回、ハンター消滅ゲームが行われる！

その内容とは！？そして、逃走者達は何体のハンターを消滅させられるのか！？

ハンター消滅ゲーム開始！（前書き）

逃走者に与えられたかつてないチャンス。

彼等はこれを生かし、何体のハンターを消滅させられるのか！？

ハンター消滅ゲーム開始！

逃走者に通達された、ハンターを消滅させるチャンス。

それは・・・

『逆逃走中』

逆逃走中とは、逃走者とハンターの立場が逆になる。要するに、逃走者がハンターを捕まえるものだ。

逃走者がハンターを確保すれば、確保されたハンターは消滅。最大6体を減らす事が出来る。

制限時間は10分。6体確保するか制限時間が過ぎたら、ゲームは終了となる。

但し、自身が持つ小道具や必殺技でハンターを倒したり捕まえたりしたら、その逃走者は強制失格となる。

フォックス「今までにない形だな、俺達がハンターを追いつて・・・！」

ソニック「俺の自慢の足をハンターに見せつけるチャンスだな・・・！」

ルカリオ「6体捕まえるつもりでやるか……！」

逃走者達も、立場が逆転するという事で、今まで以上に身体を奮い立たせる。

アイク「最低でも2体は減らしたいな……」

ビビリのアイクも、やる気満々だ。

そして、逆逃走中がスタート。

ヨッシー「ハンター何処にいるんでしょうか？」

カービィ「出て来い、ハンター……」

ハンターを捜索する逃走者達。

ウルフ「いたぞ！」

ウルフがハンターを発見。確保へと向かう。

ウルフに気付いたハンターは、通常の逃走中で逃走者を追つ時と同じスピードで、一目散に逃げていく。

ハンターも手加減はしない。

ウルフ「逃げるのも速えな、ハンター……簡単に逃げられた……」

・」

マルス「いた！」

別の場所で、マルスがハンターを発見。確保へと向かう。

しかし、マルスに気付き一目散に逃げていく。

マルス「待てー！逃げるなー！」

そんな事を言つても、ハンターは止まってくれない。

マルス「ダメだ・・・！追いかけない・・・！」

ピカチュウ「いた、いた！」

更にピカチュウもハンターを発見。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

しかし、逃げた先にカービィの姿・・・

カービィ「あつ！」

視界にハンターを捉え、確保しようとする。しかし・・・

カービィ「ああ！？」

身体が小さい事が災いしたのか、そのまますり抜けられてしまった。

ピカチュウ「何やつてんの、カービィー！折角^{せっかく}のチャンスを…」

カービィ「ゴメン。でも、やっぱり速いよ。普通に追い掛けても、絶対捕まえられないよ？」

ピカチュウ「そうだよね…」

ソニック「おつ！いたぞ！」

ソニックもハンターを発見。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

ソニック「逃げるんじゃねえぜ！」

ハンターと粗^{ほほ}一定の距離を保ちながら追い掛け続けるハリネズミ。
その近くに、自称・疫病神のファルコン…

ソニック「全然縮まらねえじゃねえか！これじゃあ、埒明かねえ！」

ファルコン「ん？ハンターだ！」

向かつてくるハンターを視界に捉えた疫病神レーサー。確保へと向かう。挟み撃ちだ…

2人の俊足な逃走者に挟まれたハンター。フェイントを利用し、脱出を試みた。しかし…

ファルコン「甘いぜ！」

そのままファルコンに確保され、電子音と共に消滅。

消滅ゲーム残り時間6分41秒 ハンター1体目確保 残り6体

ソニック「Yes! よくやつたぜ、ファルコン!」

ファルコン「この調子で、他のハンターも捕まえるぞ!」

ソニック「当たり前だ!」

ファルコン、これで疫病神のレッテルは、少しば剥^はがれたか?

ファルコ「ちくしょう・・・! ハンターが見つかねえ・・・!」

スネーク「いくら明かりがあるとはいって、あの黒ずくめの姿じゃ目
視するのも困難だ・・・!」

ウォッチ「何処デスカ、ハンターッテ?」

ファルコ・スネーク・ウォッチの3人は、ハンターを見つけられな
いでいる。

アイク「いたな、ハンター・・・!」

ハンターを見つけたアイク。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

アイク「あつ! 待てコラ!」

必死に追い続けるアイク。しかし、ハンターとの距離はどんどん広がっていく。

アイク「やつぱり……そう簡単には捕まえられないか……！」

ヨッシー「いましたね、ハンター……！」

別の場所で、ヨッシーもハンターを発見。確保へと向かう。

しかし、気付かれた……ハンターはヨッシーから一目散に逃げていく。

ヨッシー「絶対逃がしませんよー！」

執念を見せるヨッシー。しかし、ハンターとの距離は広がっていき、曲がり角を使われて見失ってしまった。

ヨッシー「何なんですか、あの速さは……1人じゃ無理ですね……」

消滅ゲーム終了まで 5分

ネス「超能力でハンターの動きを封じればいいのに……それも禁止だからな……」

通常の逃走中でも禁止されている事である為、当然この消滅ゲームでも使つてはならない。

ネス「何処か行き止まりに追い込むしかないかな？」

ルカリオ「見つけたぞ、ハンター！」

遠くにハンターを見つけたルカリオ。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

ルカリオ「逃がすか！」

追い続けるルカリオ。しかし、ハンターに撒かれた・・・

ルカリオ「くそ・・・！」これじゃあ消滅させられない・・・どうすればいいんだ・・・？」

一緒に行動するピンク玉と黄色いネズミ。2人で協力して、ハンターを捕まえる作戦の様だ。

ピカチュウ「カービィ、今度こそちゃんと頼むよ。あの失敗だけはもう止めてよ」

カービィ「何回も言われなくとも分かってるって」

ゼルダ「あつ、ネス」

超能力少年と会った姫。

ネス「ゼルダ？」

ゼルダ「ネス。2人でハンター追いましょう」

ネス「追うつてどうするの？ハンター滅茶苦茶速いんだよ？」
めちゃくちゃ

消滅ゲーム終了まで 4分

ゼルダ「^{おじこ}囮を使って、ハンターを誘き寄せるよ」

ネス「ああなるほどね。OK!じゃあ、ボクが近くのハンター探し
てくるよ。見つけたら、ここに連れて来るから。頼むよ?」

ゼルダ「任しといて!」

この2人も協力する作戦だ。

ファルコ「おっ。のこりのこと現れやがったな、ハンター!」

ファルコが近くに現れたハンターを見つけ、確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

ファルコ「お前は俺の獲物だ!逃げんじゃねえ!」

獣の様な目でハンターを追い掛ける青雉^{あおきじ}。しかし、茂みの中に逃げ込まれ見失つてしまつた・・・

ファルコ「チッ・・・!流石ハンターだな・・・!」

感心している場合ではない・・・

ゼルダとの作戦で、近くを探すネス。そこに近付く狐^{きつね}

フォックス「ネス。ハンターいたか?」

ネス「探してるんだけど、見つからないんだよ」

フォックス「まあ、ハンターが俺達みたいにピリピリする事なんて無いもんな?」

ネス「確かに・・・あれ?あつ、ハンターだ!」

フォックス「マジか!?ヨツシャー!捕まえてやるぜ!」

ネス「そのまま北食堂の方へ追い込んで!そこにゼルダがいるから!」

消滅ゲーム終了まで 3分

フォックス「ゼルダ・・・なるほど、挟み撃ち作戦か・・・!了解だ!」

俊足のフォックスに追われ、一目散に逃げるハンター。

ネス「ボクは万が一に備えて、こっち行つとこう!」

ソニック「ハンターが見つかねえぜ・・・!」

ファルコンと協力してハンターを消滅させたハリネズミ。次なる標的を探している様だ。

マルス「あれから全然ハンター見ないな・・・」

俊足を生かせない王子。エリアを彷徨う・・・

フォックス「逃げろ、逃げろー！その先には・・・！」

ハンターを追い続ける狐きつね。ネスに言われた通り、ゼルダの待つ北食堂へ。

フォックス「ゼルダ！」

ゼルダ「えっ？あつ、ハンター！」

視界にハンターが現れ、確保しようとする。しかし・・・

ゼルダ「あつ！」

フォックス「何！？」

ハンターはゼルダに突進せず、近くの脇道へ逃げて行ってしまった。

フォックス「くそ・・・！」

その時・・・

ネス「早く誰か来て！」

ゼルダ「今の声って・・・」

フォックス「ネスだ！さっきハンターが逃げて行つた所からだ！」

2人は声のした方へ急ぐ。

カービィ「いたね、ハンター・・・！」

カービィが遠くにハンターを発見。

ピカチュウ「ホントだ・・・！じゃあ、作戦開始・・・！」

カービィ「OK・・・！」

消滅ゲーム終了まで 2分

2人が企む作戦とは？

その頃、ネスの声がした所に辿り着いた狐と姫。

フォックス「あれ？ ネスがいねえぞ？」

ゼルダ「何処行つたのかしら？」

ネス「あっ！ フォックス！ ゼルダ！ こっちだよ！」

フォックス「あっちか！？」

再び声のした方へ向かう2人。そこには、行き止まりにハンターを追い込んだネスの姿・・・

ゼルダ「ネス。どうやつてここに？」

ネス「万が一2人が取り逃がした時に備えて待つてたら、いい追い込み場所を見つけてね。そこへ現れたハンターをここまで追い込んだって訳！」

ゼルダ「すごいわね、ネス」

ネス「そんな事無いって」

フォックス「談笑するのはそのぐらいにしておけ……おい、ハンター！観念しろ！」

鋭い視線でハンターを睨むフォックス。

しかし、ここで怖氣付くハンターでは無い。フェイントを利用して、強行突破を試みた。しかし・・・

フォックス「諦めの悪い奴だな！」

そのままフォックスに確保され、電子音と共に消滅。

消滅ゲーム残り時間1分27秒 ハンター2体目確保 残り5体

フォックス「よしつ！1体消滅したな！」

ネス「でも・・・ボク達が仕事出来るのは、ここまでみたいだね」

ゼルダ「ホント・・・もうあと一分ぐらいね・・・

フォックス「まあ、1体減らせただけでも十分な仕事したと思うんだけどな」

ネス「そもそもそうだね」

ピカチュウ「待てー！」

ハンターを追う黄色いネズミ。一目散に逃げるハンター。その逃げる先に、息を殺して待ち構えるピンク玉・・・

消滅ゲーム終了まで 2分

ピカチュウ「今だ！」

カービィ「やあーー！」

ピカチュウの合図で、茂みから飛び出したカービィ。

しかし・・・

カービィ「あれ？」

ハンターは、まだ少し遠めのところだった・・・

ピカチュウ「うわー！タイミング間違えたー！」

そのままカービィは地面に倒れた。その後、何者かに蹴飛ばされた。

カービィ「あ～れ～」

危機感の無い叫び声と共に飛ばされるピンク玉・・・

その後、何回かバウンドした後その場に尻餅を着いた。

消滅ゲーム終了まで 1分

カービィ「痛たたたたたた・・・ 酷い目に遭つた・・・ あれ? ハンターは?」

カービィは辺りを見渡すが、ハンターの姿は疎^{すき}か足音も聞こえない。

カービィ「ピカチュウ。ハンターは?」

そう言いながら、カービィはピカチュウに近付く。ところが・・・

カービィ「ピカチュウ? ピカチュウ?」

ピカチュウは、呆氣^{あつけ}に取られた表情をしている。

ピカチュウ「あ・・・ あんな捕まり方ってアリ・・・?」

カービィ「ほえ?」

ピカチュウ「さつきハンターが、カービィが視界に現れたから止まろうとしたんだけど・・・ 止まれずに勢い余つて、カービィの事を蹴飛ばして・・・ そしたらハンター・・・ 消えちゃった・・・」

カービィ「えつ?」

何と言う事か、カービィを蹴飛ばしたのはハンターだった。そしてこのゲーム、ハンターは逃走者に「触れられたら」消滅するものつまり、カービィに触れた事でハンターは消滅してしまったのだ。

消滅ゲーム残り時間12秒 ハンター3体目確保 残り4体

カービィ「まあ・・・結果オーライと言う事でいいんじゃない?」

ピカチュウ「いいのか悪いのか・・・分かんなくなっちゃった・・・」

「

そして、消滅ゲーム・逆逃走中が終了。

プルル プルルルルルル

ファルコ「メール来た・・・!」

ルカリオ「結果か・・・!』ソニック・ザ・ヘッジホッグ、キャブ
テン・ファルコン、ネス、ゼルダ、フォックス・マクラウド、ピカ
チュウ、カービィの活躍によりハンター3体消滅。その数は4体に
減少した』・・・おお、3体も・・・!』

ヨッシー「これは隨分と楽になりました~」

ウォッチ「4体デスカ・・・!逃げ切レル氣ガシテキマシタ・・・
!」

アイク「ハンター減ると、気持ち的にもスッキリするな~」

他の逃走者も、歓喜の声を上げる。

ハンターが3体消滅し、その数は4体となつた。

これより、再び逃走劇がスタートする!

ハンター消滅ゲーム開始！（後書き）

現在生き残っている逃走者は、フォックス・ファルコ・ウルフ・マーリス・アイク・ソニック・ピカチュウ・ルカリオ・ネス・ヨッシー・カービィ・スネーク・ウォッチ・ゼルダ・ファルコンの15人。

ハンターが4体となり、かなり楽になつた逃走者達！

次回、60分間の逃走劇がスタート！

果たして、生き残るのは…？

ゲーム再開！（前書き）

ハンターが4体に減少し、俄然有利になつた逃走者達！がぜん

しかし・・・逃走者に新たなる危機が迫る！？

ゲーム再開！

2ndステージ残り時間60分---ゲーム再開

再び逃走者を確保するべく起動した、4体のハンター。

ピカチュウ「最低でも60万円までは行きたいな。60万円あれば、いい温泉に行けるもんな！」

賞金の使い道は、温泉旅行だというピカチュウ。賞金を獲得し、伝統の湯に浸かる事が出来るのか。

ゼルダ「絶対自首はしない・・・！私はいろんな意味での唯一の生き残りだし・・・こんなところで捕まりたくない・・・！」

彼女の世界、そして女性逃走者唯一の生き残りの姫。逃げ切りなるか。

アイク「隠れてた方がいいな・・・」

ハンターが4体に減つても、ゲームが再開した途端、ビビリ丸出しひの青年。

アイク「もうヤダ・・・！さつきハンター消滅ゲームに参加したんだから、もうこれから絶対ミッションなんかやらねえ・・・！来たつて絶対動かねえ・・・！足速い奴があんなにいるんだからせ・・・！そいつ等がやればいいじゃん・・・！」

もう、ミッションには無関心の様だ・・・

工学部棟4号館の長椅子の下に隠れる隠密潜入のエキスパート。

スネーク「俺は隠れる事が生き甲斐^{がい}みたいなもんだ……動くのは性に合わん……！」

フォックス「動いてた方がいいな、これ」

スネークとは裏腹に、ゲーム開始から殆ど動きつ放しのフォックス。

ソニック「OK……ハンターいないな……」

ハンター 消滅に貢献したソニック。

ソニック「ハンターツて、俺と大体同じくらいの速さだつたな……！遠くからだつたら逃げ切れるけど……油断したら絶対捕まるな……！」

ルカリオ「4体に減つたから、多少なりとも動きやすくなつたな……」

何やら作戦を考えている波導の使い手。

ルカリオ「ループ道路の方に行くかな？この農学部棟付近の道路は、脇道も多いし……」

ウルフ「その辺から来そうだな、ハンター……」

周囲を警戒するウルフ。ここまでかなりの距離を移動しているが、全く息を切らしていない。これが、底知れぬ持久力^{そな}を具える彼の実

力なのか。

その彼に近付く、黒い影・・・

ウルフ「いくら4体に減ったとはいえ、いなくなつた訳じゃないから・・・ん・・・あれハンターか・・・！？ヤバい・・・！」

すぐさま工学部棟2号館の中に避難する。気が付かれてい無い様だ。そのまま別の出入口から建物の外へ。しかし、その先に・・・またしてもファルコン・・・

ウルフ「ファルコンか・・・」

ファルコン「ああウルフ・・・」

何氣なく話し掛けたが、ファルコンは内心、ウルフの許から離れたがっている。しかし・・・

ウルフ「そっちハンターいたか？向こうに1体見たからこっち来たんだが・・・」

ファルコン「い・・・いや、あのな・・・」

ウルフが執拗に話し掛けてくる為、思つ様に離れられない。

そこへ・・・やはりハンターの影・・・

ウルフ「お前、ハンター消滅に貢献したらしいな。メールに名前載つてただろ？」

ファルコン「あ・・・あのわ・・・あんまり・・・」

ウルフ「やつぱり、伊達に^{だて}1stステージ逃げ切つてねえな。ホント見直すよ、お前には」

ファルコン「一寸^{ちよつと}・・・ホントにもう・・・」

ウルフ「俺、次のミッション必ずやるからな。お前も参加しろよー。」

ファルコン「そいつ事は・・・ほら、やつぱり来たじゃねえか!」

見つかった・・・

ウルフ「つかまーー!」

別方向へ逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ――――――――――

ウルフ「くわ～つ!」

ウルフだ・・・

ファルコン「最悪だーー!」

しかし、叫んでるのは自称・疫病神のファルコン・・・

ウルフ「何であいつが叫んでんだよー? 叫びたいのは俺の方だ!」

そう言いながら一田散に逃げるウルフ。

持久力では、ハンターに勝るとも劣らないウルフ。しかし、ハンターとの距離が徐々に詰められる。最早、逃走不可能……

ピ――――――――――――――――――

ウルフ「があー！」　ポンッ

2ndステージ残り時間56分57秒　ウルフ・オドネル確保
残り14人

ウルフ「もう終わりかよ……！？速え……！速過ぎるだろ、ハンター……！」

瞬発力ではハンターの方が上だった……

またしても、他の逃走者を犠牲にしたファルコン……

ファルコン「どうすんだよ……？これであいつが捕まつたら……！」

ウルフ「それにしても……ファルコンの奴……やけにそわそわしてたな……？どうしたつづうんだ……？」

ファルコンが疫病神と自責している事を彼は知らない。

プルル　プルルルルル

ピカチュウ「あっ……！メール来た……！」

ウォッチ「『北食堂付近にてウルフ・オドネル確保』……北食堂
すぐ近クジャナインデスカ……！」

ファルコン「だから嫌だつたんだよ、一緒にいるのが……！はあ
……これで疫病神にまた近付いた……！」

これで、彼の巻き添えに遭つたのはガノンドロフ・マリオ・クッパ・
ウルフの4人となつた。やはり、彼から疫病神のレッテルが剥^はがれ
る事は無いのだろうか。

ファルコ「何だつたんだ、さつきの叫び声……？確実にウルフの
じやなかつたよな……？あれ……？ファルコンじやねえか……
ん……？すげえ落ち込んでる……？どうしたんだ……？」

疫病神に更に近付いたレーサーに近付く青雉。あおきじ

ファルコ「おい、ファルコン。どうしたんだよ？捕まつた訳でもね
えのに、何で落ち込んでんだよ？」

ファルコン「話し掛けるな……」

ファルコ「は……？」

ファルコン「俺と長い事関わると……ハンターに捕まるぞ……
？」

ファルコ「な……何言つてんだよ？サツパリ分かんねえんだけど
……」

「」

ファルコン「俺は疫病神だ・・・」

ファルコ「は・・・?」

ファルコン「俺に閑わつた奴は・・・確実に捕まる・・・もう俺に付き纏うな・・・」

そう咳くと、疫病神と自称するファルコンはフラフラヒファルコの許を離れる。

ファルコ「おい待てよ!」

青雉の怒鳴り声にも、レーサーは振り向きもせず去つていく。

ファルコ「何言つてんだよ、あいつ・・・疫病神だの付き纏うなだの・・・て言うか、そんな風にフラフラ動いてたら、お前に疫病神が舞い降りるぞ・・・? たく・・・」

吹つ切れたファルコは、ファルコンの許へ駆け寄る。そして・・・

バシンッ!

彼はファルコンの頬を思いつ切り引っ叩く。

ファルコ「おいファルコン! いい加減にしろよ! 何があつたのか知らねえが、自分を責めてんじゃねえよ! 落ち込む前に、お前にはやる事があるだろ? がーこの逃走中で逃げ切るんだろー?」

ファルコン「・・・!」

ファルコンは叩かれた頬を押さえて、呆気に取られた表情をしている。

ファルコ「お前らしくねえぞ。折角ハンターも4体に減ったんだ。全員でゴールを目指して・・・兎に角今は、逃げ切る事を考えろ」

ファルコン「す・・・済まないな、ファルコ。どうかしてたよ、俺漸く立ち直ったレーサー。しかし、ファルコの怒鳴り声に反応したハンターが2人に近付く・・・

ファルコン「おい・・・ハンター来たぞ・・・！」

ファルコ「マジかよ！？」

見つかった・・・

一手に分かれて逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ――――――

ファルコン「とつとう俺が狙われる時か！？」

自称・疫病神のファルコンだ・・・

ファルコン「こっち行くか・・・！」

一目散に逃げるファルコン。逃げた先にあつた茂みを利用して、上手く撒いた様だ。

「本 ファルコン 「本当だつたら、捕まるべきなかもしけねえが・・・・・
俺にとつては、逃げ切る事があいつ等への償いだ・・・・！」

ファルコンを追つたハンターが向かう先には、ルカリオ・・・

そして、見つかった・・・

ルカリオ ん・・・? わあ〜!

一目散に逃げるルカリオ。しかし、ハンターに気付くのが遅過ぎた。
最早、逃走不可能・・・

— — — — —

ルカリオ「ぎょえー！」

2ndステージ残り時間51分33秒
ルカリオ確保 残り13人

ルカリオ一捕まつた・・・！何でだ？

自分の作戦が仇となつた・・・
あた

ビカチエウーうわあゝ！ルカリオ捕まつたゝ！」

ゼルダ「『残り三人』・・・どんどん減つてゐわ・・・」

マルス「困ったなあ……どうすれば……あれ……？」

何かを見つけた王子。

マルス「あれって・・・ロイ!?」

遠くに、DXに参戦したロイを見つけた。

マルス「あれ? ロイだけじゃない・・・! ドクターマリオに子供り
ンクに・・・ピチューにミュウツー・・・! 何で大学キャンパスに・
・! ? でも・・・何か様子がおかしいぞ・・・?」

元スマブラに参戦した5人。しかし、その動きは何処かゾンビを彷彿させるものだった・・・

・・・と、その時・・・

プルル プルルルルル

スネーク「何だ・・・?」

メールだ・・・

カービィ「来た・・・・! リッシュョン5・・・・」

ネス「『エリア内にロイ・ミュウツー・子供リンク・ピチュー・ド
クター・マリオが現れた』・・・え? 何で?」

アイク「『彼等は靈に憑依された状態でエリアを縦断している』・・・
・はあ! ? 幽靈に取り憑かれたのか! ?」

ソニック「『残り40分になり、彼等が第1体育館前の賞金減額装
置のスイッチを押すと』・・・

ゼルダ「『それ以降の賞金単価が1秒10円となる』……！？今1秒100円なのに、10円って……！ものすごい損じゃない……！」

ファルコ「『阻止するには、それぞれのキャラ専用のお守りで靈を身体から追い出さなければならない』……！」

フォックス「『急ぎたまえ！』……お守りって何処だ？」

MISSION？ 取り憑かれた元スマブラメンバーを正氣に戻せ！

エリアのループ道路に現れた、元スマブラメンバーの5人。彼等は幽靈に憑依され、エリアを縦断。残り40分に、向かう先にある第1体育館前に設置されている賞金減額装置に到着しスイッチを押すと、それ以降の賞金単価が100円から10円に減額される。阻止するには、保健管理センター内に置かれている、それぞれのキャラ専用のお守りを使って、彼等の身体から靈を追い出し、正氣に戻さなければならぬ。一人でも正気に戻せなければ、賞金は一気に減額してしまう。

逃走者に訪れた新たなる危機！

果たして、賞金減額を阻止する事は出来るのか！？

ゲーム再開！（後書き）

次回、取り憑かれた元メンバーと対面！

その時、逃走者達はどうなつてしまふのか！？

そしてファルコンは、これを機に疫病神のレッテルを剥がせるのか
！？

賞金減額阻止へ！（前書き）

ワーグナーさん・ジェッペルスさん、感想有難う御座います！

評価も沢山頂いて嬉しい限りです
たくさん

賞金減額装置へと近づく、憑依された元スマブラメンバー達！

その運命は…？

賞金減額阻止へ！

残り40分までにお守りを使って、憑依された元スマブラメンバーを全員正気に戻さなければ、それ以降の賞金単価が10分の1の10円に減額されてしまう。

ヨッシー「誰もいない深夜だから、ひやつときやうじつ百鬼夜行ふくわに行に相応しいって事ですか？」

カービィ「このミッションはやらないと…今まで頑張ってきた意味が無いもん！」

ゼルダ「行こいつ…ダメダメ、賞金減つたら…！」

アイク「さつきも言った通り、絶対行かねえ…そんな…映る映らないの問題じゃねえよ、こんなの…！」

スネーク「金が絡んでるミッションは、変に欲を出すと捕まる可能性が高くなるかな…動かん…！」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高まる。

ピカチュウ「一寸行つてみようかな…？」

ミッシュョンに動く黄色いネズミ。彼が向かう先に…

ピカチュウ「あつ…あれピチューとかじゃない？」

幽靈に憑依された元スマブラメンバー。ピカチュウは5人の許もとに駆け寄る。

ピカチュウ「う~わ~つ~! 滅茶苦茶怖い~!」

ゾンビ化した5人に慄のおくピカチュウ。

ピカチュウ「えっと・・・お守りは確か、保護管理センターだね?
よしつ、急げ!」

フォックス「いるな、ハンター・・・!」

遠くにハンターを見つけたフォックス。近くにあった工学部棟1号館の中に身を潜める。

フォックス「早く向こう行け・・・!」

ネス「怖いよ~・・・でも、行くつきゃない・・・!」

工学部棟2号館の近くにある脇道を使い、保護管理センターに近づくネス。しかし、そこにも・・・

ネス「いた・・・! いた・・・!」

ハンター・・・

ネス「何でいるんだよ~・・・? これじゃあ、近付けないよ・・・!
!」

ウォッチ「モウ動ケナイデスヨ、1回隠レテシマウト・・・」

工学部棟駐車場から殆ど動いていないウォッチ。彼の視線の先には・・・

ウォッチ「アレ・・・元スマブラメンバーデスカ・・・？」

ゾンビ化した元スマブラメンバー。その近くに、ハンター・・・

ウォッチ「怖イデスネ～、アノ容姿・・・ココカラハ離レタ方ガイ
イデスネ・・・」

そう言って動いた瞬間、ハンターに見つかった・・・

ウォッチ「ギャアー！」

一目散に逃げるウォッチ。しかし、その距離は徐々に縮まっていく。
最早、逃走不可能・・・

ウォッチ「ガア～！」　　ポンッ

2ndステージ残り時間47分43秒　Mr.ゲーム&

ウォッチ確保　残り12人

ウォッチ「アリヤリヤ～・・・アノママ隠レテレバ良カツタデス～・
・・」

プルル　プルルルルル

アイク「うるせえな、いつもいつも・・・！」

ソーシー「あつ・・・！』『工学部棟駐車場にてMr.ゲーム&am
p.・ウォッチ確保』・・・！」

ゼルダ「ウォッチまで捕まつた・・・！」

ファルコン「これで1stステージからの生き残りは、俺とゼルダ
だけだな・・・」

ソニック「ヨツシャー。着いたぜ」

ハンターの捜索を挿い潜り、保護管理センターに辿り着いたソニッ
ク。中に入つてお守りを手に入れようとする。しかし・・・

ソニック「ん？何でこんな大きな透明の箱に入ってるんだ？あれ・
・？あれ！？何だこれ！？開かねえぞ！？」

お守りを入れている箱が開かない。一体これはどういう事なのか。

すると彼は、箱の近くに一枚の紙が置かれているのに気付いた。

ソニック「ひく？』このお守りを手に入れたければ、情報処理セン
ターに置かれている鍵を使って箱を開けたまえ』・・・Huh！？
情報処理センター！？一寸待てよ！情報処理センターって結構距離
あるぞ！？」

お守りを保管している箱には錠前が掛けられていた。これを外す為
には、情報処理センター内に置かれている鍵が必要となる。

ソニック「何だよそれ！？メールには書いてなかつたじゃねえか！
ふざけんなよ！でも、ここから行つても相当時間掛かるし・・・誰

か近くの人に頼むか・・・！」

ソニックは情報処理センターに向かう様に電話を掛けまくる事に。

プルルルルル

フォックス「何だ、何だ、何だ・・・？ソニックから・・・ビッグ
した？」

ソニック「フォックスか？ソニックだが・・・」

フォックス「何だよ？」

ソニック「今すぐ情報処理センターに向かってくれ」

フォックス「何でだよ？そんな所に用なんか無いだろ？」

ソニック「俺な、今保護管理センターに来てるんだが、お守りが箱
の中に入つてて、その箱に鍵が掛かってるんだよ」

フォックス「何！？そんな事メールに書いてなかつただろ！？」

ソニック「そだろ？それで、その鍵が情報処理センターにあるつ
て近くにあつた紙に書いてあつたから頼むぜ！」

フォックス「分かつた！」

2人は電話を切つた。

フォックス「有り得ねえだろ、メールに書いてない事をミッション

にするなんて・・・！」

ソニック「よしつ・・・！次は・・・！」

プルルルルル

ネス「何、何？あつ・・・ソニック・・・！はい、ネスだけ？」

ソニック「ネス？保護管理センターには来るな。情報処理センターに向かってくれ」

ネス「えっ、何で？保護管理センターにお守りがあるんでしょ？」

ソニック「そうなんだけど、お守りが箱の中に入つて、その箱に鍵が掛かってて、お守りが取れねえんだよ」

ネス「ええ！？聞いてないよそんな事！」

ソニック「俺も保護管理センターに来て初めて分かつたんだよ。いいか、まずは情報処理センターで鍵を取れ。それからこっちに来いいな？」

ネス「OK！」

2人は電話を切つた。

ネス「酷い話だよ・・・！全部メールで教えてくれるのかと思つたら、そんな意地悪だつたなんて・・・！」

ソニック「どんどん掛けねえと・・・！」

賞金減額まで 5分

そこへ、ピカチュウがやって来た。

ピカチュウ「あれ？ソニック、どうしてそんなに焦ってるの？」

ソニック「どうしてもこうしても無えよ！お守りが取れねえんだよ！」

ピカチュウ「ええ？何で？」

ソニック「I o o k！お守りが箱に入つてて、その箱に鍵が掛かってるんだよ！」

ピカチュウ「ええ！？じゃあ、ボクがここに来た意味は何！？」

ソニック「I don't no！兎に角、今俺は生きてる奴らに情報処理センターに向かつ様に指示を出してるんだよ！」

ピカチュウ「ボクも手伝うよ！」

ソニック「ああ頼む！」

2人は情報処理センターに向かつ様に指示を出す事に。

しかし、その近くに2体のハンター・・・

ピカチュウ「誰に掛けたらしい？」

ソーック「俺はさつきフォックスとネスに掛けた」

ピカチュウ「分かつた」

— — — — —

そして、見つかった……

ヒカルニウニニセナシ！？

〔二〕

ハンターが視界に捉えたのは

ソニッケン
Wハユ! ? 僮カ! ?

逃げ遅れたソーグクだ・・・

ソーック「Oh no! 行き止まりだ！」

方向転換し、近くにある、現在は使われていない電話ボックスを使ってハンターを焼き回す。

そこへ、もう一體のハンター・・・・

賞金減額まで
4分

ソーック「不味い！完全にピンチだ！」

搔き回していたハンターを振り切り、逃げようとするソーック。し

かし、目の前に別のハンター。最早、逃走不可能・・・

ソニック「ニ○○○○○○○ー」 ポンッ

2ndステージ残り時間43分51秒 ソニック・ザ・ヘッジhog
ツグ確保 残り11人

ソニック「2体相手かよ・・・そりゃ無いぜ・・・！」

大本命、ここに散る・・・

プルル プルルルルル

ファルコ「何だよ、今度は・・・！」

ゼルダ「えつ・・・!?」第1体育館付近にてソニック・ザ・ヘッジホッグ確保「・・・！」

アイク「うわーっ！一本命捕まつた！マジで！？」

その頃、フォックスが情報処理センターに到着。

フォックス「この中に鍵があるのか？」

中に入り、鍵を探す。

フォックス「一寸待て・・・まさかこれじゃねえよな・・・？」

彼が見つけたのは、20本ほどの鍵の束。無論この中の一つが箱を開ける物だ。

フォックス「マジかよ・・・！開けてる間に絶対見つかるじゃねえかよ・・・！そんな事言つてる場合じゃねえ・・・あと3分半だ・・・！急がねえと・・・！」

賞金減額まで 3分30秒

フォックス 鍵獲得

この鍵で箱を開け、中に入っているお守りで元スマブラメンバーを正気に戻さなければならぬ。

このままマジックショーンをクリア出来なければ、1秒当たりの賞金が100円から10円になり、逃げ切った場合の賞金は84万円から62万4千円に減額されてしまう。

間に合うのか！？

賞金減額阻止へ！（後書き）

大本命も捕まり、波乱を迎える逃走中！

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・マルス・アイク・ピカチュウ・ネス・ヨッシー・カービィ・スネーク・ゼルダ・ファルコンの11人

迫るタイムコマット(前書き)

刻一刻と迫る賞金減額・・・

逃走者は無事、元スマブラメンバーを正気に戻せるのか!?

迫るタイムコマッシュア

牢獄

デデデ「おっ。元大本命がやつて來たぞい」

ソニック「はあ～・・・最悪だぜ・・・」

マリオ「まあ、まあ・・・旅の話は牢獄の中で」

ソニック「屈辱だな～・・・」

入獄するハリネズミ。

ピット「残り人数が、全体の3分の1切っちゃったね」

リュカ「ハンター7体だった時から、捕まるペース早かつたもんね」

ワリオ「こりゃあ、全滅有り得るかもな～・・・」

メタナイト「あんまり縁起でもない事を口にするんじゃない、ワリオ」

ワリオ「分かってるけどさ・・・」

ドンキー「でもさ・・・ホントに牢獄つて、何もする事無いね～」

ディディー「しじうがないよ・・・捕まつたらそりつ運命になるんだからさ・・・」

クッパ「しかし、1秒100円が10円と言つのは酷い話だな」

ソーック「それだけじゃねえぞ。何せ、お守りが取れなかつたんだからな。箱の中に入れられて、尚且つ鍵が掛かつてた訳だし……」

ルイージ「ええ!? 酷過ぎじゃない! ?」

ウォッチ「元スマブラメンバーモ、酷イ形相デシタヨ」

ロボット「ソレ、一番関係無イ……」

漸^{ちひか}く保護管理センターに辿り着いたカービィ。しかし彼は、お守りを手に入れる為に鍵が必要である事を知らない。

カービィ「着いた! あれ? 誰もいない。ん? しかも何で箱が被さつてるの? あれ? あれ! ? 開かない! ええ! ?」

やはり、予想だにしなかつた事に少々取り乱している。

そこに忍び寄る黒い影……

賞金減額まで 3分

カービィ「ええ! ? ビうしたらいいの! ? ホントにビうしたらいいの! ? もう5人が目に見えるところまで来てるし! つてギャー! 」

見つかった……

ピ――――――――――

カービィ「止めてー！来ないでー！」

一目散に逃げるカービィ。彼が逃げる先にマルス・・・

マルス「あと3分切った・・・！これは行つた方が・・・えつ・・・？カービィ？ハンターが後ろに・・・！不味い！こっち来る！」

カービィに釣られてマルスも逃げる。しかし、彼が逃げる先にもハンター・・・

カービィ「嫌だ～！いいや～！」

マルス「大声出すなよ、カービィ・・・！余計見つかるだ・・・え？」

曲がり角を曲がった先でハンターと鉢合わせ。最早、逃走不可能・・・

マルス「わあー！」　ポンッ

2ndステージ残り時間42分39秒　マルス確保　残り10人

マルス「鉢合わせ・・・！何でこうなるの～？」

カービィ「ぎゃ～！ひょえ～！でゅお～！」

尚も逃げ続けるカービィ。すると・・・

ポヨンツ

マルス「へ・・・？」

カービィ「あ・・・！」

賞金減額まで 2分30秒

逃げた先にいた、確保されたマルスの足元に激突し、そのまま工学部棟駐車場まで高く飛ばされてしまったのだ。

しかし、カービィを追い掛けていたハンターは、彼を見失った様だ。これこそが本当の塞翁さいおうが馬ま・・・

カービィ「もうヤダ・・・！」

走り続けて、相当な体力を削つてしまつたピンク玉。その場に倒れてしまつた・・・

ゼルダ「えつ・・・・! ?あと2分・・・・! ?これじゃあ、間に合わない・・・・！」

ファルコン「ヤバいな・・・・! 唯一の抜け道がハンターで塞ふさがれてる・・・・! 近付けねえ・・・・！」

1stステージを逃げ切つた2人。保護管理センターまでかなりの距離がある。更に、ハンターに行く手を阻まれ、思う様に近付けない。

その頃、情報処理センターに到着したネス。しかし、鍵はもうない。

ネス「あれ？ 鍵は？ 何処？」

賞金減額まで 2分

その鍵を持っているフォックス。漸く保護管理センターに到着。

フォックス「頼む・・・！ハンター来ないでくれ・・・！」

ハンターが来ない事を祈りながら、懸命に錠前の鍵穴に合う鍵を探す狐。

ヨッシー「あれ・・・？カービィ？」

工学部棟駐車場に倒れているピンク玉を見つけた恐竜。

ヨッシー「いくら熱帯夜だからって、こんな所で寝てたら風邪引くよ？」

カービィ「疲れたんだよ〜・・・！一寸^{ちよつと}は休ましてよ〜・・・！」

寝言の様に不満を漏らすカービィ。

ヨッシー「もう〜・・・ハンター来ても知らないからね」

カービィを野放しにし、ミッショングループへ向かう。

ヨッシー「あつ、あの5人・・・！動きからも怖そうです・・・！あつ・・・！あれが保護管理センターですね？」

賞金減額まで 1分30秒

ゾンビ化している元スマブラメンバーを横目に、ヨッシーは保護管理センターへ。そこでは、フォックスが懸命に鍵を探している。

フォックス「これでもねえ・・・！これも違つ・・・！ヤバい・・・！」

ヨッシー「フォックスさん！あれ？何してるんですか？」

フォックス「今・・・お守りを出そうとしてるんだが・・・鍵がどれも合わなくて・・・！ハンター来るかも知れねえし・・・！」

ヨッシー「じゃあボク、この辺で見張つてますね？」

フォックス「ああ、頼む・・・！」

アイク「誰も動いてねえのか？ヤダな〜、1秒10円になつたら・・・！」

スネーク「こうこう時こそ、君子危うきに近寄らずといふ言葉が似合つない・・・！」

ミッショントリニティ2人。不安げなアイクとは裏腹に、スネークは何處か満足げだ。

賞金減額まで 1分

フォックス「開いた！」

漸く錠前が外された。フォックスは透明な箱を開け、中のお守りを取り出す。

フォックス「ヨッシー！お前も手伝ってくれ！」

ヨッシー「分かりました！でも……どうやって正気に戻すんですか？」

フォックス「分からねえ……！何処かに使い方が書いてある筈なんだが……ん……？」

フォックスの目に留まったのは、ソニックが手にしていた1枚の紙。その裏面に……

フォックス「あつた！これだ！」

ヨッシー「ホントですか！？」

2人はその使用方法を読む。

5人を正気に戻すには、それぞれの背中に専用のお守りを貼り付け、背中を開く様に腕を動かし、靈の逃げ道を作つてやらなければならぬ。

賞金減額まで 30秒

フォックス「急ぐぞ！もつ日の前まで来てるし！」

ヨッシー「了解です！」

2人はお守りを持つて5人に近付く。

そして、まずフォックスはロイの、ヨッシーはピチューの身体から靈を逃がす。

賞金減額まで 20秒

次に、フォックスはドクターマリオの、ヨッシーは子供リンクの身体から靈を逃がす。

賞金減額まで 10秒

最後に、フォックスがミュウツーの身体から靈を逃がした。

ミッショングクリア

5人の動きが止まつた・・・

フォックス「ヨッシー！止めた！」

ヨッシー「これは大きいですね！」

すると、5人は目覚めた様に辺りを見渡す。

ロイ「あれ・・・？お・・・俺達は一体・・・？」

子供リンク「ここ何処・・・？」

ミュウツー「全く見覚えが無い所だ・・・」

フォックス「正気に戻つた様だな」

ピチュー「フォックスしゃん……！」

ドクター・マリオ「ヨッシーまで……！」

ロイ「どうこう事だよ、『正気に戻つた』って……？」

ヨッシー「皆わん、悪霊に取り憑かれてたんですよ~。」

ピチュー「や……そつなんでしゅか！？」

子供リンク「全然覚えてない……」

フォックス「無理もねえな……まあ兎に角、皆戻つたんだ。良かつたじやねえか」

ミコウジー「それもそうだな……」

ドクター・マリオ「それじゃあ……私達は帰らしてもうおつ……」

ロイ「そうだな……帰るか」

子供リンク「帰りましょ！」

ミコウジー「やつせてもうおつ……」

ピチュー「帰るでしゅー！」

そして5人は、大学キャンパスを後にした・・・

プルル プルルルルル

ネス「メールだ・・・!!」シヨン5結果・・・！」

ファルコン「『フォックス・マクラウド、ヨッシーの活躍により賞金減額阻止成功』・・・！ヨッシャ・・・！」

ファルコ「止めたか・・・！やるな〜、フォックスも・・・！」

ピカチュウ「ヨッシーすごいね〜。ところで、カービィはっさつき近くにいた筈なんだけど・・・」

カービィ「はあ・・・ぶつかつた所が痛い・・・」

まだ倒れていた・・・

しかし・・・そんな逃走者の姿を、建物の屋上から見下ろす無数のハンター・・・

彼等の目的とは・・・!?

迫るタイムコリシート（後書き）

建物の屋上に現れた無数のハンター・・・

その正体とは！？

それは、次回明らかとなるだろう！

//ミッション6発動！（前書き）

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・アイク・ピカチュウ・ネス・ヨッシー・カービィ・スネーク・ゼルダ・ファルコンの10人

あと33分逃げ切れば、賞金84万円を獲得できる！

しかし、それを阻む驚異のミッションが・・・？

//ミシモン6発動！

工学部棟2号館の螺旋階段の陰に隠れるクールな青年。

アイク「残り時間32分20秒で・・・64万6千円！？ヤベエ・・・
・・・」
「あれ、自首もありだな・・・！」

思いがけない大金に、自首へと心が揺れる。

北門が西門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア
外へ脱出すれば自首が成立。その時点までの賞金を獲得し、ゲーム
からリタイアとなる。

ミッキー「これからも、まだミッションあるんですかね～？」

ゲームも後半となり、不安を募らせる恐竜。

彼の視線の先に、自称・疫病神のファルコン・・・

ミッキー「ファルコンさんですね、あれは。一寸話しあげてみまし
ょうかね？」

ファルコン「さあ、ミッキーがこいつ来る・・・！」逃げねえ
と・・・！」

これ以上巻き添えを増やしたくないレーサー。逃げる様にミッキー
から離れる。

ミッキー「あれ・・・どうしたんでしょうかね？」

ファルコン「もう嫌だ……」それ以上誰かを犠牲にして生きてい
たくねえ……つ！」

彼が向かつた先に、何故か待っていたぞと言わんばかりに「王立ち
するファルコの姿……」

ファルコ「また誰かを犠牲にしたくない故に、現実から逃げるつ
りか？」疫病神さんよ～」

ファルコン「お……お前……何故それを……」

ファルコ「やつき牢獄の奴らから聞いたぜ。お前、4人を巻き添え
にしたらじいな？」

ファルコン「……」

ファルコ「だが安心しろ。奴らは、お前の事を恨んじやいねえ」

ファルコン「……？」

ファルコ「寧ろ心配してたぜ。お前がこのまま、精神的に病んじま
うんじやねえかつてな」

ファルコン「お前……」

ファルコ「だから、もう卑屈になるのは止める。皆、お前のやる気
に満ちた顔を待ってるんだからよ！」

ファルコン「ファルコ……悪いな何か……情けねえ姿を曝しち
ゃう」

まつたみたいで・・・

ファルコ「何、大した事じやねえよ。じゃつ、頑張れよ」

そう一言残し、ファルコは去っていく。まるで、何かの感動ドラマの様だ・・・

ファルコン「そ^う言^いえば・・・あいつ、結構長え事話してたのに・・・ハンターが来てねえ・・・」

疫病神のレッテルが剥^はがれるのは、目前か。

工学部棟4号館の長椅子の下に潜み続けるスネーク。

スネーク「果報は寝て待て・・・ここにいれば、ハンターも気付くまい・・・」のまま逃げ切つてやる・・・」

動く気は無い様だ。

カービィ「は～あ、スッキリした」

漸^{ちじか}く立ち上がるカービィ。

カービィ「今いくらいだらう・・・? あつーもう一寸で66万円だ!^{ちよつと}
もう十分だ! もういい! 自首しよう!」

近くに北門がある為、自首へと動くピンク玉。

しかし、その近くにハンター・・・

カービィ「でも、ダイヤルキーなんだよね？番号が分からないからな～・・・」

見通しのいい、北門へと繋^{つな}がる道に足を踏み入れたカービィ。

ハンターに見つかった・・・

・・・が、カービィは気付かない・・・

カービィ「もう少し・・・もう少し・・・」

自首しか頭に無くなり、背後が隙だらけ。最早、逃走不可能・・・

カービィ「へつ？」 ポンッ

2ndステージ残り時間30分6秒 カービィ確保 残り9人

カービィ「・・・」

コテンツ ロローン ロローン

あまりにも突然の出来事に、声も出ず頭は真っ白・・・そして、そのまま失神・・・

ネス「『北門付近にてカービィ確保』・・・」

フォックス「あいつやつぱり馬鹿だ・・・！自首しか考えてなかつたから、意表を突かれたんだ・・・！」

ゼルダ「もうここまで来たら、やつぱり最後まで逃げ切りたい・・・

「逃げ切つて、女でも出来るんだってところを……運動がそんなに出来なくても、逃げ切れるんだって事を証明したい……！」

これまで、全てのミッションに積極的に参加してきた唯一の女性逃走者。狙うは、逃げ切りのみ。

一方、こちらの根性無しの男は……

アイク「70万円……最低でも70万円までは頑張ってみるかな……？」

目標金額が定まらない……

ファルコン「絶対逃げ切る……もうこれまでの事とか、全部リセットだ……！心を入れ替えて……今までの卑屈な自分とはもうおさらばだ……！」

ファルコンに励まされ、身体を奮い立たせるファルコン。

しかし、そこへ近付く黒い影……

ファルコン「もう大丈夫だ……よしつ……ん……？来たな、ハンター……！」

見つかった……

ファルコン「絶対捕まらねえぞ……！」

一目散に逃げるファルコン。しかし、逃げた先にもう1体……

「ファルコン」「うわっ…」」うちからも来やがった……」

挟まれた……

2体のハンターに追われるレーザー。逃げ切れるのか。

ピ――――――――――――――

「ファルコン」「この脇道だ！」

近くにあつた脇道を利用してし、更に逃げる。

しかし・・・逃げた先に別のハンター・・・

そのハンターと出会い頭に。最早、逃走不可能・・・

「ファルコン」「わあー！」　ポンッ

2ndステージ残り時間27分20秒　キヤプテン・ファルコン
確保　残り8人

「ファルコン」「くつそー！マジかよー！？」

「ファルコン、疫病神のレッテルが完全に剥^はがれる事は無かつた……」

ヨッシー「また確保情報です・・・！」『第1体育館付近にてキヤプ
テン・ファルコン確保』・・・！」

「ファルコン」「嘘だろ・・・!? ファルコン捕まっちゃった・・・！」

ピカチュウ「あの速いファルコンが・・・！絶対的にボク達ピンチだ・・・！」

ゼルダ「とうとう、1stステージからの生き残りが私だけに・・・サムス・・・ウォッチ・・・ファルコン・・・そして、1stステージで捕まつた皆・・・待つて・・・！あなた達の分も絶対逃げ切るから・・・！」

牢獄

レッド「『キャプテン・ファルコン確保』！」

全員「ええ～！？」

マリオ「捕まつたのかよ、ファルコン・・・！」

ガノンドロフ「もう少し頑張れよ・・・！」

ルイージ「これで、南エリアの人達は全員捕まつたのかな？」

サムス「いえ、まだゼルダが残ってるわ！彼女一人だけ！」

メタナイト「一人！？」

オリマー「すごいですよ、女性でここまで残れるなんて！」

ピット「うわ～、逃げ切つてほしい！」

ウォッヂ「私モソウ思イマス・・・！」

リュカ「でも、ネスも残つてゐるよ？」

ウルフ「フォックスとファルコもだ・・・！」

プリン「ピカチュウちゃんも残つてゐでしゅ！」

ドンキー「ヨッシーもしぶとく残つてゐ・・・！」

クッパ「もうこうなつたら、全員逃げ切つてほしいな！」

スネーク「さて・・・ハンターも追い込み掛けてきそうだな・・・
69万円行つてゐしな・・・」

プルル プルルルルル

スネーク「ん・・・?メールか・・・?」

アイク「来た・・・ミッショング・・・」

ファルコ「現在、エリア内の進入可能な建物全ての屋上に』・・・

『

ネス「『ハンターが10体ずつ、合計80体』・・・は、は、は・・
・はち・・・はちじゅ・・・80体！？」

ヨッシー「『80体のハンターが待機しており、残り10分になる

とエレベータを通じて、エリアに1体ずつ放出され続ける』・・・
続ける！？』

ピカチュウ「阻止するには、それぞれの建物の前にある高圧電流発生装置に、逃走者3人分の手形を同時に認証させ、エレベータを停止させなければならない』・・・」

ゼルダ「但し、認証させる3人の組み合わせは、全て異なっていなければならぬ』・・・』

フォックス「急ぎたまえ！』・・・きつくねえか、このミッション

ン・・・？』

MISSION？ ハンター エレベータを停止せよ！

現在、エリア内の進入可能な建物全ての屋上にハンターが10体ずつ、合計80体が待機している。残り10分になると、それぞれの建物のエレベータからハンターを1体、最大8体ずつエリアへ放出する。その後、それぞれの建物から1分に1体ずつハンターを放出。ゲーム終了までそれは続く。ハンター放出を阻止するには、それぞれの建物の前に置かれた高圧電流発生装置に、逃走者3人分の手形を同時に認証させて停電を発生させ、エレベータを止めなければならぬ。但し、それぞれの装置に認証させる3人の逃走者の組み合わせは、全て違つていなければならない。

アイク「そのエレベータから、ハンターが出てくるのか！？ヤベエ
！捕まる！外出ねえと！」

スネーク「建物内は危険つて事か・・・出るしかないな・・・』

隠れていた2人も、危険を察知して建物を去る。

エリアには4体のハンター。ミッションをクリア出来なければ、その数は最大84体に増えてしまつ。

ハンターエレベータを止める事は出来るのか！？

//ミッション6発動！（後書き）

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・アイク・ピカチュウ・ネス・ヨッシー・スネーク・ゼルダの8人

ハンター大量放出ミッションが発動！

残された逃走者は、次回どう動く！？

逃走者に迫る最大のピンチ！（前書き）

ハンター 80体投入の危機！

逃走者達は乗り越えられるのか！？

逃走者に迫る最大のピンチ！

残り10分になると、エリア内の進入可能な建物内のエレベータから、ハンターが1体ずつ放出。最大80体がエリアへ解き放たれてしまう。それを防ぐ為には、高圧電流発生装置に、逃走者3人が手形を同時に認証させなければならない。

フォックス「こんなのがやるに決まってるだろ？80体とかシャレになんねえぞ？4体でも辛いのに・・・80体も出て来られたら、完全に終わりだよ・・・！」

ヨッシー「やりましょう・・・！被害はなるべく少なくしておかないと・・・！」

スネーク「80体も出て来られたら、隠れていても無駄だしな・・・やるしかないな・・・！」

ピカチュウ「やる、やる・・・！こんなのがやらないって言つ方がおかしいじゃん・・・！」

アイク「誰かやるに決まってるだろ？俺一人がやらなくつたって、別に支障は無い訳だし・・・」

殆どの者がミッションに向かう中、動かないのはやはりアイク。

およそ13分後、最初のハンターがエリアに解き放たれる。

ネス「とりあえず、誰か探さないと。3人必要みたいだから・・・」「

他の逃走者を探す超能力少年。

ネス「電話してみようかな?」

ブルルルルル

ピカチュウ「あつ、電話だ・・・! ネスから・・・もしもし?」

ネス「もしもし、ピカチュウ? ネスだけ? 今どの辺?」

ピカチュウ「今ね・・・農学部棟4号館の近くにいるんだけど・・・」

ネス「農学部棟4号館・・・ああ、一寸遠いな^{ちょっと}・・・」

ピカチュウ「ネスは何処なの?」

ネス「ボクはね、工学部棟1号館の方なんだよ」

ピカチュウ「なるほどね・・・じゃあ、お互^に近くの人を呼び合おう」

ネス「そうだね。それじゃ」

2人は電話を切った。

ネス「誰か近くにいないのかな?」

フォックス「人数が8人だから・・・ダブらない3人の組み合わせは56通り・・・でも捕まつてつたら、どんどん少なくなるし・・・」

急がねえと・・・

ブルルルルル

フォックス「ん・・・? 誰だ・・・? ファルコか・・・! はいよ」

ファルコ「フォックス。今何処だ?」

フォックス「今な、工学部棟3号館と4号館の間の道にいるんだが・
・・」

ファルコ「おお近え、近え。じゃあ、俺そっち行くわ」

フォックス「おお。頼むぞ」

2人は電話を切つた。

フォックス「これで2人は確保したな・・・あと1人・・・」

ピカチュウ「誰か近くにいないのかな? ん・・・? あれ誰?」

ピカチュウの視界に、1つの人影・・・

ヨツシー「この辺、1番来にくい場所だから早めにやつとかないと・
・・」

ヨツシーだ・・・

ピカチュウ「ヨツシー・・・」つち、こっち・・・!

ミッキー「あつ、いましたね・・・！」

ネズミと恐竜が合流。

ピカチュウ「良かつた、近くにいて・・・！」

ヨッシー「でも、あと一人必要なんでしょう？」

ピカチュウ「そう、そう。誰がいるかな、近くに？」

2人はもう一人の逃走者を探す。

フォックス「来たな・・・！」

きつね
狐と青雉も合流に成功。

ファルコ「おい。合流したのはいいが、あと一人どうするんだ？」

フォックス「それが問題なんだよ・・・誰か近くにいねえのかな？」

スネーク「そこで何してるんだ？ 獣の2人組」

そこへ、スネークが通り掛かる。

フォックス「おつ、スネーク！ 良かつた・・・！」

ファルコ「これで役者は揃つたな」

フォックス「ああ。それで、この装置に手を置けばいいんだな？ しかも同時に」

スネーク「そうみたいだな」

フォックス・ファルコ・スネーク「せーの・・・」

3人は、工学部棟4号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。
認証にはおよそ7秒掛かる。

工学部棟4号館 認証成功

10体のハンター放出は免れた。

ファルコ「ヨッシャ！」

スネーク「この後どうするんだ？もう、この3人では認証できない
んだろう？」

ファルコ「そうだよな？」

フォックス「じゃあ、お前らは2人で、俺は1人で行動する。3人
集まり次第認証って事で」

ファルコ「気を付けるよ。捕まるんじゃねえぞ」

フォックス「言つてくれるじゃねえか。そつちもな！」

3人は別行動に移る。

あと1人の逃走者を探すピカチュウとヨッキー。

ヨッシー「ダメ?」

ピカチュウ「アイクはやらないって。どうしよう?」

そこへ通り掛かつた、1人の女・・・

ゼルダ「あそこに2人いるかしら・・・?」

ゼルダだ・・・

ピカチュウ「あつ・・・あれそうじゃない?」

ヨッシー「えつ?ホントだ・・・!」

2人は手を振つて、ゼルダに居場所を教える。

ゼルダ「あつ・・・!いる、いる、いる・・・!」

ピカチュウ「良かつた・・・!」

ヨッシー「じゃあ、認証させましょう」

ピカチュウ・ヨッシー・ゼルダ「セーの・・・!」

3人は、工学部棟4号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

農学部棟4号館 認証成功

20体のハンター放出を免れた。

ピカチュウ「ビッシュ、」これから？」

ゼルダ「もう1人呼べれば、あと3通りの組み合わせが出来るから、農学部棟が一掃出来るわ」

ヨッシー「じゃあ、誰か呼んでみますね？」

その頃、一緒に行動するファルコとスネーク。

その向かう先に、工学部棟1号館前でほかの逃走者を探しているネスの姿・・・

スネーク「おい、誰かいるぞ？」

ファルコ「ハンターか？」

ネス「ん・・・?あつ、いた・・・!おーい・・・!」

スネーク「ネスだ・・・!」

3人が合流。

しかし、その近くにハンター・・・

ファルコ「早く認証をせるぞ!」

ファルコ・ネス・スネーク「せーの・・・」

3人は、工学部棟1号館前の高圧電流発生装置に手形を認証をせる。

ピ-----

しかし、認証し終わった直後に見つかった・・・

ファルコ「おい！来たぞ、ハンター！」

一目散に逃げる3人。ハンターに追われ、3人はバラバラに・・・

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ-----

ネス「来たー！」

ネスだ・・・

ネス「うわー！」

逃げ続けるネス。しかし、その距離は徐々に無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

ネス「あうー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間16分1秒 ネス確保 残り7人

ネス「最悪だ・・・！あんな所から追い掛けて来た・・・！全然気が付かなかつた・・・」

プルル プルルルルル

アイク「え・・・？誰か捕まつたのか？」

フォックス「『工学部棟1号館付近にてネス確保、残り7人』……
うわあ、ネス捕まつた・・・！」

離れてしまった2人。

ファルコ「ヤベエ・・・！スネーケの野郎、何処行きやがった・・・
！？」

スネーケ「不味い・・・！逸れた・・・！早く合流せねば・・・！」

もう1人探し、農学部棟一掃を狙う3人。

ヨツシー「誰か来てくれないんでしょうか？」

ゼルダ「いればいいけど・・・」

ピカチュウ「近くに人影が無いもんね・・・」

そこに近付く黒い影・・・

ゼルダ「ん・・・？2人とも逃げるわよ・・・！」

ピカチュウ・ヨツシー「え・・・？」

見つかつた・・・

ピカチュウ・ヨッシー「わっ！」

別方向へと逃げる3人。ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピ――――――――――――

ヨッシー「何でこっちに来るんですか～！？」

ヨッシーだ・・・

逃げる先にフォックスの姿・・・

フォックス「ヤベエ・・・あと5分ぐらいじゃねえか・・・っ！
ヨッシー、何でハンター引き連れて来るんだー！？」

釣られて逃げる狐きつね。

ピ――――――――――――

ヨッシー「ひえ～っ！」

一目散に逃げるヨッシー。しかし、その差がどんどん無くなっていく。
最早、逃走不可能・・・

ヨッシー「ぎやぴ～！」　ポンッ

2ndステージ残り時間15分10秒　ヨッシー確保　残り6人

ヨッシー「ああ～、何でこうなるんですか～？」

フォックス「ヤベエ・・・！ヨッシー、目の前で捕まつた・・・！
どうすんだよ・・・！？」

1体目ハンター放出まで 5分

ピカチュウ「ヨッシーが捕まつた・・・！どうしよう・・・！？」
んどん減つてゐる・・・！」

スネーク「絶体絶命だな・・・！」

アイク「不味いんじゃねえか、これ・・・？」

現在、ハンターエレベータを停止出来ていない建物は5つ。このま
までは、残り10分に5体のハンターが放出され、その数は9体に
増えてしまう。

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・アイク・ピカチュウ・スネ
ーク・ゼルダの6人。ハンターエレベータを止める事は出来るのか
！？

逃走者に迫る最大のピンチ！（後書き）

次回、運命の残り10分に突入！

ハンター放出を阻止し、生き残る事は出来るのか！？

これから実家に帰省する為、更新が^{ペニーリー}滞ります。

ご了承ください

ハンター放出！？（前書き）

長らくお待たせしました！

漸く休暇が出来たため、更新します！

但し、休暇は今田と明田だけなので、その間に完結出来る様に頑張ります！

残る逃走者達は、ハンターエレベータを止め、大量ハンターの放出を防ぐ事が出来るのか！？

ハンター放出！？

ピカチュウ「どうしよう…!?」ヨッシーも捕まっちゃったし、ゼルダとも逸れちゃったし、近くに誰もいないし……」「

他の逃走者と合流出来ず、慌てふためく黄色のネズミ。

フォックス「ちくしょう…！何処なんだよ、封鎖出来てねえ建物は…！？それ以前に、他の奴ら何処にいるんだよ…！？」「…

こちらも、逃走者と出会えない狐。

ファルコ「スネークの野郎…！何処行きやがった…！？早く合流しねえと…！電話だ…！電話で呼び寄せるか…！」「…

ブルルルルル

スネーク「電話か…？ファルコ…！スネークだ…！」

ファルコ「おい、スネーク…！お前今何処にいるんだよ…！？」「…

スネーク「俺は今、北食堂の近くだ…！そつちは何処にいる？」

ファルコ「俺は…！第1体育館だ…！かなり離れちゃったか…」「…

スネーク「不味いな…！あと4分ほどしかない…！お互い他の奴らを探すか」「

ファルコ「それしか無さそうだな……じゃあな」

2人は電話を切った。

ファルコ「ちくしょう……あの時ハンターに見つからなければ、少しは楽にミッションを遂行出来てたのにな……」「

顔を顰める青雉。
しが
あおきじ

1体目ハンター放出まで 4分

その近くに、2体のハンター……

ファルコ「とりあえず、手当たり次第合流していかねえと……ん・・?あれハンターだな……?ヤベエ、来てる……!」「

見つかった……

ファルコ「捕まつてたまるか!」

一目散に逃げるファルコ。茂みを利用して、ハンターの視界から消えた様だ。

ファルコ「うじゅうじゅいるな……迂闊に動けねえよ、これ……
うかつ！」

しかし……近くにいた別のハンターに見つかった……

ファルコ「くそ、マジかよ!?

一目散に逃げるファルコ。しかし、彼が逃げた先は・・・

ファルコ「おい待て！何だこれ！？北門だ！自首の所じゃねえかよ！嘘だろ！？行き止まりかよ～！」

北門に逃げ込んでしまった青雉あおきじ。ダイヤルキーを解除する番号など分かる筈はずもなく、事実上の行き止まりに追い込まれた。最早、逃走不可能・・・

ファルコ「があ～！」　ポンッ

2ndステージ残り時間13分8秒　　ファルコ・ランバルディ確
保　残り5人

ファルコ「最悪過ぎだ・・・！何だよこれーーー？」

1体目ハンター放出まで　3分

アイク「『ファルコ・ランバルディ確保』！？嘘だろ！？『残り5人』って・・・！」

ゼルダ「ホントに絶体絶命ね・・・！」

スネーク「ん・・・？誰だ、あれは・・・？」

スネークが誰かを見つけた。

ピカチュウ「誰かいののかな～？」

ピカチュウだ・・・

スネーク「おい・・・! ピカチュウ・・・!」

ピカチュウ「びっくり吃驚した・・・! スネークか・・・」

そこへ、フォックスも合流。

フォックス「おっ、スネークいるな・・・」

ピカチュウ「あっ、フォックス君」

フォックス「おおピカチュウ」

スネーク「この3人の組み合わせでは、認証はしていないよな?」

フォックス「まだしてねえな」

ピカチュウ「じゃあ、早く探そつよ。時間無いよ?」

スネーク「そうだな。しかし、何処へ行けばいいのだろうか・・・?
?」

フォックス「おい2人とも! 工学部棟3号館、まだ止まつてねえみたいだぞ!」

ピカチュウ「いい所にあつたね!」

スネーク「よしつ!」

3人は、工学部棟3号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

工学部棟3号館 認証成功

1体目ハンター放出まで 2分

40体のハンター放出を免れた。

そこへ、ゼルダが現れた。

ゼルダ「認証した?」

ピカチュウ「今したよ!」

フォックス「4人いれば、あと3つは止められるな」

スネーク「工学部棟1号館は、ファルコとネスと共に既に終わらせた」

フォックス「工学部棟4号館も終わったな、確か」

ゼルダ「私は農学部棟4号館を、ピカチュウとヨッシーとで終わらせたわ」

ピカチュウ「農学部の方に行こうよ。あっち、まだ4号館しか認証出来ない筈だよ?」

スネーク「行くしかないな」

1体目ハンター放出まで 1分30秒

ゼルダ「でもハンターには注意しないと。あそこに結構固まってるのよ」

フォックス「そうか。でも行かなかつたらハンターが増え続けて、いずれは全滅だ。そうならない為にも、意を決して行くしかねえよ！」

ピカチュウ「そうだね」

スネーク「よしつ・・・・・！行くぞ！」

4人は農学部棟のハンターエレベータを停止させに向かう。

一方、この男は・・・

アイク「1体は仕方ないかもな・・・・でも、残つてゐる人達で何とかするだろ。俺は絶対やらねえ・・・・何体に増えようが、生き延びてやる・・・・！」

生き残る事しか考えていないクールな青年。逃走者が減つても、ミッショーンに参加する気は無さそうだ・・・

農学部棟を田指す4人。

その近くにハンター・・・

フォックス「おい、ハンターいたぞ・・・！」

ピカチュウ「嘘・・・・！」

4人は二手に分かれて逃げる。しかし、ハンターは気付いていない様だ。

フォックス「ヤベエ……！2人になっちゃったよ……！」

ゼルダ「早く呼び寄せないと……！」

離れてしまつた狐きつねと姫。

スネーク「あんな所にいるとはな……」

ピカチュウ「狡ずるいよ、ハンター……！」

そして、隠密潜入の工キスパートと黄色いネズミ。

1体目ハンター放出まで 1分

アイク「あと1分切つた……！誰も止めてねえのか……!?」

残り1分を切つても、動こうとしないアイク。

ゼルダ「私達だけでも先回りした方が……！」

フォックス「ダメだ……！万が一間に合わなかつたら、確実に捕まる……！」

彼の言う通り、建物の前まで行きハンターエレベータを停止できなければ、放出直後のハンターの餌食となる。

ゼルダ「でもこのままじゃ……！」

フォックス「分かってる……！だが悔しいけど、最初のハンターには間に合いそうにない……」

ゼルダ「そんな……！」

ピカチュウ「どうしよう……あと40秒切ったよ……？」

スネーク「最初は仕方ないな……10分を切つてから合流するしか無さそうだな……」

1体目ハンター放出まで 30秒

ピカチュウ「でも、出来るだけ建物には近付いとかないと……！」

スネーク「それもそうだな……」

フォックス「ちくしょう……！せめてアイクも参加してくれれば……！」

ゼルダ「えつ……？」

1体目ハンター放出まで 20秒

フォックス「アーヴィ、本物のビビリだよ……！俺が諭しても、ちつとも動こうとしなかったし……」

ゼルダ「酷いわね……男のくせして……！」

フォックス「仕方ねえな。建物から出てきたハンターが離れていくのをみたら、一気に建物の前に行くぞ。いいな?」

ゼルダ「OK・・・！」

1体目ハンター放出まで 10秒

ピカチュウ「厳しくなるね・・・！」

スネーク「ああ・・・だが逃げ切るまでだ・・・！」

ピカチュウ「うん・・・！」

そして、この時点では手形が認証されていない工学部棟2号館・農学部棟1～3号館のハンター工レベータから1体目のハンターが放出。合計4体が放出され、その数は8体となつた。

ゼルダ「ハンターが離れていくわ・・・！」

フォックス「よしつ、行くぞ！」

2人は一目散に農学部棟1号館へ向かう。

その姿を見たスネークとピカチュウも動き出す。

ピカチュウ「1号館！1号館の方だ！」

スネーク「急げ！あと50秒で2体目が出てくるぞ！」

そして4人が合流し、農学部棟1号館前に到着。

2体目ハンター放出まで 30秒

フォックス「俺がハンター見てるから、3人で認証しろ・・・！」

ピカチュウ・スネーク・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、農学部棟1号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

2体目ハンター放出まで 20秒

農学部棟1号館 認証成功

ピカチュウ「認証したよ！」

スネーク「このまま2号館行くか？」

ゼルダ「無理そうね。あと15秒よ？」

フォックス「2号館近くの茂みに隠れと」

3人はフォックスの提案に合意し、近くの茂みに身を隠す。

そして、この時点で手形が認証されていない工学部棟2号館・農学部棟2～3号館のハンターエレベータから2体目のハンターが放出。合計3体が放出され、その数は11体となつた。

ピカチュウ「ハンターいなくなつた・・・！」

ピカチュウの合図とともに、4人は農学部棟2号館前へ。

ピカチュウ「次はボクが見とくよ」

フォックス・スネーク・ゼルダ「セーの・・・」

3人は、農学部棟2号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

3体目ハンター放出まで 40秒

農学部棟2号館 認証成功

ピカチュウ「ハンター来たよ！」

ピカチュウが、遠くにハンターを見つけてた。

フォックス「くそつ・・・！」こんな時に・・・！」

一目散に逃げる4人。ハンターに追われ、4人の距離が離れていく。

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ――――――――――――

スネーク「俺かーー？」

スネークだ・・・

3体目ハンター放出まで 30秒

スネーク「来るなー来るんじゃねえーー！」

一目散に逃げるスネーク。しかし、ハンターとの距離が徐々に詰められていく。最早、逃走不可能……

スネーク「ぐうおお～！」 ポンッ

2ndステージ残り時間8分22秒 スネーク確保 残り4人
スネーク「逃げ切れなかつた……くそ……はあ……草臥くたび」
れた・・・

力尽きた隠密潜入のエキスパート……

プルル プルルルルル

アイク「また確保か・・・？」

ゼルダ「スネークが捕まつた・・・！」

フォックス「どうすんだよ・・・?あと4人しかいねえって・・・!
！」

ピカチュウ「このままじゃ、ホントに全滅だよ・・・！」

そして、この時点では手形が認証されていない工学部棟2号館・農学部棟3号館のハンターエレベータから3体目のハンターが放出。合計2体が放出され、その数は13体となつた。

残された逃走者に、逃げ場は殆どない……ゲーム終了まで8分を切つた。

ほとこ

生き残れるのか！？

ハンター放出！？（後書き）

次回、遂に最終回！

13体まで増えたハンター！

そして、4人の逃走者に待ち受けける衝撃的な結末とは！？

生き残るのは誰だ！？

ゲーム終了！（前書き）

遂に迎えた最終回！

現在生き残っている逃走者は、フォックス・アイク・ピカチュウ・ゼルダの4人

エリアには13体のハンター

この圧倒的不利な状況で生き残れる者は現れるのか…？

ゲーム終了！

フォックス「ハンターいるじゃねえかよ・・・！」

農学部棟3号館の近くの茂みに身を隠している狐。きつねしかし、近くに3体のハンターを見つけ、思う様に近付く事が出来ない。

ピカチュウ「早くどつか行つてよ、ハンター・・・！」

ゼルダ「全然退かないじゃない・・・！」

2人も建物に近づけず、不安を募らせる。

4体目ハンター放出まで 30秒

アイク「まだエレベータ止まってないのか・・・？」

ミッショソ成功をただ祈り続けているクールな青年。

アイク「何処が止められてないのか、メールで教えてくれてもいいんじやねえか？全然メール来ねえぞ？」

4体目ハンター放出まで 20秒

ピカチュウ「早くしないと、また放出されちゃう・・・！でも、ハンター多過ぎて全然動けない・・・！」

ゼルダ「諦めたくないけど・・・こんなに多くちゃ行き辛い・・・！」

「！」

4体目ハンター放出まで 10秒

フォックス「くそ・・・！」のまま俺達は、ただハンターが放出され続けるのを見てる事しか出来ねえのかよ・・・？」

歯^は痒^{がゆ}くなる3人。

そして、4体目のハンターが放出。更に2体増え、その数は15体に。

牢獄

オリマー「まだ全部止まってないんでしょうか？」

ネス「止まってないかも・・・」

ファルコン「向こうに4体いたしな」

ガノンドロフ「10体以上になってるんじゃねえのか？」

プリン「だとしたら、ホントに不味いでしゅー」

ワリオ「ヤバイ・・・！俺様の予言が当たつてしまつのが・・・？」

マルス「全滅にはなつてほしくないな・・・！」

ピット「誰かには生き残つてほしい！」

ルイージ「そうだよね」

ウォッчи「何トシテテモ残ツテホシイデス・・・！」

ウルフ「誰でもいいから逃げ切れ！絶対だぞ！」

フォックス「おい・・・！ピカチュウ・・・！ゼルダ・・・！早く
来い・・・！」

ハンターを警戒し、農学部棟3号館前に2人を呼び寄せるフォックス。
それに気付き、2人も警戒しながらフォックスの許へ。

フォックス「早く認証を・・・！」

ゼルダ「分かつてる・・・！」

5体目ハンター放出まで 30秒

フォックス・ピカチュウ・ゼルダ「せーの・・・！」

3人は、農学部棟3号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

しかし、近くにハンター・・・

フォックス「OK・・・！」

ゼルダ「もうこれが限界ね・・・」

ピカチュウ「そつかもしれな・・・あつ！ハンターだ！」

ゼルダ「嘘でしょ！？」

フォックス「やつぱりハンター多過ぎるぜー。」

見つかった・・・

一目散に逃げる3人。

5体目ハンター放出まで 20秒

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ――――――――――――

ピカチュウ「こっちに来たーうわあー！」

ピカチュウだ・・・

逃げ続けるピカチュウ。何と言つ事が、ハンターを振り切つてしまつた。

ピカチュウ「しんどい・・・きつ過ぎるよ・・・！」

しかし、別のハンターを見つかった・・・

ピカチュウ「うわっ！また来た！」

一目散に逃げるピカチュウ。

逃走者にとって、最早この大学キャンパスに安息の地など存在しない。

5体目ハンター放出まで 10秒

ピカチュウ「もう・・・声も出ない・・・！」

息切れ寸前の黄色いネズミ。彼が逃げる先は・・・

未だハンター工レベータを止められていない工学部棟2号館。

そこから5体目のハンターが放出。ハンターの数は合計16体に。
そして、知らずに逃げ込んだピカチュウは、放出直後のハンターと
鉢合わせに。最早、逃走不可能・・・

ピカチュウ「わああ～！」 ポンッ

2ndステージ残り時間5分56秒 ピカチュウ確保 残り3人

ピカチュウ「中からハンター出てきた・・・最悪・・・ハンター多
過ぎるよ・・・もつダメ・・・」

その場に倒れこむボロボロのネズミ・・・

ゼルダ「ピカチュウが……確保された……！」

フォックス『『残り3人』……もう無理だ……止まつてない所があつても、もう止められねえ……』

ピカチュウの確保を遠くから見ていたアイクは……

アイク「あそこが止まつてないのか……？だとしたら、あと2人を呼んで止めるしかないな……！」

工学部棟2号館のハンターエレベータが止まつてないと確信し、フォックスとゼルダを呼び寄せる事に。急遽ミニッシュヨンクリアへと動く。

ブルルルルル

フォックス「ゼルダか……？えつ……？アイク……？どうした、アイク？」

アイク「フォックスか？工学部棟2号館に来てくれ

フォックス「どういう意味だ？」

アイク「残つてる3人で、2号館のエレベータを止めよう！」

フォックス「参加してくれるのか？」

アイク「このままじゃ全滅だろ？だつたら、やるつきやねえよ！」

フォックス「助かるぜ！じゃあ、ゼルダを誘つてそつち行くぞ！」

アイク「頼む！」

2人は電話を切った。

フォックス「やっとミッションに参加してくれる気になつたようだな・・・！」

そこへ、ゼルダが現れた。

フォックス「おっ、ゼルダ！工学部棟2号館に行くぞ！」

ゼルダ「えっ？」

フォックス「今アイクから電話があつて、2号館が怪しこそててたんだ。だから、ひょっとしたらハンターを食い止められるかもしれないぞ」

ゼルダ「ホントに？ だったら、善は急げね。急ぎましょう！」

フォックス「ああ！」

6体目ハンター放出まで 30秒

アイクの許もとへ急ぐフォックスとゼルダ。間に合つのか。

アイク「これで誰か捕まつたら、もう全滅は確定的だな・・・！」

不安を露あらわにするアイク。

6体目ハンター放出まで 20秒

ハンターの田を搔い潜り、工学部棟2号館へと急ぐ狐姫。

ゼルダ「あつちこっちにいるわね、ハンター……」

フォックス「こいつあ、止めても相当過酷なものになるな……」

6体目ハンター放出まで 10秒

アイク「まだ来ねえのか……？ヤバイな……！一旦隠れるか

タイムリミットが迫り、近くの物陰に身を隠す。

そして、工学部棟2号館から6体目のハンターが放出。ハンターの数は合計17体。

ゲーム終了まで 5分

アイク「ん……？あそこにはるのは……？」

2つの人影を見たクールな青年。その正体は……

アイク「来た……おい……こっちだ……」

フォックス「アイクだ……」

ゼルダ「良かつた……捕まつてないみたいね……！」

そして3人は、工学部棟2号館前に到着。

フォックス・アイク・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、工学部棟2号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

工学部棟2号館 認証成功 ミッショングクリア

フォックス「ヨシシヤ・・・!」これで全部止めたぞ・・・!」

ゼルダ「しんどかった・・・!」

アイク「初めて仕事出来て良かつた」・・・!」

ゼルダ「じゃあ、皆バラバラで・・・!」

アイク「ああ・・・絶対逃げ切ろうな・・・!」

フォックス「当たり前だ・・・!」

牢獄

レッド「あつ!メール来たー!ミッショング結果だ!」

リュカ「どうなったの?」

レッド「『ミッショングクリア。全てのハンターエレベーターが停止。しかし、13体のハンターが放出され、その数は合計17体』!」

レッド以外「17体！？」

ファルコ「多過ぎだろ！？」

マリオ「過酷だな～・・・！」

デデデ「だが、残り4分だぞい！」

ゲーム終了まで 4分

リンク「いや～、逃げ切つてほしい！」

ヨッシー「皆さん、頑張ってください！」

フォックス「17体か・・・！絶対ヤバイ・・・！」

アイク「もう動かない方がいいな・・・！動いたら確実に見つかる。
・・！」

ゼルダ「もう早く終わって・・・！捕まりたくない・・・！」

残る逃走者は3人。対するハンターは17体。

フォックス「このゲーム・・・スターフォックスの任務以上にきついな・・・！」

持ち前のフットワークを生かし、積極的にミッションに参加してきたフォックス・マクラウド。

ゼルダ「完全逃走成功まで・・・あと少し・・・！」

唯一1stステージから勝ち上がり、ここまで生き延びてきたゼルダ。

アイク「絶対捕まりたくないねえ・・・！捕まつたら恥だよ・・・！」

ハンターに怯えながらも、最後のミッションに貢献したアイク。

ゲーム終了まで 2分

賞金は83万円に届いていた。

エリアでは、17体のハンターが逃走者を捜索。

アイク「もう建物の中には入れないな・・・！」で見張りつつ・・・
！」

工学部棟駐車場に身を隠すアイク。

近くにハンター・・・

アイク「ヤバイ・・・いるな・・・！」

ハンターを叩きし、その場を離れる。

しかし、ハンターは気付いていない。

尚も逃げ続けるアイク。

ゲーム終了まで 1分30秒

しかし・・・逃げる先に別のハンター・・・

アイク「こんなところで捕まつてたまるか・・・！絶対に・・・！
つて嘘だろー！？」

見つかつた・・・

アイク「ヤバイ！絶対的にヤバイ！」

一目散に逃げるアイク。しかし・・・

アイク「うわあ～！こっちからも2体来たー！」

方向転換し、脇道へと逃げる。

アイク「ヤベエ！逃げ道が無さ過ぎるー！」

気が付けば、8体のハンターがアイクに狙いを定めていた。

ゲーム終了まで 1分

アイク「何だこれ！？こんなアリかよ！？」

ゲーム終了目前で、大量ハンターに囮まれた・・・

めげずにハンターを搔き回すアイク。しかし多勢に無勢。最早、逃走不可能・・・

アイク「うおわ～っ！」 ポンッ

ポンッ

2ndステージ残り時間47秒

アイク確保 残り2人

アイク「くそ～・・・！84万円目前だったのに・・・！あんなの
ナシだよ～・・・！」

牢獄

レッド「『アイク確保。残るはフォックス・マクラウド、ゼルダの
み』！」

マルス「アイク・・・捕まつたのか」・・・

ナナ「でもあと30秒よ！」

ゲーム終了まで 30秒

ポポ「もう捕まんないで！お願いだから！」

ゼルダ「ハンター来ないで・・・！逃げさせて・・・！」

フォックス「もう絶対捕まらねえ・・・！」

ゲーム終了まで 20秒

しかし、2人ともハンターに見つかった……

ゼルダ「来た！」

フォックス「ヤバイ！」

一目散に逃げる2人。逃げ切れるのか。

牢獄

全員「13！・・・12！・・・11！・・・10！」

フォックス「9！・・・8！・・・7！」

ゼルダ「6！・・・5！・・・4！」

牢獄

全員「3！・・・2！・・・1！」

ゲーム終了

フォックス・マクラウド、ゼルダ 逃走成功 84万円獲得

フォックス「ヨッシャー！逃げ切つたぞー！」

ゼルダ「ホントに！？逃げ切つた！？ヤッタ……スゴイ……！信じられない！」

レッド「『フォックス・マクラウド、ゼルダ逃走成功。賞金84万円獲得』！」

レッドからの報告で、牢獄の者達も大喝采。

そして、暫くしてフォックスとゼルダが牢獄に到着。

プリン「2人ともすごいでしゅ！」

ルカリオ「17体相手に良く逃げ切れたな！」

フォックス「ああ……！でもしんどかったよ……！」

サムス「ゼルダなんか、140分間完全に逃げ切ったものね」

ファルコン「ホントだよな～」

ゼルダ「自分でも吃驚よ……！」

そして、逃走成功した2人は牢獄前の箱の南京錠を解き、中の84万円の札束を手に取つた。

フォックス「84万円獲つたぞー！」

ゼルダ「140分間逃げ切つたわ！」

牢獄の者達「おめでとうー！」

ゲーム終了！（後書き）

いかがでしたでしょうか？

自分でも、良くここまで書けたなと思っています（笑）

感想をどんどんお待ちしています！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9420m/>

スマプラ×逃走中in大学キャンパス

2011年9月1日13時54分発行